

2025

授業計画

Syllabus

宝塚大学 看護学部



2025 年度 授業計画(SYLLABUS)

目 次

看護学部 of 教育方針	3
ディプロマ・ポリシー到達度ルーブリック	6
シラバスについて	7
2025 年度 学年暦	8
卒業要件	9
教育課程	10
履修モデル	12
2025 年度 実務経験のある教員による授業科目一覧	13
2025 年度授業科目・担当者一覧表	15
授業科目	17
I 基礎分野	19
II 専門基礎分野	59
III 専門分野	87
IV 専門分野(臨地実習科目)	135

看護学部教育方針(2022 年度以降入学生)

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、人々の健康問題の解決に向けて、保健・医療・福祉を統合した看護を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使し専門職として、看護学の発展に自律的・創造的に探求できる人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 人間に対する豊かな感性と深い関心をもち、
生命の尊厳に基づく倫理観を培い人間を尊重する態度を養う。
- (2) 個人や集団の健康問題を的確に判断し、
生活の質の向上を目指した看護を創造的に実践できる能力を養う。
- (3) 看護専門職としての社会的責任を自覚し、
他領域の専門職と連携・協力・調整して問題解決するためのリーダーシップを発揮する能力を養う。
- (4) 看護の実践・教育・研究の発展に資することのできる能力を養う。

「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

以下の能力を備えた受験生を、各種選抜試験を通して入学させる。

1. 知識・理解

- ・ 入学後の就学に必要な基礎学力を有している。
- ・ 高等学校で履修する国語、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。

2. 思考・判断

さまざまな問題に立ち向かい、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

3. 関心・意欲

人間の生命と健康に深い関心を持ち、積極的に社会に貢献する意欲がある。

4. 態度

豊かな感性と誠実な態度で、積極的に他者と関わることができる。

5. 意欲

看護学を主体的・創造的に学ぶ意欲を有している。

6. 表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

「教育編成・実施方針」(カリキュラム・ポリシー)

教育理念、教育目標を基盤に打ち出したアドミッション・ポリシーを基盤に置き、ディプロマ・ポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とするため、5つのカリキュラム・ポリシーを策定する。カリキュラムは、基礎分野、専門基礎分野、専門分野に大きく分類し、それぞれの科目内容の持つ教育的な性格、位置づけを明確にし、科目配列の順序性は、体系だった理解が容易になるための配列、時間数を配置する。

1. 基礎分野は、教養としての位置づけと、専門基礎科目を理解していく基盤とする。

人間を理解していく教育内容を「人間と科学」「人間と社会」「人間と文化」「人間と語学」に分類し科目内容を構築する。加えて人間が生活をしていく中で必要な社会性、および学びを深めるために必要な能力として、読む・書く・聞く・話すなどの能力を身につけるために必要な教育内容とする。

2. 専門基礎分野は、専門科目の内容理解の基盤とする。

必要な教育内容を「人間の理解」「健康と疾病の理解」「関係の発展」に分類し、科目内容を構築する。人間を心身両面から理解するために必要な科目と社会や医療を幅広く理解する科目を配置する。

3. 専門分野の教育内容の中心概念として、「看護実践力の育成」をおく。

専門分野は、「看護とアート」「看護の基礎」「看護の発展」「看護の実践」「看護の統合」に分類する。「看護とアート」では、癒しと芸術について、人間の内なる自然力を回復させるアートの可能性について学ぶ科目を配置する。「看護の基礎」では、看護実践の基盤となる科目を配置した。「看護の発展」では、対象の発達段階、看護の場、看護の機能の特徴から 6 領域(地域・在宅看護論、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、)に分け、それぞれの領域ごとに科目を構築する。「看護の実践」では、9領域の看護学実習科目を配置する。「看護の統合」では、学生が主体的にキャリア能力を持続的に育成し続ける学修力育成に必要な科目を配置した。

4. 学生が効率的に学修でき、成果が上がることを目指して、基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容を精選したうえで、必要最小限の教育内容とする。

5. 本カリキュラムにより取得できる看護職のキャリアは、看護師国家試験受験資格である。

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

本学部は、所定の卒業要件単位を修得し、建学の精神である「芸術と科学の協調」を理解し、次のような能力を備えたうえで、看護学の知識・技術を用いて社会に貢献できる学生に対し、卒業を認定し学位を授与する。

1. 主体的行動力

- 自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。

2. 表現力

- 看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえでの確に発信することができる。

3. 社会貢献力・コラボレーション力

- 自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。

4. 課題発見力・課題解決力

- 看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探求し、その成果を基に主体的に実践することができる。
- 看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。

5. コミュニケーション力

- 自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。

6. 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)

- 看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
- アートを生かした癒しの看護が実践できる。
- 多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
- 人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

ディプロマ・ポリシー到達度ルーブリック

項目		レベルⅠ	レベルⅡ	レベルⅢ	レベルⅣ	
主体的行動力	自らの目標を設定し、それを達成するために主体的且つ意欲的に行動することができる。	(1) 卒業時の自分についてのゴールとビジョンを設定することができない。	卒業時の自分についてのゴールとビジョンを設定することができる。	ゴールとビジョンを具体化し、達成に向けて計画を立てることができる。	ゴールとビジョンの達成にむけて、主体的に情報収集し、意欲的に取り組むことができる。	卒業後の自分の姿を思い描き、ビジョンの実現に向けて、プランを構築することができる。
		(2) 看護を中心に保健・福祉分野にも広く関心を持って、授業や実習に主体的に参加できない。	看護を中心に保健・福祉分野にも広く関心を持って、授業や実習に主体的に参加できる。	看護への関心を広げ、多様な場で活躍する看護職について意欲的に情報を集めることができる。	就職に向けた情報収集やインターンシップへの参加を計画的に行うことができる。	卒業に向けて看護研究や国家試験の学習に主体的に取り組み、思い描いてきたゴールとビジョンを達成できる。
表現力	看護の対象者の声に耳を傾け、自分の考えを学修によって獲得した知識や技能を駆使して口頭や文章によって表現し、社会の規範を遵守したうえで的確に発信することができる。	(1) 学修した知識や技術を活用し、レポート作成や口頭発表をすることができない。	学修した知識や技術を活用し、レポート作成や口頭発表をすることができる。	学修した知識や技術を活用し、自分なりの考えを矛盾なく表現することができる。	論理的にものごとを考えて言語化、図式化して自己の考えを主張できる。	事象の因果関係を論理的に整理、可視化したうえで、事象の真因となる仮説を複数設定し、適切に提示できる。
		(2) SNS研修などを受講して個人情報保護し、規則を遵守した表現の必要性が理解できない。	SNS研修などを受講して個人情報保護し、規則を遵守した表現の必要性が理解できる。	基本的な社会の法令やルールを理解し、倫理的に問題があること、問題のないことの判別ができる。	基本的な社会の法令やルールを遵守し、倫理的に問題があること、問題のないことを判別した表現ができる。	自己を律し、社会規範に則った、適切な方法で思考を的確に発信できる。
社会貢献力・コラボレーション力	自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。	(1) 課外活動に興味を持てず、積極的に参加することができない。	課外活動に興味を持ち、積極的に参加することができる。	社会貢献のための情報発信など身近な活動を日々の中で実行できる。	ボランティア活動など、社会貢献のために積極的に行動できる。	自己と異なる考えや多様な人と協働し、獲得した知識や技術を用いて、社会のために積極的に行動し、貢献することができる。
		(2) チームで連携する必要性を理解できない。	チームで連携することの必要性を理解している。	チームで連携し学習活動を進めることができる。	医療チームの一員として求められる基本的な報告・連絡・相談ができる。	チーム医療について理解し、医療チームの一員として連携して看護活動することができる。
課題発見力・課題解決力	看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探索し、その成果を基に主体的に実践することができる。	(1) 学習の中で、疑問を持つことがない。	発問を受けることにより疑問をもつことができる。	新しい出来事を経験した時に、その出来事に対して自ら疑問をもつことができる。	さまざまな看護の現象に対して自ら疑問を持ち、その疑問を解決できる。	看護現場にある様々な問題や課題を発見し、その解決のための方法を探索し、その成果を基に主体的に実践することができる。
		(2) 複雑な事象を整理して考えることができない。	複雑な事象を整理して考えることができる。	複雑な事象を整理し、筋道を立てて構造を考えることができる。	複雑な事象を整理し、本質を見出した上で、その構造を理解できる。	複雑な事象の本質と構造を理解するために筋道を立てて考えることができる。
	看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力と基礎的な研究能力を有する。	(3) 目の前で起きている現象から現状を把握できない。	目の前で起きている現象から現状を把握し、文献などを参考に課題となることを考えることができる。	目の前に起きている現象に対して、課題を明確にし、研究的な視点から考えることができる。	研究課題を把握し、実施可能な方法を考え、計画をたてることができる。	看護の発展に寄与できるよう、学術的に研究を計画するための基礎的な研究能力を有している。
		(4) 自己の能力・性質を客観的に把握できない。	自己の能力・性質などを把握できる。	設定した目標を達成するために、自己の能力・性質などを高めようと努力している。	設定した目標を達成するために、自己の能力・性質などを高めようと継続して努力している。	看護の発展に寄与できるよう、自己研鑽力を有している。
コミュニケーション力	自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることができる。	(1) 相手に興味・関心を持たず、自分の考えを伝えることができない。	相手に興味・関心を持ち、自分の考えを伝えることができる。	相手の理解度に応じて、自分の考えの表現を変えられることができる。	チームでの活動で主体的に発言し、他者からの意見や助言をもとにディスカッションできる。	自身の考えを論理的に表現、発信し、他者と考えを交流させることで、目的を達成するための合意を形成することができる。
		(2) 相手を尊重したマナーの必要性が理解できない。	相手を尊重したマナーの必要性がわかる。	看護の学習者として求められるマナーを身につけ、節度ある行動をとることができる。	相手を尊重し、場にふさわしい言葉遣いや立ち振る舞いができる。	看護チームの一員としての接遇マナーを身につけ、看護の対象やチームメンバーを尊重した関わりができる。
専門的知識・技能の活用能力 (看護実践力)	看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。	(1) 看護の対象となる人々を総合的に理解するための基礎的知識を身につけることができる。	看護の対象となる人々を総合的に理解するための基礎的知識を身につけることができる。	身につけた基礎的知識を基に、専門科目も統合させ、総合的に看護の対象を理解することができる。	基礎科目、専門科目を踏襲し、クリティカルシンキングで看護の対象について考えることができる。	看護の対象となる人々を身体・心理・社会的な面から総合的に理解するため、豊かな教養と学問への探究心を備え、専門的な知識技術を修得している。
	アートを生かした癒しの看護が実践できる。	(2) アートに関心を持たず、取り組むことができない。	アートに関心を持ち、取り組むことができる。	アートを生かした癒しの看護を提供する意味が理解できる。	看護計画にアートを生かしたケアを組み入れることができる。	アートを生かした癒しの看護が実践できる。
	多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。	(3) 対象の療養生活における問題やその意味に気づくことができない。	対象の療養生活における問題やその意味に気づくことができる。	臨床判断に至るまでの経過を、助言を得ながら考えることができる。	特定の看護課題に対し、自身の臨床判断の過程について科学的根拠に基づき説明できる。	多様な場における対象の看護課題に対し、科学的根拠に基づく判断ができ、解決するための実践ができる。
	人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。	(4) 身近に接する異なる考えを持つ人々を理解することができない。	身近に接する異なる考えを持つ人々を理解することができる。	自己と異なる価値観を持つ人々と、良好な関係を構築することができる。	話し合いの場において、他者との関係を構築し、異なる意見を尊重しつつ、自身の倫理観に基づく発言ができる。	人間の尊厳に基づく倫理観を有し、人々の多様な価値観を尊重する姿勢を身につけている。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で 45 時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。（大学設置基準第 21 条）

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30 時間	30～15 時間
実験・実習	30～45 時間	15 時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。

「STUDENT GUIDE BOOK 2025」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け目標を掲げていることでしょう。それぞれの進路に合わせ、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2025 年4月1日

宝塚大学
看護学部

2025(令和7)年度 学年暦

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考	
2025年4月			1	2	3	4	(5)	4/1～4 ガイダンス期間 4/4 前期履修届提出締切日	10月				1	2	3	4	10/13 平常授業実施	
	(6)	7	8	9	10	11	12	4/5 入学式(大学施設閉館) 4/7 前期授業開始		(5)	6	7	8	9	10	11		
	(13)	14	15	16	17	18	19	4/14～4/16 履修登録修正期間		(12)	(13)	14	15	16	17	18		
	(20)	21	22	23	24	25	26			(19)	20	21	22	23	24	25		
	(27)	28	(29)	(30)				4/29 平常授業実施		(26)	27	28	29	30	31			
5月					(1)	(2)	(3)	臨地実習(5月～7月)4年次生 5/23 創立記念日(平常授業実施)	11月							1	11/3 平常授業実施	
	(4)	(5)	(6)	7	8	9	10			(2)	(3)	4	5	6	7	8	11/6 大阪国際空港航空機事故訓練(仮)	
	(11)	12	13	14	15	16	17			(9)	10	11	12	13	14	15		
	(18)	19	20	21	22	23	24			(16)	17	18	19	20	21	22		
	(25)	26	27	28	29	30	31			(23)	(24)	25	26	27	28	29	11/24 平常授業実施	
6月								総合実習(6/16～7/11のうち2週間)4年次生	12月			1	2	3	4	5	6	年末年始休業(12/29～1/4)
	(1)	2	3	4	5	6	7			(7)	8	9	10	11	12	13		
	(8)	9	10	11	12	13	14			(14)	15	16	17	18	19	20		
	(15)	16	17	18	19	20	21			(21)	22	23	24	25	26	27		
	(22)	23	24	25	26	27	28			(28)	(29)	(30)	(31)					
7月			1	2	3	4	5	7/21 平常授業実施 7/26 前期授業終了 7/28～8/2 前期定期試験	2026年1月					(1)	(2)	(3)	1/15 後期授業終了 1/13～14 補講日 1/16～1/22 後期定期試験 1/23 基礎看護学実習Ⅱオリエンテーション 2年次生 1/23～24 4年次生 後期追・再試験 基礎看護学実習Ⅱ(1/26～2/27のうち3週間)	
	(6)	7	8	9	10	11	12			(4)	5	6	7	8	9	(10)		
	(13)	14	15	16	17	18	19			(11)	(12)	13	14	15	16	17		
	(20)	21	22	23	24	25	26			(18)	19	20	21	22	23	24		
	(27)	28	29	30	31					(25)	26	27	28	29	30	31		
8月						1	2	8/4 基礎看護学実習Ⅰオリエンテーション 1年次生 8/4～8/8 補講期間 夏季休業(8/10～17) 8/20～8/23 前期追・再試験 基礎看護学実習Ⅰ(8/25～9/5のうち1週間) 8/25～29 看護とアート実習	2月	(1)	2	3	4	5	6	7		
	(3)	4	5	6	7	8	9			(8)	9	10	(11)	12	13	14		
	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)			(15)	16	17	18	19	20	21		
	(17)	18	19	20	21	22	23			(22)	(23)	24	25	26	27	28		
	(24)	25	26	27	28	29	30											
9月		1	2	3	4	5	6	9/13 宝翔祭(準備日) 9/14 宝翔祭 9/15 宝翔祭(片付け予備) 9/16～18 後期ガイダンス 9/17 9月卒業生学位記授与式(予定) 9/18 後期履修届提出締切日 9/20 後期授業開始 9/23 平常授業 9/29～10/1 履修登録修正期間 臨地実習(9月～3月)3年次生	3月	(1)	2	3	4	5	6	7	3/2～5 1・2年次生 後期追・再試験 3/7or14 学位記授与式(大学施設閉館) 次年度ガイダンス及び健康診断 (3/16～31の間のいずれかに設定予定)	
	(7)	8	9	10	11	12	(13)			(8)	9	10	11	12	13	14		
	(14)	(15)	16	17	18	19	20			(15)	16	17	18	19	(20)	21		
	(21)	22	(23)	24	25	26	27			(22)	23	24	25	26	27	28		
	(28)	29	30							(29)	30	31						

曜日別の授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期		15	15	15	15	15	15
後期		15	15	15	15	15	15

	... 授業日		... 祝日(平常授業実施日)
	... 定期試験		... 日曜・祝日(休業日)
			... 大学施設閉館日

卒業要件

本学を卒業するためには4年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

看護学部 看護学科

2022 年度以降入学生

基礎分野	27 単位	以上
専門基礎分野	30 単位	以上
専門分野	71 単位	以上
計	128 単位	以上

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバーを付番しています。科目ナンバーは以下の規則によって付番されています。

科目領域		レベル		科目形式			科目番号(連番)	
KGE=基礎分野 KSB=専門基礎分野 KSP=専門分野	+	1=1 年次レベル 2=2 年次レベル 3=3 年次レベル 4=4 年次レベル	+	1=必修 2=選択必修 3=選択	+	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習	+	01～99

アクティブラーニングの種別について

アクティブラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブラーニングの種別を数字で授業計画 AL 欄に載せています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他(上記1~5に当てはまらないアクティブラーニング)

教育課程(2022年度以降入学生)

区分		授業科目	科目ナンバー	配当 年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
基礎分野	人間と科学	看護とサイエンス	KGE11101	1前	1		30	必修4単位	選択12単位以上 ※選択必修科目群より 選択することも可	必修12単位 選択必修3単位以上 選択12単位以上 合計27単位以上
		心理学への招待	KGE13101	1後		2	30			
		統計学入門	KGE11201	1後	1		30			
		ヒトと生物学	KGE11102	1前	2		30			
		環境と生態	KGE13102	1前		2	30			
		化学	KGE13103	1前		2	30			
		映像表現の理論と実践	KGE23101	2前		1	30			
	人間と社会	キャリア教育Ⅰ	KGE11103	1前	1		30	必修6単位		
		キャリア教育Ⅱ	KGE21101	2前	1		30			
		人間関係概論	KGE11104	1前	2		30			
		発達心理学	KGE23102	2前		2	30			
		家族社会学	KGE11105	1後	2		30			
		地域・福祉・ボランティア	KGE13104	1後		2	30			
		ジェンダー論	KGE23103	2後		2	30			
		ダイバーシティと共生	KGE23104	2前		2	30			
	医療ジャーナリズム論	KGE23105	2後		2	30				
	法律入門	KGE13105	1前		2	30				
	人間と文化	デッサンと表現	KGE13201	1後		1	30	—		
		茶道と香道の理論と表現	KGE12201	1前		1	30	選択必修 1単位		
		生け花の理論と表現	KGE12202	1前		1	30			
		書芸術の理論と表現	KGE12203	1前		1	30			
	人間と語学	英語Ⅰ	KGE11301	1前	1		30			
		英語Ⅱ	KGE11302	1後	1		30			
		英会話Ⅰ	KGE12301	1前		1	30	選択必修 2単位		
		英会話Ⅱ	KGE12302	1後		1	30			
		英語Ⅲ	KGE22301	2前		1	30			
		英語Ⅳ	KGE22302	2後		1	30			
		フランス語Ⅰ	KGE12303	1前		1	30			
		フランス語Ⅱ	KGE12304	1後		1	30			
		中国語会話Ⅰ	KGE12305	1前		1	30			
		中国語会話Ⅱ	KGE12306	1後		1	30			
		韓国語Ⅰ	KGE12307	1前		1	30			
		韓国語Ⅱ	KGE12308	1後		1	30			
		イタリア語Ⅰ	KGE12309	1前		1	30			
		イタリア語Ⅱ	KGE12310	1後		1	30			
		ドイツ語Ⅰ	KGE12311	1前		1	30			
		ドイツ語Ⅱ	KGE12312	1後		1	30			
専門基礎分野	人間の理解	医療行動科学	KSB13101	1後		2	30	必修5単位	選択6単位以上	必修24単位 選択6単位以上 合計30単位以上
		死生学	KSB23101	2前		1	15			
		癒しと芸術	KSB11101	1前	2		30			
		栄養と健康	KSB11102	1後	1		30			
		医療概論（生命倫理）	KSB11103	1後	2		30			
		医療人類学	KSB23102	2前		2	30			
	健康と疾病の理解	人体構造機能論Ⅰ	KSB11104	1前	1		30	必修16単位		
		人体構造機能論Ⅱ	KSB11105	1前	1		30			
		人体構造機能論Ⅲ	KSB11106	1後	1		30			
		病態治療学Ⅰ	KSB11107	1後	2		30			
		病態治療学Ⅱ	KSB21101	2前	2		30			
		病態治療学Ⅲ	KSB21102	2前	2		30			
		生化学	KSB21103	2前	1		30			
		臨床薬理学	KSB21104	2前	1		30			
		感染と免疫	KSB11108	1後	1		30			
		疫学・保健統計	KSB21201	2後	2		30			
		公衆衛生学	KSB21105	2前	1		30			
		運動と健康Ⅰ	KSB13301	1前		1	30			
		運動と健康Ⅱ	KSB13302	1後		1	30			
		衛生関係法規	KSB21106	2前	1		30			
		関係の発展	情報処理Ⅰ	KSB11201	1前	1				
	情報処理Ⅱ		KSB13201	1後		1	30			
	社会保障と福祉		KSB21107	2後	2		30			
	医療と経済		KSB23103	2後		2	30			
	臨床心理学		KSB23104	2前		2	30			

区分		授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	備考		
					必修	選択		必修	選択	卒業要件
専門分野	看護とアート	看護とアートⅠ（治療環境とアメニティ）	KSP11201	1後	1		30	必修2単位		
		看護とアートⅡ（治療環境とアメニティ）	KSP21201	2後	1		30			
		看護とアートⅢ（笑い療法）	KSP22201	2前		1	15	選択必修2単位		
		看護とアートⅣ（音楽療法）	KSP22202	2前		1	15			
		看護とアートⅤ（絵画療法）	KSP22203	2前		1	15			
		看護とアートⅥ（陶芸療法）	KSP22204	2後		1	15			
		看護とアートⅦ（セラピーメイク）	KSP22205	2後		1	15			
		看護とアートⅧ（アロマセラピー・タッチケア）	KSP22206	2後		1	15			
		看護とアートⅨ（推拿）	KSP22207	2後		1	15			
	看護の基礎	基礎看護学概論	KSP11101	1前	2		30	必修11単位		
		看護理論	KSP11102	1後	1		15			
		看護コミュニケーション論	KSP11202	1前	1		30			
		基礎看護学援助技術Ⅰ	KSP11203	1前	2		60			
		基礎看護学援助技術Ⅱ	KSP11204	1後	2		60			
		ヘルスアセスメント	KSP21202	2前	1		30			
		看護過程展開の基礎	KSP21203	2後	1		30			
		看護マネジメント論	KSP31101	3前	1		30			
	看護の発展	地域・在宅看護学概論	KSP21101	2前	2		30	必修28単位		
		地域・在宅看護学援助論Ⅰ	KSP21102	2後	1		15			
		地域・在宅看護学援助論Ⅱ	KSP21103	2後	2		30			
		地域・在宅看護学援助論Ⅲ	KSP31201	3前	1		30			
		成人看護学概論	KSP21104	2前	1		15			
		成人看護学援助論Ⅰ	KSP21204	2後	2		60			
		成人看護学援助論Ⅱ	KSP21205	2後	1		30			
		成人看護学援助論Ⅲ	KSP31202	3前	2		60			
		老年看護学概論	KSP21105	2前	2		30			
		老年看護学援助論Ⅰ	KSP21206	2後	1		30			
		老年看護学援助論Ⅱ	KSP31203	3前	1		30			
		小児看護学概論	KSP21106	2前	2		30			
		小児看護学援助論Ⅰ	KSP21207	2後	1		30			
		小児看護学援助論Ⅱ	KSP31204	3前	1		30			
		母性看護学概論	KSP21107	2前	2		30			
		母性看護学援助論Ⅰ	KSP21208	2後	1		30			
		母性看護学援助論Ⅱ	KSP31205	3前	1		30			
		精神看護学概論	KSP21108	2前	2		30			
		精神看護学援助論Ⅰ	KSP21209	2後	1		15			
		精神看護学援助論Ⅱ	KSP21210	2後	1		15			
	看護の実践	基礎看護学実習Ⅰ	KSP11401	1前	1		45	必修23単位		
		基礎看護学実習Ⅱ	KSP21401	2後	3		135			
		地域・在宅看護学実習	KSP31401	3後4前	2		90			
		成人・老年看護学実習Ⅰ	KSP31402	3後4前	3		135			
		成人・老年看護学実習Ⅱ	KSP31403	3後4前	2		90			
		成人・老年看護学実習Ⅲ	KSP31404	3後4前	3		135			
		小児看護学実習	KSP31405	3後4前	2		90			
		母性看護学実習	KSP31406	3後4前	2		90			
		精神看護学実習	KSP31407	3後4前	2		90			
		看護とアート実習	KSP31408	3後	1		45			
		総合実習	KSP41401	4前	2		90			
	看護の統合	看護研究Ⅰ	KSP31206	3前	1		30	必修2単位		
		看護研究Ⅱ	KSP41201	4前	1		30			
		国際看護活動論	KSP42101	4後		1	15	選択必修1単位		
		災害看護活動論	KSP42102	4後		1	15			
		チーム医療論	KSP42103	4後		1	15			
		看護の生涯教育論	KSP42104	4後		1	15			
		統合看護演習Ⅰ	KSP31301	3前	1		15	必修2単位		
	統合看護演習Ⅱ	KSP41301	4前	1		15				

看護学部 看護学科 履修モデル

●：必修科目

	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	必要 単位数
基礎分野	- 看護とサイエンス心理学への招待 - 統計学入門 - ヒトと生物学 - キャリア教育Ⅰ - 人間関係概論 - 家族社会学 - 法律入門 - デッサンと表現 - 茶道と香道の理論と表現 - 英語Ⅰ - 英語Ⅱ - 英会話Ⅰ - 韓国語Ⅰ	1 2 1 2 1 2 2 1 1 1 1 1 1	- 映像表現の理論と実践 - キャリア教育Ⅱ - ジェンダー論 - 医療ジャーナリズム論	1 1 2 2	発達心理学	2			27 単位
専門基礎分野	- 医療行動科学 - 癒しと芸術 - 栄養と健康 - 医療概論(生命倫理) - 人体構造機能論Ⅰ - 人体構造機能論Ⅱ - 人体構造機能論Ⅲ - 病態治療学Ⅰ - 感染と免疫 - 運動と健康Ⅰ - 情報処理Ⅰ	2 2 1 2 1 1 1 2 1 1 1	- 病態治療学Ⅱ - 病態治療学Ⅲ - 生化学 - 臨床薬理学 - 疫学・保健統計 - 公衆衛生学 - 衛生関係法規 - 社会保障と福祉	2 2 1 1 2 1 1 2	- 死生学 - 臨床心理学	1 2			30 単位
専門分野	- 看護とアートⅠ(治療環境とアメニティ) - 基礎看護学概論 - 看護理論 - 看護コミュニケーション論 - 基礎看護学援助技術Ⅰ - 基礎看護学援助技術Ⅱ	1 2 1 1 2 2	- 看護とアートⅡ(治療環境とアメニティ) - 看護とアートⅦ(セラピーメイク) - ヘルスアセスメント - 看護過程展開の基礎 - 地域・在宅看護学概論 - 地域・在宅看護学援助論Ⅰ - 地域・在宅看護学援助論Ⅱ - 成人看護学概論 - 成人看護学援助論Ⅰ - 成人看護学援助論Ⅱ - 老年看護学概論 - 老年看護学援助論Ⅰ - 小児看護学概論 - 小児看護学援助論Ⅰ - 母性看護学概論 - 母性看護学援助論Ⅰ - 精神看護学概論 - 精神看護学援助論Ⅰ - 精神看護学援助論Ⅱ	1 1 1 1 2 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 2 1 1 1 1	- 看護とアートⅤ(絵画療法) - 看護マネジメント論 - 地域・在宅看護学援助論Ⅲ - 成人看護学援助論Ⅲ - 老年看護学援助論Ⅱ - 小児看護学援助論Ⅱ - 母性看護学援助論Ⅱ - 看護研究Ⅰ - 統合看護演習Ⅰ	1 1 1 2 1 1 1 1 1	- 看護研究Ⅱ - 統合看護演習Ⅱ - 災害看護活動論	1 1 1	71 単位
専門分野(実習)	基礎看護学実習Ⅰ	1	基礎看護学実習Ⅱ	3	- 地域・在宅看護学実習 - 成人・老年看護学実習Ⅰ - 成人・老年看護学実習Ⅱ - 成人・老年看護学実習Ⅲ - 小児看護学実習 - 母性看護学実習 - 精神看護学実習 - 看護とアート実習	2 3 2 3 2 2 2 1	- 地域・在宅看護学実習 - 成人・老年看護学実習Ⅰ - 成人・老年看護学実習Ⅱ - 成人・老年看護学実習Ⅲ - 小児看護学実習 - 母性看護学実習 - 精神看護学実習 - 総合実習	— — — — — — — 2	— — — — — — — 2
	1年次履修登録単位数	44	2年次履修登録単位数	47	3年次履修登録単位数	32	4年次履修登録単位数	5	卒業要件 128 単位

※ 臨地実習は3年次後期～4年次前期の通年科目のため、履修登録は3年次後期、単位認定は4年次期末となります

2025 年度 実務経験のある教員による授業科目一覧

授業科目	代表教員	実務経験と科目との関連性	単位数
基礎看護学概論	平野 加代子	総合病院の病棟/外来での実務経験と看護実践を活かし、様々な看護の役割について概説する。	2
看護理論	平野 加代子	総合病院の病棟/外来での実務経験を活かし、看護の対象を理解するための基礎理論を概説する。	1
看護コミュニケーション論	西垣 里志	精神科病院の病棟実務経験を活かし看護コミュニケーションについて指導する。講義や演習においては実務経験の様々な場面での事例を使いながら、問題点や注意すべき点をイメージしやすいように解説する。	1
基礎看護学援助技術Ⅰ	瀬山 由美子	総合病院の脳外科・内科・手術部での臨床経験を活かし、看護を提供するために必要な基本的な知識と技術を指導する。実務での経験をもとに具体的な事例を紹介し、根拠に基づいた看護技術の習得を支援する。	2
基礎看護学援助技術Ⅱ	神實 ひろみ	総合病院・大学病院の病棟実務経験を活かし、看護技術（主に検査・治療に伴う援助技術）の基礎について指導する。講義・演習においては看護実践を行うために必要な観察と検査・治療を受ける対象者の心理、人体の構造機能等の既習知識に裏付けられた安全で正確な看護技術の方法を実務で経験した事例を交えながらイメージしやすいよう展開する。	2
ヘルスアセスメント	平野 加代子	急性期領域での実務経験を活かし看護対象者の理解と健康状態のアセスメントの基礎について指導する。複数の患者事例によるシミュレーション演習により、実践的な思考力および観察技術について教授する。	1
看護過程展開の基礎	平野 加代子	総合病院での実務経験を活かし、看護実践のための看護過程の基本的なプロセスを展開しながら、対象者を生活者として、看護の視点からアセスメントし、対象の個性や強みを活かした看護援助の展開方法基礎について指導する。	1
地域・在宅看護学概論	桶河 華代	地域での看護職としての経験を活かし、在宅看護の基礎について解説する。また、保健医療福祉制度の枠組みと地域包括ケアシステムでの看護職の役割について概説する。	2
地域・在宅看護学援助論Ⅰ	桶河 華代	総合病院の病棟実務経験と地域での看護実践を活かし、在宅療養生活を支える基本的な技術と医療的ケアを概説する。	1
地域・在宅看護学援助論Ⅱ	桶河 華代	総合病院の病棟実務経験と地域での看護実践を活かし、様々なライフサイクルや健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護を教授する。	2
地域・在宅看護学援助論Ⅲ	桶河 華代	総合病院の病棟実務経験と地域での看護実践を活かし、実務で経験した事例や報告事例を提示して、在宅療養上の看護問題や看護計画についてイメージしやすいよう看護展開する。	1
成人看護学概論	卯川 久美	総合病院の病棟、救急外来、ICUでの実務経験を活かし、社会情勢を踏まえて、成人期にある対象者の特徴や、必要な看護について講義する。講義においては実務で経験した事例や報告事例を提示して、イメージしやすいように展開する。	1
成人看護学援助論Ⅰ	卯川 久美	総合病院や大学病院での病棟、救急外来、ICU、手術室などの実務経験をもった教員がそれぞれの実務経験を活かし、主として周術期における看護について指導する。講義・演習においては、実務で経験した事例や報告事例を提示して、問題点や注意すべき点についてイメージしやすいよう展開する。	2
成人看護学援助論Ⅱ	卯川 久美	総合病院や民間病院での実務経験をもった教員がそれぞれの実務経験を活かし、セルフケア獲得のための看護について指導する。講義・演習においては、実務で経験した事例や報告事例を提示して、問題点や注意すべき点についてイメージしやすいよう展開する。	1
成人看護学援助論Ⅲ	卯川 久美	総合病院や大学病院での病棟、救急外来、ICU、手術室などの実務経験をもった教員がそれぞれの実務経験を活かし、急性期にある対象者の看護過程の展開、および慢性期にある対象者の看護過程の展開を指導する。事例においては、臨床での経験を活かし、対象者の状態を理解しやすいように指導する。特に画像や検査データから対象者の身体状況が判断できるように展開する。	2
老年看護学概論	西村 めぐみ	総合病院の病棟実務経験を活かし、高齢社会の現状を踏まえながら実務で経験した事例を提示して老年期を生きる人々について多面的に捉えられるように教授する。	2
老年看護学援助論Ⅰ	西村 めぐみ	総合病院の高齢者看護実務経験を活かし、加齢や健康障害を有しながらもその人らしく生きる人とその家族に必要な高齢者看護の知識や技術について教授する。	1
老年看護学援助論Ⅱ	桧山 美恵子	急性期総合病院や地域密着型病院の病棟実務経験を活かし、講義・演習において、実務で経験した事例や報告事例を提示して、高齢者看護を行う上で必要となる知識や技術についてイメージしやすいよう展開する。	1

授業科目	代表教員	実務経験と科目との関連性	単位数
小児看護学概論	東尾 公子	総合病院での実務経験を活かし、小児看護の基本理念、小児の成長発達の特徴と小児各期の看護の基本を教授する。理論を活用した看護を展開できるよう事例を交えながら授業を展開する。	2
小児看護学援助論Ⅰ	東尾 公子	小児科病棟や地域で医療的ケア児の看護の実務経験を活かし、病期別ならびに在宅における子どもとその家族の特徴と看護について、臨床での実例を交えながら教授する。	1
小児看護学援助論Ⅱ	東尾 公子	小児科病棟での実務経験のある教員が、急性期にある子どもと家族の看護過程を演習を中心に授業展開する。臨床で必要となる技術についても模型を使って技術の習得をめざす。	1
精神看護学概論	西垣 里志	精神科病院で病棟実務経験のある教員が、精神看護学概論について解説する。精神科看護の歴史や現状、課題、またメンタルヘルスの社会的傾向などを概説する。	2
精神看護学援助論Ⅰ	木村 聡子	精神科病院での実務経験のある教員が、精神看護援助に必要な知識や技術について、臨床事例を交えながら概説する。	1
精神看護学援助論Ⅱ	木村 聡子	精神科病院での実務経験のある教員が、精神障がいをもつ人々の望む生活を支えるために必要なセルフケア援助、社会資源の活用や家族支援について教授する。また、臨床事例や映像の提示により、具体的イメージをもち、紙上事例の全体像の把握	1
基礎看護学実習Ⅰ	平野 加代子	総合病院での実務経験のある教員により、看護実践の場における療養者や療養環境を整えるための看護職の役割について実例を交えながら指導する。	1
基礎看護学実習Ⅱ	平野 加代子	総合病院での実務経験のある教員により、看護を展開するためのプロセスを使って実践ができるように指導する。	3
地域・在宅看護学実習	桶河 華代	地域での看護職としての経験を活かし、在宅看護実践の場で療養者のその家族、地域包括ケアシステムでの看護職の役割について実例を交えながら指導する。	2
成人・老年看護学実習Ⅰ	卯川 久美	総合病院や大学病院での実務経験のある教員が、急性期にある対象者を受け持ち、個別性を踏まえた看護を実践することができるように指導する。また、対象者だけでなく、家族に対しても必要となる看護を提供できるように指導する。	3
成人・老年看護学実習Ⅱ	卯川 久美	総合病院や大学病院での実務経験のある教員が、慢性期にある対象者を受け持ち、個別性を踏まえた看護を実践することができるように指導する。また、対象者だけでなく、家族に対しても必要となる看護を提供できるように指導する。	2
成人・老年看護学実習Ⅲ	西村 めぐみ	総合病院の病棟実務経験をもとに、加齢の影響や疾患をもちながらもその人らしく生活するための支援について必要となる知識や技術、すべての人々に対する尊重した態度を習得できるよう支援する。	3
小児看護学実習	東尾 公子	実習では、主に急性期にある患児を受け持ち、看護を実践する。教員は総合病院での病棟実務経験を活かし、患児とその家族に対し成長発達過程を捉えた看護計画を立案できるよう指導する。実習指導者と連携しながら基本的看護を実践する。	2
精神看護学実習	西垣 里志	精神科病院での病棟実務経験を活かし、精神科看護の実習において知識と技術が統合できるように、患者の人権を配慮しながら指導する。	2
総合実習	卯川 久美	総合病院の病棟、救急外来、ICUでの実務経験、および病棟管理者としての経験を活かし、マネジメントや多重課題について臨床での経験を活かしながら指導する。	2
単位数合計			54

2025 年度 授業科目・担当者一覧表

I 基礎分野

(授業科目)

看護とサイエンス
心理学への招待
統計学入門
ヒトと生物学
環境と生態
化学
映像表現の理論と実践
キャリア教育Ⅰ
キャリア教育Ⅱ
人間関係概論
発達心理学
家族社会学
地域・福祉・ボランティア
ジェンダー論
ダイバーシティと共生
医療ジャーナリズム論
法律入門
デザインと表現
茶道と香道の理論と表現
生け花の理論と表現
書芸術の理論と表現
英語Ⅰ
英語Ⅱ
英会話Ⅰ
英会話Ⅱ
英語Ⅲ
英語Ⅳ
フランス語Ⅰ
フランス語Ⅱ
中国語会話Ⅰ
中国語会話Ⅱ
韓国語Ⅰ
韓国語Ⅱ
イタリア語Ⅰ
イタリア語Ⅱ
ドイツ語Ⅰ
ドイツ語Ⅱ

II 専門基礎分野

医療行動科学
死生学
癒しと芸術
栄養と健康
医療概論(生命倫理)
医療人類学
人体構造機能論Ⅰ
人体構造機能論Ⅱ
人体構造機能論Ⅲ
病態治療学Ⅰ
病態治療学Ⅱ
病態治療学Ⅲ
生化学
臨床薬理学
感染と免疫
疫学・保健統計
公衆衛生学
運動と健康Ⅰ
運動と健康Ⅱ
衛生関係法規
情報処理Ⅰ
情報処理Ⅱ
社会保障と福祉
医療と経済
臨床心理学

(担当者名)

小川 詩乃…………… 21
岩城 晶子…………… 22
西 徳宏…………… 23
前野 寛大…………… 24
篠村 茉璃央…………… 25
前野 寛大…………… 26
渡邊 哲意…………… 27
西/岩城/看護学部専任教員 …… 28
岩城/神寶/東野/西…………… 29
岩城 晶子…………… 30
小川 詩乃…………… 31
大木 香葉江…………… 32
軸丸 政代/岩城 晶子…………… 33
澤井 未緩…………… 34
西 徳宏…………… 35
佐々木 宏…………… 36
青木 亮祐…………… 37
岩崎 朋美…………… 38
飯島 照仁…………… 39
小林 秀加…………… 40
池田 方彩…………… 41
毛利 郁子…………… 42
毛利 郁子…………… 43
池田 美智子…………… 44
池田 美智子…………… 45
池田 美智子…………… 46
池田 美智子…………… 47
渋谷 直樹…………… 48
渋谷 直樹…………… 49
潘 建秀…………… 50
潘 山海…………… 51
裴 恵麟…………… 52
裴 恵麟…………… 53
中川 光…………… 54
小松 寛明…………… 55
下村 恭太…………… 56
下村 恭太…………… 57

日高 庸晴…………… 61
山本 佳世子…………… 62
フルイ ミエコ…………… 63
須田 あゆみ…………… 64
林 貴啓…………… 65
景山 千愛…………… 66
片山 泰一…………… 67
片山 泰一…………… 68
片山 泰一…………… 69
山田 知輝…………… 70
伴 信義/奥田 のり美…………… 71
西垣 里志…………… 72
中川 学…………… 73
内海 美保…………… 74
久光 由香…………… 75
日高 庸晴…………… 76
日高 庸晴/佐野 ちひろ…………… 77
大本 友香…………… 78
大本 友香…………… 79
奥田 のり美…………… 80
吉田 浩…………… 81
國島 丈生…………… 82
長谷川 章子…………… 83
川島 隆志…………… 84
岩城 晶子…………… 85

III 専門分野

(授業科目)

看護とアートⅠ(治療環境とアメニティ)
看護とアートⅡ(治療環境とアメニティ)
看護とアートⅢ(笑い療法)
看護とアートⅣ(音楽療法)
看護とアートⅤ(絵画療法)
看護とアートⅥ(陶芸療法)
看護とアートⅦ(セラピーメイク)
看護とアートⅧ(アロマセラピー・タッチケア)
看護とアートⅨ(推拿)
基礎看護学概論
看護理論
看護コミュニケーション論
基礎看護学援助技術Ⅰ
基礎看護学援助技術Ⅱ
ヘルスアセスメント
看護過程展開の基礎
看護マネジメント論
地域・在宅看護学概論
地域・在宅看護学援助論Ⅰ
地域・在宅看護学援助論Ⅱ
地域・在宅看護学援助論Ⅲ
成人看護学概論
成人看護学援助論Ⅰ
成人看護学援助論Ⅱ
成人看護学援助論Ⅲ
老年看護学概論
老年看護学援助論Ⅰ
老年看護学援助論Ⅱ
小児看護学概論
小児看護学援助論Ⅰ
小児看護学援助論Ⅱ
母性看護学概論
母性看護学援助論Ⅰ
母性看護学援助論Ⅱ
精神看護学概論
精神看護学援助論Ⅰ
精神看護学援助論Ⅱ
看護研究Ⅰ
看護研究Ⅱ
国際看護活動論
災害看護活動論
チーム医療論
看護の生涯教育論
統合看護演習Ⅰ
統合看護演習Ⅱ

IV 専門分野(臨地実習科目)

基礎看護学実習Ⅰ
基礎看護学実習Ⅱ
地域・在宅看護学実習
成人・老年看護学実習Ⅰ
成人・老年看護学実習Ⅱ
成人・老年看護学実習Ⅲ
小児看護学実習
母性看護学実習
精神看護学実習
看護とアート実習
総合実習

(担当者名)

森 合音…………… 89
森 合音…………… 90
星加 静枝…………… 91
武田 倫衣子…………… 92
フルイ ミエコ…………… 93
上田 順平…………… 94
倉地 祐子…………… 95
大本 千佳…………… 96
矢尾/陳/鈴…………… 97
平野/基礎看護学分野教員 …… 98
平野/基礎看護学分野教員 …… 99
西垣/木村/東野/棕本 …… 100
瀬山/基礎看護学分野教員 …… 101
神寶/基礎看護学分野教員 …… 102
平野/基礎看護学分野教員 …… 103
平野/基礎看護学分野教員 …… 104
高須 久美子…………… 105
桶河/乙黒/内貴…………… 106
桶河/乙黒/内貴…………… 107
桶河/乙黒/内貴…………… 108
桶河/乙黒/内貴…………… 109
成人看護学分野教員…………… 110
成人看護学分野教員…………… 111
成人看護学分野教員…………… 112
成人看護学分野教員…………… 113
西村 めぐみ…………… 114
西村/松山/岡本…………… 115
松山/西村/岡本…………… 116
東尾 公子…………… 117
東尾 公子/石本 晶子 …… 118
東尾 公子/石本 晶子 …… 119
母性看護学分野教員…………… 120
母性看護学分野教員…………… 121
母性看護学分野教員…………… 122
西垣/木村/東野/棕本 …… 123
木村/西垣/東野/棕本 …… 124
木村/西垣/東野/棕本 …… 125
日高/卯川/東尾/木村/松山/西 …… 126
卯川 久美…………… 127
磯邊 厚子…………… 128
中田 徹朗…………… 129
高須 久美子…………… 130
卯川 久美…………… 131
看護学部専任教員…………… 132
看護学部専任教員…………… 133

平野/基礎看護学分野教員 …… 137
平野/基礎看護学分野教員 …… 138
桶河/乙黒/内貴…………… 139
成人看護学分野教員…………… 140
成人看護学分野教員…………… 141
老年看護学分野教員…………… 142
東尾 公子/石本 晶子 …… 143
母性看護学分野教員…………… 144
西垣/木村/東野/棕本 …… 145
卯川 久美…………… 146
卯川 久美…………… 147

授 業 科 目

授業要項と授業内容(2022 年度以降入学生)

凡 例

2025 年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。
 - I. 基礎分野
 - II. 専門基礎分野
 - III. 専門分野
 - IV. 専門分野(臨地実習科目)
2. 各分野においては、1年次履修科目、2年次履修科目、3年次履修科目、4年次履修科目にわけて配列されています。ただし専門分野においては、看護学領域に分けて配列されています。
3. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

I 基礎分野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とサイエンス	小川 詩乃	講義	1 年次 前期	必修	1	30	KGE11101

科目の概要

看護の業務において、ヒトの身体の構造やとそのしくみに関する知識、医薬品の投与や検査値の読み取りなど、科学や数学の基礎知識が必要となります。このため、本講義では、生物・化学・物理について、将来看護職を目指す上で必須の知識を講義します。また表やグラフの読み取り、基礎的な計算能力の向上など、看護で必要な数学に関する講義と演習を行います。さらに科学知識をどのように看護の業務や日常生活に活かすことができるか、受講生のみなさんと一緒に考えていきます。

到達目標

- 看護に関する科学の基礎知識を身につけ、説明することができる。
- 医療現場に必要な計算についての知識や技能を習得する。
- 科学的知見に基づく意思決定について理解し、その背景知識や適切な対応方法を指摘できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	看護と科学 計算演習①四則演算の基本的な解き方
第 2 回	生物1(生命を維持する仕組み) 計算演習②単位の換算
第 3 回	生物2(感覚と運動の仕組み) 計算演習③累乗
第 4 回	生物3(体内環境を保つ仕組み) 計算演習④速さの計算(移動の速さ、薬液投与の速さ)
第 5 回	生物4(生物と細胞 生物の成長) 計算演習⑤時間の計算(移動時間、投与時間)
第 6 回	生物5(生殖 遺伝) 計算演習⑥移動距離の計算、薬液投与量の計算
第 7 回	化学1(身のまわりの物質) 計算演習⑦比の計算
第 8 回	化学2(物質の化学変化) 計算演習⑧割合の計算
第 9 回	化学3(水溶液とイオン) 計算演習⑨質量パーセント濃度の計算
第10回	化学4(酸とアルカリ、中和) 計算演習⑩溶質の質量の計算
第11回	物理1(力のはたらき 圧力) 計算演習⑪圧力の計算
第12回	物理2(力の規則性 てこの原理) 計算演習⑫速度の換算
第13回	数学1(グラフの種類 グラフ読解)
第14回	数学2(看護場面での計算演習)
第15回	科学的な知見に基づく意思決定、行動選択

アクティブ・ラーニング

本科目では毎回の授業において「レポートに記載されたコメントや質問を受けて授業を展開する」という形で、アクティブラーニング(一方向的な講義ではなく、能動的な学習への参加を取り入れた授業)を行います。また第 1～14 回において、計算演習や数学演習を行います。

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	なし(毎回、講義資料を配布する)					
参考文献	授業内で適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	次回講義に関係する資料や動画等の閲覧を指示するので、それを観て事前の理解を促すこと(30 分)					
事後学習(内容・時間)	講義資料、レポート(成果物)、別途指示する資料等を確認して、講義内容を復習すること(30 分)					
フィードバックの方法	レポート(成果物)に記載されたコメント・質問に対しては、授業内で解説を行います					
備考	レポート(成果物)は、毎回 Teams もしくは UNIPA を介して配布します(合計 15 回)					
オフィスアワー	授業前後に、教室で質問を受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
心理学への招待	岩城 晶子	講義	1 年次 後期	選択	2	30	KGE13101

科目の概要

本講義では、心理学分野の基本的な知識について紹介する。学生が心理学という学問領域での心の捉え方や研究結果を知り、人間の心について理解や考えを深めることを目的とする。心についての基本的な考え方や、身近な生活の中での心のはたらき、人の行動のメカニズム、人間の性格の仕組み等を毎回のテーマとして、素朴な疑問に対して、心理学の知識によって自分なりに考えたり、答えを見つけられることを目指し授業を行う。

到達目標

- 心理学の基礎、例えば外界を認知する仕組みや記憶のメカニズムなどについて基本的な知識を獲得し、説明できる。
- 学習や動機づけ理論についての学びを通して、人間の行動のメカニズムについて説明できる。
- 人間の心についての理解を、大学生活や医療・看護領域でどのように活かすか発展的に考え、述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション(心理学とは・その目的や歴史、心を捉える視点について)
第 2 回	心理学研究法(人間の心についてどのような方法で研究することができるのか?)
第 3 回	心と脳
第 4 回	感覚・知覚①(われわれは周囲の世界をどのように把握しているか?)
第 5 回	感覚・知覚②(われわれは周囲の世界をどのように把握しているか?)
第 6 回	記憶:覚えること・忘れることの仕組み①
第 7 回	記憶:覚えること・忘れることの仕組み②
第 8 回	学習と行動:私たちの「行動」の仕組み①
第 9 回	学習と行動:私たちの「行動」の仕組み②
第10回	動機づけ
第11回	パーソナリティ:私たちの「性格」について①
第12回	パーソナリティ:私たちの「性格」について②
第13回	個と集団の関係
第14回	インターネットに関わる心理
第15回	災害時の心理について

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 2,4,6,9,12 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	『看護を学ぶ人のための心理学』遠藤 公久(弘文堂)					
参考文献	『よくわかる心理学』無藤 隆(ミネルヴァ書房)、『よくわかる臨床心理学[改訂新版]』下山 晴彦(ミネルヴァ書房)					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。 授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして、内容を理解しておくこと(2 時間)。					
フィードバックの方法	コメントフォームで送信された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統計学入門	西 徳宏	講義・演習	1 年次 後期	必修	1	30	KGE11201

科目の概要

本講座は看護統計のための統計的な基礎知識について講義する。まず、統計学の基礎知識と看護との関連について説明する。その後、記述統計学のパートでは、得られたデータの特徴を要約する方法について、推測統計学のパートでは、標本データから母集団の特徴を推測する方法について教授する。

到達目標

- 看護統計のための統計学の基礎知識を習得し、説明できる。
- 記述統計学と推測統計学を学び、各々の目的を述べるができる。
- 相関関係と因果関係が区別できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション&統計学の基礎知識(統計学の定義、記述統計学と推測統計学など)と統計学と看護との関係
第 2 回	データと変数、度数分布表、度数分布表をグラフにする
第 3 回	平均と中央値&平均と中央値、最頻値の違い&量的変数のばらつき①&小テスト①
第 4 回	量的変数のばらつき②&クロス集計表①
第 5 回	クロス集計表②&相関係数①
第 6 回	相関係数②&小テスト②
第 7 回	原因と結果の考え方&短いレポートの提出
第 8 回	3 重クラス表①
第 9 回	3 重クラス表②&母集団と標本の関係①&小テスト③
第10回	母集団と標本の関係②&推測統計学の基礎と統計的推定①&短いレポートの提出
第11回	推測統計学の基礎と統計的推定②
第12回	推測統計学の基礎と統計的推定③&統計的検定の考え方①&小テスト④
第13回	統計的検定の考え方②
第14回	統計的検定の考え方③&クロス表のカイ 2 乗検定①
第15回	クロス表のカイ 2 乗検定②&小テスト⑤

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	小テスト 60% 成果物 40%					
教科書	『【第2版】基本からわかる看護統計学入門』大木秀一／著(医歯薬出版)					
参考文献	『社会調査のための統計学 生きた実例で理解する このとおりやればすぐできる』神林博史／著 三輪哲／著(技術評論社)					
事前学習(内容・時間)	教科書による予備学習(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業資料による復習(30 分)					
フィードバックの方法	小テストに対するフィードバックは授業中に行う					
備考	小テストは 3 回の授業で 1 回行われ、5 回実施される。 その日以外の授業の後はコメントカードを提出する。					
オフィスアワー	随時メールと Teams のチャットで受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	—	—	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヒトと生物学	前野 寛大	講義	1 年次 前期	必修	2	30	KGE11102

科目の概要

ヒトを含めた生物の基本単位は細胞であり、様々な細胞の働きによって生命活動が営まれている。ヒトは、1 個の受精卵という細胞から分裂を繰り返し、個体へと発生する。前半は、細胞自身が持つ遺伝情報に基づき必要なタンパク質が体内で合成されることで多様な機能が発現される、生命活動の基本原理解説する。後半は、恒常性を維持するシステムについて、内分泌系、神経系、免疫系を中心に解説する。

到達目標

- 円滑な生命活動を支える物質とその流れ(代謝)の仕組みを説明することができる。
- 細胞および、その増殖と分化、発生といった基本的な仕組みを述べるができる。
- 内分泌系、神経系、免疫系の三者の相互作用で支えられている生体の恒常性を維持する仕組みについて説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	生物学の基礎(教科書, p.1-9)
第 2 回	細胞(教科書, p.11-21)
第 3 回	生物を構成する物質(教科書, p.22-33)
第 4 回	栄養と代謝(教科書, p.34-45)
第 5 回	遺伝と DNA(教科書, p.46-59)
第 6 回	遺伝情報の発現(教科書, p.60-67)
第 7 回	細胞の増殖と死(教科書, p.68-75)
第 8 回	生殖, 発生, 分化(教科書, p.76-84)
第 9 回	動物の組織(教科書, p.86-93)
第10回	動物の器官(教科書, p.95-104)
第11回	ホルモンと生体調節(教科書, p.105-118)
第12回	神経系(教科書, p.119-127)
第13回	免疫(教科書, p.128-140)
第14回	微生物と感染症(教科書, p.141-152)
第15回	生命システムの破綻: 癌と老化(教科書, p.154-161)

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(筆記)70%(持ち込み不可) 成果物 30%(各講義後の確認テスト)					
教科書	『医療・看護系のための 生物学(改訂版)』田村 隆明(裳華房)					
参考文献	『新課程視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録』(数研出版)					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当ページを読む(2 時間, 「コラム」と「発展学習」は除外)					
事後学習(内容・時間)	教科書や講義後に配布する講義スライド資料等を用いて復習し、UNIVERSAL PASSPORT から確認テストに回答する(2 時間)。提出された答案は成果物として評価する。					
フィードバックの方法	UNIVERSAL PASSPORT, Microsoft Teams などを活用して講評する					
備考						
オフィスアワー	講義前 10 分、講義後 10 分、メールや Microsoft Teams のチャットでも随時質問等を受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
環境と生態	篠村 茉璃央	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13102

科目の概要

地球上に生息する生物は、多様な環境に適応しながら相互に影響し合っている。生態学とは、このような生物の生活の法則をその環境との関係から解き明かすサイエンスである。生態学は、生物進化の歴史や生態に加え、資源開発や環境保全といった社会的課題にも貢献する学問である。本講義では、生態学の基礎的な考え方や用語について具体的な事例とともに講義する。また人間も地球上で暮らす生物の一員であるという認識に基づき、その他の生物の関わり方について受講生とともに事例分析などを通じて考察する。

到達目標

- 生物と環境がどのように関わりあっているのかを具体例を挙げて説明できる。
- 地理的条件や歴史的経緯を踏まえて、人間活動と環境との関わりについて具体例を挙げて説明できる。
- 環境問題を現代日本の視点にとどまらず、学際的かつ多角的な視野から捉え、オリジナルな考えを述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション（生態学とは）
第 2 回	生物界の多様性（生物とは・生物界）
第 3 回	生物の進化（生態・遺伝子）
第 4 回	生物の生活史と適応戦略（繁殖・代謝）
第 5 回	動物の行動と社会（配偶・社会行動）
第 6 回	生物の個体間の相互作用（競争・捕食・被食・寄生・共生）
第 7 回	生物群集（食物連鎖・植生遷移・バイオーム）
第 8 回	生態系の構造とはたらき（エネルギーの生産・循環）
第 9 回	生態系と人間活動 1（生態系サービス・環境保護思想）
第10回	生態系と人間活動 2（生物多様性の 3 要素）
第11回	生態系と人間活動 3（資源開発・生業活動の影響）
第12回	生態系と人間活動 4（家畜化・栽培化）
第13回	生態系と人間活動 5（外来種）
第14回	生態系と人間活動 6（生態系保全）
第15回	各回の振り返りと補足 + 小テスト(期末試験:小論文)

アクティブ・ラーニング

毎回の授業後に小レポート(成果物)を提出してもらい、寄せられたコメントや質問等を反映しながら柔軟に授業を展開します。

成績評価方法	小テスト 85%(期末試験:小論文) 成果物 15%(毎回の授業後の小レポート)					
教科書	適宜資料を配布します。					
参考文献	『大学1年生の なっとく! 生態学』鷲谷 いづみ(講談社サイエンティフィク)、『大学生のための生態学入門』原登志彦(共立出版)、『生態学入門(第2版)』日本生態学会(東京化学同人)					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備をしてください。(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義資料や関連する文献を参照して、講義内容を復習してください。(2 時間)					
フィードバックの方法	講義中に、小レポートに記載された質問やコメントについて説明を行います。					
備考	毎授業後に小レポート(成果物)を提出してもらいます。受講生の積極的な参加・発言を期待しています。					
オフィスアワー	質問は、授業終了後教室にて 30 分、もしくはメールにて受け付けます。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	△	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
化学	前野 寛大	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13103

科目の概要

人体の働きを理解するためには、化学の体系的知識とその理解が不可欠である。人体を構成する成分はすべて、原子やイオンから出来ている。少数の原子が結合した小さな分子から巨大分子であるタンパク質までが協働して、生命現象を司る化学反応を担っている。化学では、これら生体の活動を理解する上での基礎となる化学の初歩を講義する。

到達目標

- 日常生活や医療分野における現象を化学の言葉を用いて正しく説明できる。
- 物質の量的表現を理解し、計算できる。
- 生化学や医療分野で見られる化学現象に興味を持ち、得た知識を自分の言葉で説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	原子と原子の構造
第 2 回	元素と周期表
第 3 回	原子と原子のつながり
第 4 回	モルと化学反応式
第 5 回	濃度の表し方(1)
第 6 回	濃度の表し方(2)
第 7 回	状態変化
第 8 回	化学反応と熱エネルギー
第 9 回	化学反応と平衡
第10回	浸透圧
第11回	酸と塩基
第12回	酸化と還元
第13回	有機化合物
第14回	受講生の発表1:化学分野で深掘したテーマについて (成果物として採点します)
第15回	受講生の発表2:化学分野で深掘したテーマについて (成果物として採点します)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション…第 14・15 回目の授業内で、パワーポイントを用いて 5 分程度の発表を個人単位で行います。成果物として成績に反映されます。

成績評価方法	定期試験(筆記)50%(持ち込み不可) 成果物 30%(個人ごとのプレゼンテーション) 小テスト 20%(講義中に数回実施)					
教科書	『はじめて学ぶ化学』野島 高彦(化学同人)					
参考文献	『化学』(ニュートンプレス)					
事前学習(内容・時間)	事前に教科書の該当ページを読む(2 時間)。					
事後学習(内容・時間)	事後に配布する講義スライド(PDF)等を用いて要点をノートにまとめる(2 時間)。					
フィードバックの方法	小テストは講義中に提示し、5 分以内に提出する。次回講義で、解説する。					
備考						
オフィスアワー	講義前 10 分、講義後 10 分、メールや Microsoft Teams のチャットでも随時質問等を受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
映像表現の理論と実践	渡邊 哲意	講義	2 年次 前期	選択	1	30	KGE23101

科目の概要

本講義では、映像表現分野について基本的な知識を紹介する。映像の基本的な考え方、制作の方法、投影の技術などを知り、映像表現の理解を深めることを目的とする。簡単な映像制作から投影機器の操作まで、制作からアウトプットまでの基本的な流れを理解するための講義と演習を行う。

到達目標

- 映像表現の基礎知識を習得し、説明できる。
- 映像機器の技術について理解し、説明及び操作ができる。
- 映像制作に必要なスキルを習得し、映像作品を制作できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション・映像表現の基礎知識・映像の理論
第 2 回	ストーリーと映像の関係・モニタージュ映像ストーリーの制作
第 3 回	ストーリーと映像の関係・モニタージュ映像素材の制作
第 4 回	モニタージュ作品講評・ショートムービー解説・現状
第 5 回	ショートムービー制作・ロケハン・機材練習
第 6 回	ショートムービー制作・撮影・編集
第 7 回	ショートムービー講評・ストップモーションアニメ
第 8 回	ストップモーションアニメ制作
第 9 回	ストップモーションアニメ制作・講評
第10回	空間映写機器についての解説・映像信号の種類と仕組み
第11回	プロジェクションマッピング講習
第12回	Aftereffects 投影素材制作1
第13回	Aftereffects 投影素材制作2
第14回	プロジェクションアート投影
第15回	授業まとめ レポート提出

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2,3,8,9 回
実習・フィールドワーク…第 5,6,12～14 回

成績評価方法	成果物 60% 定期試験(レポート)40%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業内で指示した次回授業の予習(30 分)					
事後学習(内容・時間)	内容の振り返り、講義・実技内容の理解(30 分)					
フィードバックの方法	授業毎に対応します					
備考	映像制作に興味がある人の積極的な参加を期待します					
オフィスアワー	授業後 30 分間受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	—	—	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育 I	西 徳宏／岩城 晶子 看護学部専任教員	講義	1 年次 前期	必修	1	30	KGE11103

科目の概要

初年次教育として、高等学校からの接続教育および大学教育の導入となる。将来のキャリアを想定し大学における 4 年間の学びに主体的に取り組めるように講義する。第一に、自らを取り巻く世界や社会、並びに医療や福祉、看護への理解、第二に、読解力、批判的思考力、コミュニケーション力等のスキルの向上、第三に、大学 4 年間での学びと自らのキャリア開拓との関連性の理解、第四に、看護人材として必要な自己と他者への理解の深化、について説明する。

到達目標

- グループワークを通して自己の課題を自覚し、身につけるべきスキルを述べることができる。
- 大学教育を受けるうえで必要な基本的なリテラシーを説明できる。
- 4 年後の自身のビジョンとゴールをイメージし、説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	宝塚大学を知ろう①:グループワーク
第 2 回	宝塚大学を知ろう②:グループワーク
第 3 回	宝塚大学を知ろう③:フィールドワーク
第 4 回	宝塚大学を紹介しよう①:プレゼンテーション
第 5 回	宝塚大学を紹介しよう②:プレゼンテーション
第 6 回	宝塚大学を紹介しよう③:プレゼンテーション
第 7 回	リテラシーを高めよう①:文献を探そう
第 8 回	リテラシーを高めよう②:文献を読んでもみよう
第 9 回	リテラシーを高めよう③:文章を書いてみよう
第10回	先輩の話を聞いてみよう①:4 年次生と交流①
第11回	先輩の話を聞いてみよう②:4 年次生と交流②
第12回	自分を守る:ネズミ講・マルチ商法、デート DV・ハラスメントについて知ろう
第13回	先輩の話を聞いてみよう③:本学卒業生と交流
第14回	PROG 結果の説明会
第15回	リテラシーを高めよう④:文章を書いてみよう②・4 年後のビジョンとゴールを書いてみよう

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション…6 回
 実習・フィールドワーク…第 3 回
 ディスカッション・ディベート…第 1,2,4,5 回
 グループワーク…1～6 回,10,11,13 回

成績評価方法	成果物 100%(各回の課題及びプレゼンテーション)					
教科書	適時指示					
参考文献	『大学生 学びのハンドブック[6 訂版]』世界思想社編集部(世界思想社)					
事前学習(内容・時間)	前時の指示に基づき授業準備する(1 時間程度)					
事後学習(内容・時間)	毎回提示された課題に取り組む(1 時間程度)					
フィードバックの方法	成果物やプレゼンテーションに対してコメントを返します					
備考	毎回授業終了時に課題の提示があり、80%が課題の提出、20%がプレゼンテーションで評価されます。欠席された場合でも、各回の課題を確認して、必ず提出するようにしてください。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
キャリア教育Ⅱ	岩城 晶子/神寶 ひろみ 東野 和馬/西 徳宏	講義	2 年次 前期	必修	1	30	KGE21101

科目の概要

宝塚大学看護学部における 1 年間の学びをふまえ、将来看護職を担うために必要な能力を高め、社会人基礎力の下地を作ることを目的とする。

医療・看護分野の文献や新聞記事などを教材にし、大学での学びに必要なリーディング、ライティングの方法について教授する。

少子高齢化、地域防災、地域医療やグローバルヘルスなどにおける現代の社会的課題を知り、それらを踏まえて各自が自らのキャリアデザインを構想し、文章で表現できることを目指す。

また、地域に根差した視点から問題を発見し解決の方向を探る力を高めること、協働と貢献の意義の理解を通して、看護職としての社会人基礎力を高めるためのフィールドワークを実施する。

到達目標

- 医療・看護分野の文献を読み、自らのキャリアデザインと関連させて理解し、適切に批評できる。
- 医療・看護分野の文献等で学んだことと関連させた上で、自らのキャリアデザインに関する文章を書くことができる。
- 地域でフィールドワークを行い、地域における看護職者の役割をグループの一員として探究し表現できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション 看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング:基礎編①
第 2 回	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング:基礎編②
第 3 回	看護実践・研究のためのクリティカル・リーディング:応用編
第 4 回	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング:基礎編①
第 5 回	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング:基礎編②
第 6 回	看護実践・研究のためのアカデミック・ライティング:応用編
第 7 回	看護実践・研究のためのプレゼンテーションの技法
第 8 回	地域に学び、地域に活かす:看護職者の役割について 1(北区の地域防災について)
第 9 回	地域に学び、地域に活かす:看護職者の役割について 2(テーマの探求)
第10回	地域に学び、地域に活かす:看護職者の役割について 3(フィールドワーク)
第11回	地域に学び、地域に活かす:看護職者の役割について 4(プレゼン準備・討議)
第12回	地域に学び、地域に活かす:看護職者の役割について 5(発表①)
第13回	地域に学び、地域に活かす:看護職者の役割について 6(発表②)
第14回	地域に学び、地域に活かす:看護職者の役割について 7(グループディスカッション)
第15回	全体のまとめと振り返り

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 2～6、14 回/グループワーク…第 9,11,14 回 実習・フィールドワーク…第 10 回/プレゼンテーション…第 12,13 回

成績評価方法	成果物 50% 定期試験(レポート)30% 定期試験(実技)20%					
教科書	授業時に資料を配布する。					
参考文献	『看護職としての社会人基礎力の育て方(第 2 版)』箕浦とき子・高橋恵編(日本看護協会出版会)					
事前学習(内容・時間)	前時の指示に基づき授業準備する(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業内で提示された課題に取り組む(1 時間)					
フィードバックの方法	提出課題はルーブリックに基づき自己評価し、教員評価を付記してフィードバックする。					
備考	・本科目では、多くの場面においてグループメンバーでの協働・協力を求める。積極的な参加とグループへの貢献を期待する。 ・評価やフィールドワークの詳細については授業時に指示する。 ・実践を通して学ぶことを念頭に、日々の授業に臨むこと。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人間関係概論	岩城 晶子	講義	1 年次 前期	必修	2	30	KGE11104

科目の概要

人間は様々な「関係」の中に生きる存在である。本授業では、臨床心理学分野の知見を中心に、家族など身近な他者との関係、友人関係、所属集団との関係、自分を取り巻く社会との関係、自分自身との関係など、様々な「関係」の捉え方と特徴について紹介する。授業前半では、精神分析の主要概念と、赤ちゃんから高齢者までの生涯発達およびそれに伴う関係性の発展をテーマとして取り上げる。それを踏まえて、後半では個人のメンタルヘルスや、医療看護現場における人間関係、受容と共感や「語り」のアプローチ等について取り上げ、人間同士の関係について深く考える時間をもつ。

到達目標

- 心理学の基礎的内容のうち、特に人間関係の理解に必要とされる事柄について理解し、述べることができる。
- 各発達段階における心理的特徴や、対人関係など日常生活の中で個人が自分の心を守る仕組みについて、説明することができる。
- 自分自身の周囲にある様々な関係について、ある程度客観的に考えられるようになる。また、人間の心や関係性についての理解を医療・看護領域においてどのように活かすか、発展的に考え述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション(授業の目的、心の捉え方、心理学研究法など)
第 2 回	人間関係に関する心理学の諸理論
第 3 回	人間の発達と関係性の発展(1)乳児期
第 4 回	人間の発達と関係性の発展(2)幼児期
第 5 回	人間の発達と関係性の発展(3)学童期
第 6 回	人間の発達と関係性の発展(4)青年期
第 7 回	人間の発達と関係性の発展(5)成人期
第 8 回	人間の発達と関係性の発展(6)高齢期
第 9 回	自分自身について知る(1)対人関係の理論
第10回	自分自身について知る(2)性格理論
第11回	心の適応(1)ストレスと心理的障害、メンタルヘルス
第12回	心の適応(2)発達の病理と様々な心理的援助
第13回	医療看護現場における人間関係(1)防衛機制
第14回	医療看護現場における人間関係(2)対人関係理論
第15回	「語り」を聴く

アクティブ・ラーニング

実習・フィールドワーク…第 9 回
グループワーク…第 11,12,14,15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	『看護を学ぶ人のための心理学』遠藤 公久(弘文堂)					
参考文献	『よくわかる臨床心理学[改訂新版]』下山 晴彦(ミネルヴァ書房)、『こころを大切に作る看護 燃え尽きを防ぐための臨床心理学』樫村通子(日本評論社)など。適宜紹介します。					
事前学習(内容・時間)	前講義時の指示に基づき授業準備する(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の内容を振り返り、自分で要点をまとめること。 授業で配布・提示される資料を自主的に読んだり視聴するなどして内容を理解しておくこと。(2 時間) 毎回の授業後に小レポートまたはコメントカードの提出を求める。					
フィードバックの方法	小レポートやコメントカードに記入された質問や課題について翌週の授業冒頭でフィードバックする					
備考	参考文献は図書館にあります					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
発達心理学	小川 詩乃	講義	2 年次 前期	選択	2	30	KGE23102

科目の概要

人間は、生まれてから死に至るまで、心身ともに変化し続けます。その変化は、身体だけではなく、感情表現、他者との関わり方、物事の捉え方など様々です。そうした生涯の発達について探求するのが「発達心理学」という学問です。本講義では、胎児期から高齢期までの各発達段階の特徴・困難・課題、及び発達障害について講義します。また、発達に関する課題の支援や対応について、受講生のみなさんと一緒に考えていきます。

到達目標

- 人間の各発達段階における特徴、および発達障害の特性に関する基礎知識を獲得し、説明できる。
- 人間が直面する困難や課題について理解し、その背景要因や適切な対応方法を指摘できる。
- ケース事例の検討を通じて、発達心理学の多様な観点から問題・課題を提起し、支援及び対応を提案できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	発達心理学とは 発達障害①広義の定義・狭義の定義 事例検討①「サンタクロースって本当にいるの?」と聞かれたら
第 2 回	胎児期・新生児期 事例検討②初産婦への指導
第 3 回	乳児期 事例検討③乳児の発語を促す関わり
第 4 回	幼児期前期 事例検討④幼児と過ごす病院での待ち時間
第 5 回	幼児期後期 事例検討⑤大人の注意を引くために騒ぐ幼児
第 6 回	児童期 事例検討⑥インスリン自己注射の練習を嫌がる小学生
第 7 回	青年期 事例検討⑦友人に合わせすぎる高校生
第 8 回	子どもの権利条約 事例検討⑧子どもの意見を尊重する「子どもアドボカシー」
第 9 回	成人期前期 事例検討⑨特定の看護師に反抗的な態度を取る成人
第 10 回	成人期後期 事例検討⑩介護による家族崩壊を防ぐ
第 11 回	高齢期 事例検討⑪高齢期における恋愛と周囲の対応 疑似体験①話したいことがうまく話せない
第 12 回	発達障害②ASD 事例検討⑫予定を繰り返し確認する方への対応 疑似体験②誤解されやすい発言
第 13 回	発達障害③ADHD 事例検討⑬受診日を忘れてしまう方への対応 疑似体験③気がそれて集中できない
第 14 回	発達障害④SLD(限局性学習症) 事例検討⑭読み書きが困難で学習意欲が低下している小学生 疑似体験④真面目に取り組んでも読むことが難しい
第 15 回	各発達段階における発達の特性の振り返り・補足

アクティブ・ラーニング

本科目では毎回の授業において「レポートに記載されたコメントや質問を受けて授業を展開する」という形で、アクティブラーニング(一方向的な講義ではなく、能動的な学習への参加を取り入れた授業)を行います。また疑似体験を、第 11～14 回に行います。

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	なし(毎回、講義資料を配布する)					
参考文献	授業内で適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	次回講義に関係する資料や動画等の閲覧を指示するので、それを観て事前の理解を促すこと(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義資料、レポート(成果物)、別途指示する資料等を確認して、講義内容を復習すること(2 時間)					
フィードバックの方法	レポート(成果物)に記載されたコメント・質問に対しては、授業内で解説を行います					
備考	レポート(成果物)は、毎回 Teams もしくは UNIPA を介して配布します(合計 15 回)					
オフィスアワー	授業前後に、教室で質問を受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
家族社会学	大木 香菜江	講義	1 年次 後期	必修	2	30	KGE11105

科目の概要

本講義では「家族」とは何か、家族社会学の基礎的な理論から現代社会において多様化する家族の考え方について講義を行う。講義を通じて家族の構造や機能、歴史的変化や文化的差異を説明し、さらに家族についての課題について履修生と共に検討をおこなう。

到達目標

- 家族の機能について理解し説明できるようになる。
- 多様な家族について知識を得、説明できるようになる。
- 家族に関する課題について自分の意見を説明できるようになる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーションー家族とはー
第 2 回	家族とはなにか？
第 3 回	近代家族論①親密圏
第 4 回	近代家族論②恋愛・結婚
第 5 回	近代家族論③母性愛・3 歳児神話
第 6 回	近代家族論④子ども中心主義
第 7 回	近代家族論⑤性別役割分業
第 8 回	イエ制度
第 9 回	晩婚化・未婚化
第10回	少子高齢化
第11回	家族の危機と政策的対応
第12回	ヤングケアラー
第13回	DV, 虐待
第14回	性的マイノリティと家族
第15回	まとめ

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 2 回～第 14 回
 グループワーク… 第 1 回・第 5 回・第 10 回
 プレゼンテーション…第 2 回～第 14 回

成績評価方法	小テスト 50% 成果物 50%					
教科書	教科書は用いず資料を配布する					
参考文献	授業内では用いない。より理解が深まる文献を授業内で紹介する。					
事前学習(内容・時間)	関連のあるテーマについて時事問題を調べておく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業内容を復習し、復習課題に取り組む(2 時間)					
フィードバックの方法	成果物および小テストについて授業内で解説をする					
備考	積極的な授業参加・発言を求めます					
オフィスアワー	授業後教室で受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	—	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・福祉・ボランティア	軸丸 政代 岩城 晶子	講義	1 年次 後期	選択	2	30	KGE13104

科目の概要

医療・保健・福祉や自然災害現場などのあらゆる場でボランティアが活動している。本科目では、以下のことについて学ぶために講義をし、フィールドワークやグループワーク等を行なう。まず、自分たちの身近な地域と福祉について多面的に知り、ボランティアの役割についての理解を深める。また、より広い視野でボランティア活動の現状と課題等を考察し、将来看護師としてキャリアを積んでいく上で必要な社会貢献の視点を身につける。

到達目標

- 地域・福祉・ボランティアについて基礎的な知識を身につけ、自分の言葉で表現することができる。
- フィールドワークやボランティア活動に積極的に参加し、自分の学びを振り返り、表現することができる。
- 授業で学んだことを看護師としての自らのキャリアと結び付け考察し、文章化し、発表することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション(本科目の特徴、学び方、授業の予定など)
第 2 回	地域を知る 1 (地域で暮らす人々について)
第 3 回	地域を知る 2 (地域で暮らす子どもの実態)
第 4 回	地域を知る 3 (地域で暮らす高齢者・障がい者の実態)
第 5 回	地域を知る 4 (地域で暮らす方々を支える地域住民)
第 6 回	地域でのボランティア活動 1 (住民主体によるボランティア活動とは)
第 7 回	地域でのボランティア活動 2 (フィールドワーク)
第 8 回	地域でのボランティア活動 3
第 9 回	地域でのボランティア活動 4 (フィールドワーク)
第 10 回	地域でのボランティア活動 5 (フィールドワーク)
第 11 回	災害におけるボランティア活動
第 12 回	地域でのボランティア活動 6 (フィールドワーク)
第 13 回	地域福祉を知る
第 14 回	学びのまとめ 1 (フィールドワーク、ボランティア体験を通してまとめを発表)
第 15 回	学びのまとめ 2

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1,5,6,11 回
ディスカッション・ディベート…第 2～4,7,8,10,12,13 回
実習・フィールドワーク…第 9,15 回
プレゼンテーション…第 14 回

成績評価方法	定期試験(レポート)30% 成果物 70%					
教科書	必要な場合は授業前に指示する					
参考文献	必要な場合は授業前に指示する					
事前学習(内容・時間)	指示した課題に対する調べ学習など(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	指示した課題に対するまとめなど(2 時間)					
フィードバックの方法	提出された成果物に対してフィードバックを行う					
備 考	本科目では実際にフィールドワークやボランティア活動を行い授業時間に含める。そのため時間割で指定された曜日・時間以外でそれら課外授業を行う場合は時間割の時間に代えて出席カウントを行う。また 3 つのテーマそれぞれにおいて概論講義・フィールドワーク・グループ討論・発表を行うが、フィールドワークの日程によりその他の活動日程を変更することがある。地域とのフィールドワーク調整の都合上、履修人数を制限する場合がある。					
オフィスアワー	授業時間の前後(事前にメール等で相談のこと)					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ジェンダー論	澤井 未緩	講義	2 年次 後期	選択	2	30	KGE23103

科目の概要

ジェンダーとは何か。私たちの日常生活に大きな影響を与えているにも関わらず、見ようとしなければ見えないもの、「あたりまえ」のものとして考えている性にまつわる事柄について考える。特に、家族や労働、教育、メディアなど、身近な領域の身近な問題や素材を通して、自分が生きる社会を見つめなおすための、思考の枠組みを教授する。

到達目標

- ジェンダーやセクシャリティの基本的概念について説明できる。
- 現代社会におけるジェンダー課題について、自分なりの考えを説明できる。
- ジェンダーに関わる各テーマに関するレポートを作成し、発表できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	イントロダクション:ジェンダーってなに?あなたとわたしの話をしよう
第 2 回	教育とジェンダー①:隠れたカリキュラムに規定される「らしさ」
第 3 回	教育とジェンダー②:教育達成からみる性差
第 4 回	労働とジェンダー①:雇用機会と賃金の格差を考える
第 5 回	労働とジェンダー②:性別分業役割と育休制度
第 6 回	家族とジェンダー①:家父長制の誕生とその展開
第 7 回	家族とジェンダー②:同性婚の法制化と選択的夫婦別姓制度からひも解く伝統的家族観
第 8 回	メディアとジェンダー:CM や広告における性別固定役割
第 9 回	ルッキズムとジェンダー:「美しさ」を決定するのは誰か
第10回	暴力とジェンダー:レイプカルチャー、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、戦争
第11回	犯罪とジェンダー:加害からの「更生」を目指すには
第12回	医療とジェンダー:性別の二項対立を超えて
第13回	スポーツとジェンダー:「体育会系女子」とジェンダー秩序
第14回	「男らしさ」とジェンダー:「強くあれ」という呪い
第15回	フェミニズムとは:あなたがあなたであること、わたしがわたしであること

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1～15 回

成績評価方法	成果物 60% 定期試験(レポート)40%					
教科書	なし。授業内にプリントや資料を適宜配布します。					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること(2 時間)					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます					
オフィスアワー	授業前後に適宜お声がけください。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ダイバーシティと共生	西 徳宏	講義	2 年次 前期	選択	2	30	KGE23104

科目の概要

私たちが暮らす社会は、多様な個人や社会集団で成り立っています。しかしながら、社会の仕組みや私たちがあたりまえとする価値観の中には、多数派の論理が浸透し、弱者が排除される状況が生み出されています。また、世界規模での人の移動が活発化していく中で、互いに異なることを前提とし、尊重し合い、協働することも求められています。本講義では、多様性や共生の基本理念について理解するために、人種や文化、セクシュアリティや障害などについて、さまざまな事例に基づきその現状と課題を教授します。また、共生社会実現のために医療者に求められることについても講義します。

到達目標

- 多様性や共生の基本的概念や理論について説明できる。
- 共生に伴う具体的課題について理解し、解決策を説明できる。
- 共生社会実現のために医療者に求められる思考や知識について発表できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ダイバーシティとは何か
第 2 回	共生社会とはどのようなものか
第 3 回	子どもの教育格差について考える①
第 4 回	子どもの教育格差について考える②
第 5 回	ジェンダー・セクシュアリティについて考える①
第 6 回	ジェンダー・セクシュアリティについて考える②
第 7 回	在日外国人について考える①
第 8 回	在日外国人について考える②
第 9 回	障害があることについて考える①
第10回	障害があることについて考える②
第11回	シティズンシップを身につける①
第12回	シティズンシップを身につける②
第13回	医療・看護の分野から共生社会を考える
第14回	全体のまとめと振り返り①
第15回	全体のまとめと振り返り②

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1～15 回

成績評価方法	定期試験(レポート)60% 成果物 40%					
教科書	使用しません					
参考文献	『これからの「共生社会」を考える』小山 望(福村出版)					
事前学習(内容・時間)	毎時間テーマに基づいた課題を出すので、キーワードを事前に調べてくること(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業時まで提出すること(2 時間)					
フィードバックの方法	成果物およびレポートについては、授業内で解説します					
備考	毎時間課題を提出してもらいますので、受講生の意欲的な参加を求めます					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	△	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療ジャーナリズム論	佐々木 宏	講義	2 年次 後期	選択	2	30	KGE23105

科目の概要

医療機関や医療従事者に注がれる患者・家族や社会の目が厳しさを増している。それは命の重みと医療への期待の大きさにほかならない。『あるべき医療』には、単に医療スキルの向上だけでなく、患者・家族とのコミュニケーション(人間関係)能力を高め、社会とどう向き合っていくかも求められている。人生 100 年、コロナ禍、パンデミックの脅威など、一層、医療と福祉のあり方が注目される中、ジャーナリズムの機能と役割を理解し、新聞記事を通してどのように報道されてきたのか、実例をもとに講義する。

到達目標

- 医療に求められる社会的な視点について説明ができる。
- 多様な観点から医療に従事する者としての意識を身につけ、プレゼン(発表)、作文(小論文)で表現ができる。
- 記事を読み解き、プレゼンテーション力、文章力、コミュニケーション力を身につけられる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス(医療と高齢化社会)
第 2 回	新聞の読み方、文章の書き方
第 3 回	新聞から読み解く①(読者投稿欄から)・・・プレゼン発表
第 4 回	新聞から読み解く②(LGBTQ、ジェンダークリニック)・・・レポート提出、プレゼン発表
第 5 回	新聞から読み解く③(難病・いのちの尊さについて)・・・課題文提出
第 6 回	新聞から読み解く④(がん患者・家族の支援について)・・・プレゼン発表
第 7 回	新聞から読み解く⑤(薬害・医療事故を考える)・・・課題文提出
第 8 回	新聞から読み解く⑥(薬害エイズについて)・・・プレゼン発表
第 9 回	新聞から読み解く⑦(高齢者社会と認知症)・・・課題文提出
第 10 回	新聞から読み解く⑧(医療とスポーツ)・・・プレゼン発表
第 11 回	新聞から読み解く⑨(医療と政治)・・・課題文提出
第 12 回	グループ討論①(プレゼンテーション)
第 13 回	グループ討論②(プレゼンテーション)
第 14 回	グループ討論③(プレゼンテーション)・・・レポート提出
第 15 回	総括 医療と社会を考える

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート・・・第 12～14 回

成績評価方法	成果物 80% 小テスト 20%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	新聞もしくは資料(記事コピー)に目を通す(毎回 2 時間)					
事後学習(内容・時間)	課題文、レポートの添削で指摘されたことを再考する(毎回 2 時間)					
フィードバックの方法	原則、翌週に返却、授業内でも講評					
備考	毎回、当日の朝刊もしくは過去の記事コピーなど資料を提供します。一般常識として知っておきたい「ことば力」のミニテストを行う予定。 課題文、レポートも 5 回程度提出を求めます					
オフィスアワー	授業終了後、Teams のチャットやメールで質問を受けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
法律入門	青木 亮祐	講義	1 年次 前期	選択	2	30	KGE13105

科目の概要

法(法学)全体の考え方の基礎となる概念、手続、体系と分類などの概要について学んだ上で、契約、不法行為など社会生活を送る中で関係する法律について基本構造や基本的考え方を取り上げる。それによって社会生活をおくる中で遭遇するさまざまな場面においてどのような法がどのように機能しているのかを考える。また、看護学を学ぶ学生にとって手薄になりがちな法律素養を体験的に身につけ、法律的な思考ができるようになることをめざし講義する。

到達目標

- 自己の考え、学習によって得られた知識等を用いて、社会の規範(ルール)を他者に説得的に表現できる。
- 学修によって得られた知識を統合し、第三者に事象の説明をすることができる。
- 社会のなかの様々な問題に関心を持ち、第三者に自分なりの意見を述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	法学とは何か(法学の誕生と憲法の基本構造)
第 2 回	統治機構
第 3 回	基本的人権とは何か(自由権と社会権)
第 4 回	基本的人権の尊重①:幸福追求権、平等原則、表現の自由
第 5 回	基本的人権の尊重②:精神的自由権、経済的自由権
第 6 回	基本的人権の尊重③:社会権
第 7 回	取引の一般的ルール(民法の基本原則と意思表示論)
第 8 回	不動産の取引(所有権、借地借家法)
第 9 回	契約論と裁判手続
第10回	身近な民事トラブル(交通事故、借金問題など)
第11回	親族法・相続法
第12回	犯罪論体系、構成要件
第13回	違法性、責任
第14回	中止犯、刑罰論
第15回	まとめ

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(レポート)80% 成果物 20%(確認テストやリアクションペーパーの内容等)					
教科書	特に指定しない。毎回レジュメ資料を出す。					
参考文献	特に指定しない					
事前学習(内容・時間)	次回の内容をシラバスで確認する(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	配布したレジュメ資料を確認する(2 時間)					
フィードバックの方法	リアクションペーパーを作成し、そのなかでの意見や質問に対して回答する					
備考	日常生活で当たり前となっているルールこそ、その理由を見出せる能力を養いたい					
オフィスアワー	出講日の授業の前後 30 分(オンライン)					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	△	△	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
デッサンと表現	岩崎 朋美	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	30	KGE13201

科目の概要

デッサン・描画表現において観察は基盤であり、視覚的な要素を理解し再現する重要なプロセスであるといえる。本科目ではデッサンを通じて物事の形や構造、質感や色彩などに関心を持ち、自己表現を探究することで看護に活かされる観察力と表現力を養うことを目指す。また実技制作や成果物を通したコミュニケーションにより自己受容や客観的視点を養い他者への理解深めることを目的として授業を実施する。

到達目標

- 多様な観察方法を学び、述べることができる
- 観察や表現するプロセスの中で発見した事柄や理解した内容を自身で深め、他者へ発信・共有することを身につける
- 自身で表現手段を選択し、自己表現を身につける

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション アートワークを通した表現とコミュニケーション(1)
第 2 回	【基礎デッサン 1】 多様な視覚的要素で描く(1)クロッキー
第 3 回	【基礎デッサン 2】 多様な視覚的要素で描く(2)モチーフ
第 4 回	【基礎デッサン 3】 様々なタッチ・光と影を感じる
第 5 回	【基礎デッサン 4】 光と影の応用(1)静物
第 6 回	【基礎デッサン 5】 光と影の応用(2)風景
第 7 回	【基礎デッサン 6】 ドローイングで描く(1)モチーフ
第 8 回	【基礎デッサン 7】 ドローイングで描く(2)人物
第 9 回	【基礎デッサン 8】 抽象デッサン(1)視覚的要素以外で表現する
第 10 回	【基礎デッサン 9】 コラージュ表現 質感と構成を意識して表現する
第 11 回	【基礎デッサン 10】 モチーフデッサン(1)石
第 12 回	【基礎デッサン 11】 モチーフデッサン(2)布
第 13 回	【基礎デッサン 12】 モチーフデッサン(3)透明な素材
第 14 回	【基礎デッサン 13】 抽象デッサン(2)様々な素材を構成して描く
第 15 回	看護における観察 アートワークを通した表現とコミュニケーション(2)

アクティブ・ラーニング

その他…アートカードの使用やデッサンを行い、学生同士で感想を述べ合う。全 15 回

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	身の周りにある質感の違うものや自然物を観察しておく(30 分)。					
事後学習(内容・時間)	授業の内容を踏まえ、身の周りのものを観察する(30 分)。					
フィードバックの方法	成果物を学生同士や教員と相互鑑賞して意見交換をする。					
備考	画材は事前にセット購入してもらいます。(1500 円程度必要)					
オフィスアワー	授業終了後、教室や Teams のチャットで質問を受け付けます。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
茶道と香道の理論と表現	飯島 照仁	講義・演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12201

科目の概要

本科目は、茶の湯の学術的基礎を概観し、茶を「点てる」「飲む」という実践を行う。また季節感のある茶の湯のお菓子を、グループ茶会のもてなしのためにデザインする。さらにお香の種類と基礎を学ぶ。茶道表現の理論的・実践的講義を通して、伝統芸術の創造と将来への展望、そして何よりも看護の分野へ応用できるよう教授する。

到達目標

- 客の心得を理解し、考え方を述べることができる。
- 盆略点前を習得し、その技術を実践できる。
- 茶の湯・お香の基礎を学び、概要とその考え方を述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	茶の湯入門(茶道のこころ 1)
第 2 回	茶の湯入門(茶道のこころ 2)
第 3 回	茶についての基礎知識
第 4 回	茶道の成り立ち(茶道史 1)
第 5 回	茶道の成り立ち(茶道史 2)
第 6 回	茶道の基礎知識 1(茶室と露地)
第 7 回	茶道の基礎知識 2(茶花)
第 8 回	茶道の基礎知識 3(茶席のお菓子)
第 9 回	茶道の基礎知識 4(茶道具)
第10回	実技のための総論
第11回	茶の湯基礎・割稽古 1
第12回	茶の湯基礎・割稽古 2
第13回	茶の湯の基礎・盆略点前 1
第14回	茶の湯の基礎・盆略点前 2
第15回	独自のお菓子をデザインしてお茶会の準備をする

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 10～15 回

成績評価方法	小テスト 50% 成果物 50%					
教科書	必要に応じてオンデマンドの資料等の配布をする					
参考文献	『茶の湯がわかる本』飯島照仁共著(淡交社)					
事前学習(内容・時間)	配布資料の確認(30 分)					
事後学習(内容・時間)	配布資料の確認と実技の復習(30 分)					
フィードバックの方法	課題・実技に関しては対面授業内で解説します					
備考						
オフィスアワー	授業の前後					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生け花の理論と表現	小林 秀加	講義・演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12202

科目の概要

この授業は、花に触れ、花の表情に気付き、命の尊さ・奥深さを学ぶことが目的である。実際に季節の花を活けることにより、花を活かすことを教授する。いけ花を通して自身の感性を豊かに磨き、表現する能力を養い、表現を通して自分自身を知ってもらいたい。また花を中心に色彩・効用・祭との関わり等、実践を交えながら解説する。

到達目標

- 実践(技能・技術の習得)を通して生け花の本質を探り、作品を通して伝統芸術の根底にある日本的な心(知識・考え方)を表現できる。
- 季節の花に触れ、草花の命を見つめ、花の表情を捉え、いけ花の技能を生かし表現する技能・技術をつける。
- 自身の作品を通して、また他者の作品を眺めることで、これまでに知りえなかった自己の特性・性格を客観的に理解し表現する。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	生け花とは ― 授業で何を学ぶのか(目的・内容・評価)。生け花とは、花を活ける過程を見せる(実践)―
第 2 回	花との対話 ― 実践を通して花を活かす「活け花」(盛花)を学ぶ。道具について学ぶ―
第 3 回	表現原理 ― いけ花は何を表現しているのか、理論・実技から学ぶ ―
第 4 回	生け花の誕生 ― 花と人との関係を知り、その歴史を古代から現代まで探る ―
第 5 回	技と表現様式 ― 壺に生ける生け方(投入)を実践。花の扱いについて学ぶ ―
第 6 回	器との調和 ― 花器の種類や素材・焼き物について学ぶ。器による表現法を学ぶ ―
第 7 回	生け花の型① ― 飾る場所を意識して花を活ける(斜主型・直主型)―
第 8 回	伝統行事の花 ― 節句を中心に花との関係を知る・祭りとは① 葵祭と花 ― 盛花の生け方
第 9 回	生け花の型② ― 飾る場所を意識して花を活ける(横主型・垂主型)―
第10回	敷板との調和 ― 敷板としての塗り物・その効用についても学ぶ・敷板を意識した空間表現 ― 投入の生け方
第11回	生け花の型③ ― 飾る場所を意識して花を活ける(四方正面型)―
第12回	植物の効用 ― 薬用としての植物を学ぶ ― 季節をテーマにした作品
第13回	祭りとは② ― 祇園祭と花 ― 連鎖・株分けの作品
第14回	植物の染料 ― 日本の伝統色彩から花との深い関係を捉える―色を意識した作品
第15回	いけ花作品の制作・展示・合評

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション…第 3,7,9,11 回
実習・フィールドワーク…第 5,15 回

成績評価方法	成果物 85% 定期試験(レポート)15%					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業で紹介する内容を前回の授業で確認し、それを踏まえ当日までに予習する(20 分)					
事後学習(内容・時間)	授業での成果物の添削内容を踏まえ、次に生かせるよう学習する(40 分)					
フィードバックの方法	課題提出に対して、個々とやりとりしながら指導					
備 考	授業用物品(花はさみと剣山、花代等)は 8,000 円～10,000 円程度が必要になります。詳細は別途お知らせします。					
オフィスアワー	授業時間前後					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
書芸術の理論と表現	池田 方彩	講義・演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12203

科目の概要

書とは筆墨をかりて文字を書くということであるが、文字には表意文字(漢字)と表音文字(仮名(かな))があり、その書体には篆隸楷(てんれいかい)行草(ぎょうそう)の五體(ごたい)、および仮名(かな)文字があり、書風も線質・字形・章法によって様々である。かような書の美を歴史的に順を追って講義する。また古典各体の臨書を課することで、名筆の有する深い人格性や高い技芸力、詩魂や情操の結実した造形の筆跡を理解する力を身に付け、さらに自ら書写することの喜びを感得してもらう。

到達目標

- 書(詞章)の意味を考え、内容を味わうことにより感性を高め、書写能力を向上させる。
- 書(文字)の鑑賞力を向上させ、芸術的な視点から述べることができる。
- 実際に書くという行為の楽しさを知り、自娛の境地を体得し、自らの書に表すことができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	(講義)書芸術概論
第 2 回	(実技)臨三体千字文
第 3 回	(講義)奈良朝写経
第 4 回	(実技)臨三体般若心経・臨細楷般若心経
第 5 回	(講義)平安朝三筆・三蹟
第 6 回	(実技)臨空海・臨行成
第 7 回	(講義)平安朝仮名
第 8 回	(実技)仮名いろは文字
第 9 回	(講義)鎌倉熊野懷紙
第10回	(実技)臨篆書・臨隸書
第11回	(講義)墨蹟(禅の書)
第12回	(実技)座右の銘
第13回	(講義)江戸の書
第14回	(実技)詠七夕懷紙
第15回	(講義)近現代の書 (実技)自由創作

アクティブ・ラーニング

その他…第 4,6,8,10,12,14,15 回

成績評価方法	成果物 65%(実技) 定期試験(レポート)35%(400 字×5 枚)					
教科書	適宜資料を配布する					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業計画を確認しておく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義で配布した資料をしっかりと読むこと(2 時間)					
フィードバックの方法	作品は講評し、次回評価をお伝えします					
備考	筆ペン(細字用)の用意。受講中は私語を慎み、他者に迷惑をかけること。					
オフィスアワー	授業時間前後					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語 I	毛利 郁子	演習	1 年次 前期	必修	1	30	KGE11301

科目の概要

基礎的な文法と構文を説明し、テキストを用いて看護・医療分野における専門用語を教授する。英語の読解力を深めながら同時に Listening, Writing, Speaking の 4 技能全てを向上させ、自分の考えを適切に英語で表現し、英語で意思疎通が図れるように指導する。学期末には医療関連の英語の文献を辞書や検索ツールを用いながら読んで理解し、英作文、医療現場での英会話ができるように講義する。

到達目標

- 医療英語の専門用語の覚え方や基礎的な語彙を身につける事により、医療関連の文献を読むことができる。
- 辞書や検索ツールを用いて医療分野の英語を日本語に訳すことができる。
- 医療現場で想定される会話を英語で行い、患者に伝達したい事を英語で表現できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション および Unit1-1 First Visit to a Hospital (来院)
第 2 回	Unit1-2 First Visit to a Hospital (来院)/ 1回目授業の小テスト / プレゼンテーション
第 3 回	Unit2-1 How to Fill in a Registration Form (初診の受付) その 1 / 2回目授業の小テスト / プレゼンテーション
第 4 回	Unit2-2 How to Fill in a Registration Form (初診の受付) その 2 / 3回目授業の小テスト
第 5 回	Unit3-1 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く) その 1 / 4回目授業の小テスト
第 6 回	Unit3-2 Let's Ask about Mr. Brown's Daily Activities (生活習慣を聞く) その 2 / 5回目授業の小テスト
第 7 回	Unit4-1 Mr. Brown's Symptoms (問診 1) その 1 / 6回目授業の小テスト
第 8 回	Unit4-2 Mr. Brown's Symptoms (問診 1) その 2 / 7回目授業の小テスト
第 9 回	Unit5 Medical Checkup 1 (脈拍・血圧・体重の測定)/ 8回目授業の小テスト
第10回	Unit6 Medical Checkup 2 (採血・採尿)/ 9回目授業の小テスト
第11回	Unit7-1 Mr. Brown's Diagnosis (診断 1) その 1 / 10回目授業の小テスト
第12回	Unit7-2 Mr. Brown's Diagnosis (診断 1) その 2 / 11回目授業の小テスト
第13回	Unit8-1 Mr. Anderson's Symptoms (問診 2) その 1 / 12回目授業の小テスト
第14回	Unit8-2 Mr. Anderson's Symptoms (問診 2) その 2 / 13回目授業の小テスト
第15回	学期の復習 (Unit 1-8)

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1,3,5,7,9,10,11,13 回
 ディスカッション・ディベート…第 2,4,6,8,12,14 回
 プレゼンテーション…第 2,3 回

成績評価方法	定期試験(筆記)40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『First Aid!』樋口晶彦(金星堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	単語調べなどの教科書の予習(30 分程度)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習(1 時間程度)					
フィードバックの方法	小テストは授業中に答え合わせをしてフィードバックをする					
備考	辞書とノートを持参					
オフィスアワー	授業の前後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅱ	毛利 郁子	演習	1 年次 後期	必修	1	30	KGE11302

科目の概要

英語Ⅰでの学習を基盤とした更に応用的な看護・医療英語を講義する。Reading, Writing, Listening, Speaking の四技能をバランスよく授業に取り入れ、医療現場において英語でコミュニケーションを図れるように教授する。生活習慣病や脳卒中等の疾患や医療現場で使われる医療機器や薬について英語で理解し、患者に疾患・投薬・検査および検査結果等について英語で伝達できるように講義する。

到達目標

- 医療現場の様々な場面で見聞きする英語を理解し、日本語に変換する事ができる。また日本語を英語に変換する事ができる。
- 患者の気持ちを思いやり、不安を取り除いたり励ましたりする言葉を英語で書くことができる。
- 患者に疾患や薬の説明をわかりやすく英語で説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーションと英語Ⅰの復習 / プレゼンテーション
第 2 回	Unit9-1 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptom (症状をより詳しく聞く)その 1
第 3 回	Unit9-2 Let's Ask More about Mr. Anderson's Symptom (症状をより詳しく聞く)その 2 / 2回目授業の小テスト
第 4 回	Unit10-1 Explaining Blood Test Results (診断 2 血液検査)その 1 / 3回目授業の小テスト
第 5 回	Unit10-2 Explaining Blood Test Results (診断 2 血液検査)その 2 / 4回目授業の小テスト
第 6 回	Unit11-1 How to Take Medicines (薬の説明)その 1 / 5回目授業の小テスト
第 7 回	Unit11-2 How to Take Medicines (薬の説明)その 2 / 6回目授業の小テスト
第 8 回	Unit12-1 Mrs. Johnson Feels Dizzy (問診 3) その 1 / 7回目授業の小テスト
第 9 回	Unit12-2 Mrs. Johnson Feels Dizzy (問診 3) その 2 / 8回目授業の小テスト
第10回	Unit13-1 An MRI Test (MRI を受ける)その 1 / 9回目授業の小テスト
第11回	Unit13-2 An MRI Test (MRI を受ける)その 2 / 10回目授業の小テスト
第12回	Unit14-1 Recommending an Operation (手術を勧める) その 1 / 11回目授業の小テスト
第13回	Unit15 Post-operative Care (術後のコミュニケーション) / 12回目授業の小テスト
第14回	学期の総復習 1 / 13回目授業の小テスト / プレゼンテーション
第15回	学期の総復習 2 / プレゼンテーション

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2,4,6,8,10～13 回
ディスカッション・ディベート…第 3,5,7,9 回
プレゼンテーション…第 1,14,15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)40% 小テスト 30% 成果物 30%					
教科書	『First Aid!』樋口晶彦(金星堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	単語調べなど教科書の予習(30 分程度)					
事後学習(内容・時間)	授業の復習(1 時間程度)					
フィードバックの方法	小テストは授業中に答え合わせをしてフィードバックをする					
備考						
オフィスアワー	授業の前後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話 I	池田 美智子	演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12301

科目の概要

医療現場における英語によるコミュニケーションを中心に、Listening と Speaking を主軸とした英語活動を行う。そのため、医療や看護に関わる語彙の修得、基本的な英会話のパターンの修得、ペアやグループでの実践などを基本とする。また、将来、多様な文化的、言語的背景を持つ人々と接していくことを想定し、文化の違いなどに配慮し、相手を包括的に理解してコミュニケーションを深めることを目指す。日常的な会話場面を中心に、的確に機能できる英語能力の基本を講義する。

到達目標

- テキストの役立つ表現を英語で説明できるだけでなく、記述も出来る。
- 会話だけでなく、英文を書くときのルールを習得し、英文で患者の症状、生活習慣についても記述できる。
- 病院で必要とされるフォームを英語で記入できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	授業の進め方と成績評価の説明と Lesson 1 In the Lobby of the Hospital 病院にて(その 1)
第 2 回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital 病院にて(その 2)
第 3 回	Lesson 1 In the Lobby of the Hospital 病院にて(その 3)
第 4 回	Lesson 2 Registration 受付登録(その 1)
第 5 回	Lesson 2 Registration 受付登録(その 2)
第 6 回	Lesson 3 Checking the Registration 診察券を確認する(その 1)
第 7 回	Lesson 3 Checking the Registration 診察券を確認する(その 2)
第 8 回	Lesson 1 ~ Lesson 3 の復習
第 9 回	Lesson 4 Finding the Way 院内案内(その 1)
第10回	Lesson 4 Finding the Way 院内案内(その 2)
第11回	Lesson 5 Personal History 病歴(その 1)
第12回	Lesson 5 Personal History 病歴(その 2)
第13回	Lesson 6 Daily Activities 生活習慣(その 1)
第14回	Lesson 6 Daily Activities 生活習慣(その 2)
第15回	Lesson 4 ~ Lesson 6 の復習

アクティブ・ラーニング

第 2,4,6,9,11,13 回に学生同士ペアとなり、テキストの患者と看護師や患者と事務員との会話を練習する。

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『やさしい看護英語』助川 尚子 他(成美堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する範囲の内容や単語について必ず調べておく(30 分)					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について復習し、英語で記述できるようにしておく(60 分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う					
備 考	テキスト、ノート、筆記用具は必ず持参すること。 授業内容に関連する配布プリントはなくさないように各自でファイルしておく。					
オフィスアワー	授業の前後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英会話Ⅱ	池田 美智子	演習	1 年次 後期	選択	1	30	KGE12302

科目の概要

ここで学ぶ英会話は一般のコミュニケーションにおいても欠かせない表現が多く含まれ、看護の現場以外でも役立つものが多い。授業は、病院を舞台として、そこで患者と看護師の間でかわされる会話を中心に進める。特に、既往歴や生活習慣についての質問形式や検査及び薬についての説明や服用の指示など叙述や命令形を中心に講義する。

到達目標

- テキストの役立つ表現を英語で説明できるだけでなく、記述もできる。
- 会話だけでなく、英文を書くときのルールを習得し、英文で患者の症状、生活習慣、検査や与薬についても記述できる。
- 病院で必要とされるフォームを英語で記述できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	授業の進め方についての説明と Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣(その1)
第 2 回	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣(その2)
第 3 回	Lesson 7 More about Daily Activities 詳細な生活習慣(その3)
第 4 回	Lesson 8 Asking about Symptoms 症状について(その1)
第 5 回	Lesson 8 Asking about Symptoms 症状について(その2)
第 6 回	Lesson 9 More about Symptoms 詳細な症状について(その1)
第 7 回	Lesson 9 More about Symptoms 詳細な症状について(その2)
第 8 回	Lesson 7 ~ Lesson 9 復習
第 9 回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight 血圧と体重測定(その1)
第10回	Lesson 10 Checking Blood Pressure and Weight 血圧と体重測定(その2)
第11回	Lesson 11 Laboratory Specimen 検査用検体について(その1)
第12回	Lesson 11 Laboratory Specimen 検査用検体について(その2)
第13回	Lesson 12 Taking Medicines 薬剤服用について(その1)
第14回	Lesson 12 Taking Medicines 薬剤服用について(その2)
第15回	Lesson 10 ~ Lesson 12 復習

アクティブ・ラーニング

第 2, 4, 6, 10, 12, 14 回に学生同士ペアとなり、患者と看護師もしくは、患者と事務員のテキストの会話を練習する。

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『やさしい看護英語』助川 尚子 他(成美堂)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業の前に必ず学習する範囲の内容や単語について調べておく。(30 分)					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について復習し、英語で記述できるようにしておく。(60 分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う。					
備 考	テキスト、ノート、筆記用具は必ず持参すること。 授業内容に関連する配布されたプリントはなくさないようにファイルしておくこと。					
オフィスアワー	授業の前後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅲ	池田 美智子	演習	2 年次 前期	選択	1	30	KGE22301

科目の概要

看護師と患者の対話、痛みや症状の表現、薬の基本的知識など、看護・医療の現場で役に立つ様々な英語表現の基礎と応用を学ぶ。英作文や英会話を学習しながら、リーディングのみならず、リスニング、ライティング、スピーキングをも総合的にスキルアップし、英語でコミュニケーションをとれるように講義する。ペアワーク、グループワークのアクティブラーニングで行う。

到達目標

- リーディングを中心に総合的な英語力を修得し、医療関連の文献を英語で読める。
- 医療に必要な語彙や知識を英語で修得し、それらを用いて記述または説明できる。
- 看護のための専門用語や英語表現を修得し、それらを用いて患者とコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	授業についての進め方と成績の付け方の説明を行う。 Unit 1 No Regrets 後悔はない(その1)
第 2 回	Unit 1 No Regrets 後悔はない(その2)
第 3 回	Unit 2 Ordinary Things ありふれたこと(その1)
第 4 回	Unit 2 Ordinary Things ありふれたこと(その2)
第 5 回	Unit 3 Making It Fit 馴染ませること(その1)
第 6 回	Unit 3 Making It Fit 馴染ませること(その2)
第 7 回	Unit 4 Promises to Keep 守るべき約束(その1)
第 8 回	Unit 4 Promises to Keep 守るべき約束(その2)
第 9 回	Unit 5 The Eyes of a Pediatric Nurse 小児科看護師として(その1)
第10回	Unit 5 The Eyes of a Pediatric Nurse 小児科看護師として(その2)
第11回	Unit 6 Bed Bath 清拭(その1)
第12回	Unit 6 Bed Bath 清拭(その2)
第13回	Unit 7 A Nurse's Mother's Nurses 看護師の母親を担当して看護師たち(その1)
第14回	Unit 7 A Nurse's Mother's Nurses 看護師の母親を担当した看護師たち(その2)
第15回	Unit 1 ~ Unit 7 の復習

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2, 4, 6, 8, 10 回

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『看護師たちのリフレクション 医療現場のストーリーで学ぶ英語 Reflections—Learning English through Real Nursing Stories』田中芳文(三修社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次回に学習する範囲の単語や内容を調べておく(30 分)					
事後学習(内容・時間)	学習したところの単語や英語表現を必ず復習しておく(60 分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う					
備考	テキスト、ノート、筆記用具は必ず持参すること。 あれば電子辞書を持参。					
オフィスアワー	授業の前後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
英語Ⅳ	池田 美智子	演習	2 年次 後期	選択	1	30	KGE22302

科目の概要

米国看護学専門誌 American Journal of Nursing の Reflections というコラムには看護師、医療従事者、患者やその家族が執筆しているエッセイがある。このエッセイを読み進めることで、実際の看護現場で起こり得る事象の英語表現に触れてもらい、それについて説明する。また、看護の分野で必要とされる重要単語や表現を説明する。

到達目標

- リーディング、ライティング、リスニングを通じて医療に関する看護の専門知識を身につけ、表現できる。
- 医療に必要な語彙や役立つ知識を英語で修得し、それらを用いて記述または説明することができる。
- 看護のための専門用語や英語表現を修得し、それらを用いて患者とコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	授業の進め方の説明と成績の付け方について説明する。 Unit 8 A Place for Palliative Care 緩和ケアにふさわしい機会(その1)
第 2 回	Unit 8 A Place for Palliative Care 緩和ケアにふさわしい機会(その2)
第 3 回	Unit 9 My Turn 私の順番(その1)
第 4 回	Unit 9 My Turn 私の順番(その2)
第 5 回	Unit 10 Big Love 大いなる愛(その1)
第 6 回	Unit 10 Big Love 大いなる愛(その2)
第 7 回	Unit 11 Socks and All... ソックスもすべて(その1)
第 8 回	Unit 11 Socks and All... ソックスもすべて(その2)
第 9 回	Unit 12 Dirtiest House in Town 町で一番汚れた家(その1)
第10回	Unit 12 Dirtiest House in Town 町で一番汚れた家(その2)
第11回	Unit 13 Hiding a Tender Soul 思いやりのある心を隠すこと(その1)
第12回	Unit 13 Hiding a Tender Soul 思いやりのある心を隠すこと(その2)
第13回	Unit 14 Keeping Secrets 秘密を守ること(その1)
第14回	Unit 14 Keeping Secrets 秘密を守ること(その2)
第15回	Unit 8～Unit 14 の復習

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2,4,6,8,10,12,14 回

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『看護師たちのリフレクション 医療現場のストーリーで学ぶ英語 Reflections—Learning English through Real Nursing Stories』田中芳文(三修社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	学習する内容や単語について調べておく。(30 分)					
事後学習(内容・時間)	学習した単語や英語表現について、必ず復習する。(60 分)					
フィードバックの方法	次回、もしくはそれ以降の課題返却時に解説を行う。					
備考	テキスト、ノート、筆記用具は必ず持参する。 あれば電子辞書を持参。					
オフィスアワー	授業の前後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語 I	渋谷 直樹	演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12303

科目の概要

この授業では旅行でパリに来た Yumi とパリに住む Alex との会話を通して、フランス語での自己紹介や旅行・日常生活に必要なフランス語表現の基礎が学べられるよう授業を進めていきます。それに伴い自分に関する情報を話しかつ書くことができるように、基本的なフランス語文法もお教えします。またフランスの文化や歴史に関する映像を視聴することで、フランス人の考え方や日常生活といった異文化理解が深められるような講義をいたします。

到達目標

●自己紹介に関連したさまざまなフランス語表現を身に着け、同時に旅行や日常生活にも役立つ会話をすることができる。 ●自己紹介に必要な基礎的な文法を習得することで、フランス語で自分についての情報を伝えるだけでなく書くこともできる。 ●文化に関するコラムや映像を通じて、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	【イントロダクション】① ガイダンス ② パリの街並みと歴史的建築物 ③ フランス語
第 2 回	【フランス語の音と綴り】① フランス語と日本語の聞き比べ ② アルファベット ③ 略字
第 3 回	【日常よく使われる表現】① 挨拶 ② 受け答え ③ 呼びかけ ④ お礼 ⑤ お詫び ⑥ 依頼
第 4 回	【国籍】① 主語人称代名詞 ② 動詞 « être »「～です」 ③ 国籍 ④《語彙・実践》「さまざまな国籍」 ⑤《文化》「多民族社会フランス」
第 5 回	【名前・職業・年齢】① 名前 ② 職業 ③《語彙》「数字 1-30」 ④ 動詞 « avoir »「持っている」 ⑤ 年齢 ⑥《文化》「日本人は若作り？」
第 6 回	【言語・品質形容詞】① « - er 動詞 » ②《語彙》「言語」 ③「私は～語を話します」 ④ 形容詞の性数一致 ⑤《文化》「フランスの日本語学習」
第 7 回	【名詞と形容詞】① 名詞の性数 ② 不定冠詞 ③ « que »「何？」 ④ 指示代名詞 « ce (c') » ⑤《語彙》「日用品 I」 ⑥ 形容詞の位置
第 8 回	【好み (1)】① 定冠詞 ② 動詞 « aimer »「好きである」 ③《語彙》「国名・趣味」 ④《文化》「日本のマンガ・アニメ」
第 9 回	【好み (2)】①《実践》「特に～が好きです」 ②《実践》「不定冠詞から定冠詞に変換する表現」 ③《文化》「宮崎駿のアニメ」
第10回	【疑問文・居住地】① « Oui. / Non. » を尋ねる疑問文 ② 動詞 « habiter »「住んでいる」 ③ « où »「どこ？」を用いた疑問文 ④ 住んでいる所
第11回	【否定文】① 否定形 I ②《実践》「さまざまな動詞の否定文」
第12回	【位置】①《語彙》「建造物 / 場所を示す前置詞」 ②「～には…があります」 ③ 量の表現 ④《文化》「パリのカルティエ (地区)」
第13回	【状態・冠詞】① 疑問形容詞 « quel »「どんな」「どの」 ② 部分冠詞 ③ 冠詞のまとめ
第14回	【欲求 (1)】① 動詞 « vouloir + 名詞 »「～が欲しいです」 ② 動詞 « vouloir + 不定詞 »「～がしたいです」
第15回	【小テスト】3 回目～14 回目の授業についてのまとめと小テスト

アクティブ・ラーニング

2 回目～14 回目 フランス語の発音とフランス語による会話

成績評価方法	成果物 45% (文法の練習問題を提出) 小テスト 40% (15 回目の授業で行う小テスト) 成果物 15% (フランス語の発音と会話)					
教科書	『パリのクール・ジャパン』藤田裕二 (朝日出版社)					
参考文献	授業中に紹介します。					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい。(30 分)					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを学ぶ際、語学の授業ではすでに習ったことは全て理解済みとして授業を進めていきますので、しっかりと復習をしておいて下さい。(1 時間)					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明をしながら次回の授業の最初にお返しします。					
備考	フランス語の発音やフランス語会話、並びに文法に関する練習問題を毎回してもらいます。 私語などによる授業妨害は厳禁で厳しい措置をとります。また度重なる途中退出は規定に基づき欠席とし、出席登録の不正が認められた場合も、厳格に取り扱います。					
オフィスアワー	授業の終了後 30 分、教室で質問を受け付けます。					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	—	○	△	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
フランス語Ⅱ	渋谷 直樹	演習	1 年次 後期	選択	1	30	KGE12304

科目の概要

この授業は「フランス語Ⅰ」で用いた教科書の後半から始めます。パリを舞台に Yumi と Alex との対話の中で使われている中級フランス語会話を身に着けるために、前期よりも高度な文法を教授します。そして 1 つの技能に偏るのではなく、4 技能（話す・聞く・読む・書く）をフランス語において習得することを目指した授業を行います。またフランスの文化や歴史に関する映像を視聴することで、フランス人の考え方や日常生活といった異文化理解が深められるような講義をいたします。

到達目標

- 自分の考えや欲求のみならず、自分が置かれた状況の説明や過去の出来事をフランス語で伝えるだけの会話ができる。
- 会話における中級文法を習得することで、フランス語での簡単な物語を読むだけでなく、文章、手紙、メールを書くことができる。
- 映像や文化に関するコラムを通して、フランスの日常生活やフランス人の物の考え方を理解し、説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	【イントロダクション・フランスの童話の世界】① 前期授業の復習 ② フランスの 18 世紀 ③ フランスの童話
第 2 回	【欲求 (2)】①《語彙》「食べ物と飲み物」② « avoir envie de + 名詞 »「～が欲しいです」 ③ « avoir envie de manger / boire + 名詞 »「～が食べたい / 飲みたいです」
第 3 回	【行く・来る】① 動詞 « aller »「行く」② « aller + 不定詞 »「～しに行く」③ 動詞 « venir »「来る」 ④ « venir + 不定詞 / de + 不定詞 »「～しに来る / ～したばかり」
第 4 回	【前置詞と定冠詞】① 前置詞 « à / de » ② 冠詞の縮約 ③《文化》「パリのレストラン」
第 5 回	【家族 (1)】① 所有形容詞 ②《語彙》「家族」③《文化》「日本の生活様式」
第 6 回	【家族 (2)】①《実践》「所有形容詞を用いた家族構成」② 人称代名詞の強勢形
第 7 回	【買い物 (1)】① 指示形容詞 « ce »「この / その / あの」② 形容詞と副詞の比較級 ③《文化》「パリで出会う日本のもの」
第 8 回	【買い物 (2)】① 指示代名詞 « celui » ② « combien »「どれだけ？」③《語彙》「日用品Ⅱ」④《実践》「理由の表現・値段」
第 9 回	【ジャパン・エキスポ (1)】① 命令形 ② 中性代名詞 « y » ③《語彙》「曜日・月」④ 日時の表現
第 10 回	【ジャパン・エキスポ (2)】① 補語人称代名詞 ②《実践》「直接・間接補語」③《文化》「ジャパン・エキスポ」
第 11 回	【天候】① 代名動詞 ② 非人称 ③《語彙・実践》「天候・時刻」④ 形容詞の女性形 ⑤《文化》「フランスの気候」
第 12 回	【美術館】① « qui »「誰？」② 過去形Ⅰ ③《語彙》「衣服と色」④《実践》「買ったもの」⑤《文化》「ジャポニズムとクール・ジャパン」
第 13 回	【バカンス】① 過去形Ⅱ ② 否定形Ⅱ ③ « comment »「どのように？」④《語彙》「乗り物」⑤《実践》「目的地までの交通手段」
第 14 回	【Yumi の帰国】① 未来形 ②《語彙》「季節と未来」③ 感嘆文 ④《実践》「予定」⑤《文化》「フランスと日本のバカンス事情」
第 15 回	【小テスト】2 回目～14 回目の授業についてのまとめと小テスト

アクティブ・ラーニング

2 回目～14 回目 フランス語の発音とフランス語による会話

成績評価方法	成果物 45%(文法の練習問題を提出) 定期試験(筆記)40%(15 回目の授業で行う小テスト) 成果物 15%(フランス語の発音と会話)					
教科書	『パリのクール・ジャパン』藤田裕二(朝日出版社)					
参考文献	授業中に紹介します。					
事前学習(内容・時間)	理解をより早めるために、授業の予習として毎回一通り教科書に目を通しておいて下さい。(30 分)					
事後学習(内容・時間)	次の授業で新しいことを学ぶ際、語学の授業ではすでに習ったことは全て理解済みとして授業を進めていきますので、しっかりと復習をしておいて下さい。(1 時間)					
フィードバックの方法	提出して頂いた練習問題は添削をし、間違えたところは説明をしながら次回の授業の最初にお返しします。					
備考	前期の続きからですので、前期で学んだ文法は全て理解済みとして授業を進めます。 ですので、既修者の授業の進行を遅らせないためにも、初学者は最初の 1 ヶ月ほどは 20 分ほどの補講を行い、課題もしてもらいます。 私語などによる授業妨害は厳禁で厳しい措置をとります。また度重なる途中退出は規定に基づき欠席とし、出席登録の不正が認められた場合も、厳格に取り扱います。					
オフィスアワー	授業の終了後 30 分、教室で質問を受け付けます。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	—	○	△	—	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅰ	潘 建秀	演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12305

科目の概要

中国語の入門クラス。前半では、中国語の発音練習や四声及び発音表記である「ピンイン」の修得に重点をおいて授業を進め、後半から簡単な中国語の会話を通じて発音や四声を確認なものにしながら、語彙を増やすとともに文法を理解できるように指導する。

到達目標

●ピンインが正しく表記ができ、発音することができる。 ●教科書で学んだ文法を理解し、文例に出た表現をマスターすることができる。 ●授業で学んだ内容を活用し、中国語で簡単な文書の作成や、コミュニケーションをすることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、中国語の特徴、発音の基本 ①声調 ②単母音 ③複合母音
第 2 回	発音の基本 子音 鼻母音
第 3 回	声調の組み合わせ 発音の総合的な練習
第 4 回	第一課 ①人称代名詞 ②「是」の文 ③「吗」疑問詞 ④名前の言い方
第 5 回	第一課 チャレンジ及びスキット 第二課 ①動詞が述語になる文 ②指示代名詞
第 6 回	第二課 ③疑問詞を使う疑問文 ④「的」 チャレンジ及びスキット
第 7 回	中国文化紹介と小テスト(中間試験)及び解説
第 8 回	第三課 ①形容詞が述語になる文 ②所有をあらわす「有」 ③反復疑問詞 ④副詞「也」と「都」
第 9 回	第三課 チャレンジ及びスキット 第四課 ①場所代名詞 ②存在「在」 ③動詞の重ね型 ④省略疑問文「呢」
第10回	第四課 チャレンジ及びスキット 第五課 ①数詞 ②量詞 ③「几」と「多少」④語気助詞「吧」
第11回	第五課 チャレンジ及びスキット 第六課 ①存在“有”②連動文 ③月日・曜日 ④時刻
第12回	第六課 チャレンジ及びスキット 第七課 ①要・想 ②介詞“在・从”③完了“了”
第13回	第七課 チャレンジ及びスキット 第八課 ①助動詞 “能・会・可以”②経験を表す“过”③時間の長さ
第14回	第八課 チャレンジ及びスキット 総合復習
第15回	中国文化紹介と小テスト(期末試験)及び解説

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 4,6,9 回

成績評価方法	小テスト 50% (授業内での筆記試験。中間 20%, 期末 30%) 小テスト 20% (授業内での実技試験。中間 10%, 期末 10%) 小テスト 30% (その他)					
教科書	『中国語ポイント42』本間史(白水社)					
参考文献	授業中に指示します。					
事前学習(内容・時間)	授業前に CD を使って単語の発音を予習しておく(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	毎回習った会話文を復習しておく(1 時間)					
フィードバックの方法	試験の解説は授業内で行います。					
備考	発音練習時は積極的に口に出して練習しよう					
オフィスアワー	授業の前後					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
中国語会話Ⅱ	潘 山海	演習	1 年次 後期	選択	1	30	KGE12306

科目の概要

中国語会話Ⅰを踏まえ、発音システムや基礎知識を固めながら実践的な中国語会話(医療系に重点を置き)を講義する。教員がリードして学生に中国語会話必要表現を朗読・暗記させながら、グループワークを通して場面別の会話を教授する。また、話題関連や場面に合わせて中国の文化・歴史・習慣及び医療・看護などの現状知識も紹介する。

到達目標

- 中国語発音スキルの必須項目「四声」と「拼音一覧表」を暗唱することができ、実践に活用できる。
- 場面別の実用的な中国語会話表現(医療系に重点を置き)を習得し書面と口頭の両方で再現できる。
- 中国の歴史・文化・習慣や医療・看護等の現状についての知識をある程度述べられる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス(学習注意事項等を説明)、自分の名前を中国語で読む・呼び合う練習・基本挨拶復習
第 2 回	中国語の「四声」と「拼音一覧表」をスラスラ読めるように繰り返し音声練習し、暗唱・暗記できるようにする
第 3 回	第一課:好久不见。你好吗?(日常挨拶・副詞+動詞・主語+述語・“吗?”疑問文など)
第 4 回	第二課:你是中国人吗?(人称代詞・S+V+O・疑問代名詞疑問文 1 など)
第 5 回	第三課:你有健康保险吗?(指示代詞・“的”の用法・疑問代名詞疑問文 2 と反復疑問文)
第 6 回	第四課:家里都有什么人?(数の数え方・方位名詞・存在文など)
第 7 回	第五課:请在那儿稍等一下。(場所指示代詞・所在文・“在”の用法など)
第 8 回	第六課:会说一点儿。(可能を表す助動詞 1[能・会]・必要/当然[要・應該]を表す助動詞など)
第 9 回	第七課:请去检查作检查吧。(願望を表す助動詞[想]・選択疑問文[A それとも B?] など)
第 10 回	第八課:你怎么了?(状態補語“得”・方向補語“来/去/上/下”・使役表現“讓”など)
第 11 回	第九課:请张开口!(結果補語[V+見/住]・可能補語[得/不]・進行表現[在+V])
第 12 回	第十課:你吃过这种药吗?(二重目的語[S + V + Oi + Od]・経験態[V+過]・完了態[V+了])
第 13 回	第十一課:请把衣服放在那儿!(出現/消失の表現法・“把”字文・持続態[V+着])
第 14 回	第十二課:病情比以前好多了。(比較の表現法[A 比 B~]・可能を表す助動詞 2[可以+V]など)
第 15 回	各種用語/表現の補充学習及び重点復習(身体部位用語・趣味表現・病名/病状・検査/治療用語など)

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1~15 回

成績評価方法	定期試験(実技)60% 小テスト 30% 成果物 10%					
教科書	『医療系学生のための初級中国語』山田眞一(白帝社)					
参考文献	必要に応じてその都度プリントを配布する					
事前学習(内容・時間)	授業に出る前に教科書とノートで既習内容を復習し、次回の内容を予習すること(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業で既習内容を復習し、宿題を完成すること(2 時間)					
フィードバックの方法	宿題は授業外で確認・訂正し授業内で戻し説明します。小テストは授業内で解説します。					
備考	授業に出るときは必ず教科書とノートを持参しよう。朗読練習やグループワークには積極的に参加しよう。宿題・課題は必ず完成しよう。					
オフィスアワー	授業終了後 30 分、質問を受け付ける。随時メールや Teams でも受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
韓国語 I	裴 恵麟	演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12307

科目の概要

韓国文化を親しめる雰囲気の中で、韓国語に慣れるように韓国語の基礎となる発音や文法をしっかりと説明する。単語の発音練習、読み書きなどを中心に、韓国語であいさつや自己紹介などができるように講義する。

到達目標

● 韓国語の成り立ち(「子音+母音」、「子音+母音+子音(バッチム)」)を説明できる。 ● 基本あいさつや自己紹介などができる。 ● 単語の意味や発音、読み書きができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション:韓国文化の紹介と韓国語の成り立ち、基本挨拶など
第 2 回	イントロダクション/ 第 1 課. 文字と発音(1)-単母音と初声(鼻音・流音)
第 3 回	第 1 課. 文字と発音(1)- 半母音+単母音、終声
第 4 回	第 1 課の復習、第 2 課. 文字と発音(2)- 初声(平音)、発音の規則:有声音化
第 5 回	第 2 課. 文字と発音(2)- 半母音+単母音、二重母音「의」
第 6 回	2 回から 5 回までの小テスト 1 / 第 2 課. 文字と発音(2)-発音の規則:連音化
第 7 回	小テスト 1 のフィードバック / 第 2 課復習 / 第 3 課. 文字と発音(3)- 初声(激音)
第 8 回	第 3 課. 文字と発音(3)- 初声(濃音)、発音の規則:濃音化
第 9 回	第 1 課～第 3 課. 文字と発音 総合復習(関連プリント配布)
第 10 回	7 回から 9 回までの小テスト 2 / 第 4 課. 韓国人です。- 単語、発音
第 11 回	小テスト 2 のフィードバック / 第 4 課. 韓国人です。- 「～は」「～です。～ですか？」
第 12 回	第 4 課. 韓国人です。-復習と会話練習
第 13 回	第 4 課. 韓国人です。- 「～と申します。～といいます」、内容まとめ
第 14 回	小テスト 3(筆記試験)、カナダラ歌、自己紹介など会話の練習
第 15 回	小テスト 3(筆記試験)のフィードバック 総括

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	小テスト 50%(小テスト 3/定期試験に相当する筆記試験) 小テスト 30%(小テスト 1,2/実技を含む) 成果物 20%					
教科書	『四訂版・韓国語の世界へ 入門編』李潤玉 他(朝日出版社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、予習しておく(30 分)					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、練習問題を解く(30 分)					
フィードバックの方法	直接フィードバックを行う					
備考	恥づかしいと思わず、話せると思って進んで発音し、積極的に授業に参加してください					
オフィスアワー	授業終了後 10 分間、教室で質問を受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
韓国語Ⅱ	裊 恵麟	演習	1 年次 後期	選択	1	30	KGE12308

科目の概要

韓国語の基礎「話す、聞く、読む、書く」の 4 技能を中心に発展させる。自分に関する情報を発信し、質疑応答に答えたり、会話を発展させたりできるように講義する。韓国の歴史や文化に対する見聞を広めるように説明する。

到達目標

- 文法を説明できる。
- 韓国の歴史と文化にクローズアップし、自分の意見を述べることができる。
- 質疑応答ができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション、第 5 課「韓国語は専攻ではありません。」- 語彙と表現、発音、「～が」
第 2 回	第 5 課「韓国語は専攻ではありません。」- 「～です」「～ですか？」
第 3 回	第 5 課「韓国語は専攻ではありません。」練習問題
第 4 回	第 5 課「韓国語は専攻ではありません。」総合復習と会話練習
第 5 回	1 回から 4 回までの小テスト 1 / 第 6 課「講義室は階段の横にあります。」語彙と表現、発音
第 6 回	第 6 課「講義室は階段の横にあります。」- 漢数字
第 7 回	第 6 課「講義室は階段の横にあります。」- 「～に」
第 8 回	第 6 課「講義室は階段の横にあります。」- 「あります/います、ありません/いません」
第 9 回	第 6 課「講義室は階段の横にあります。」- 練習問題と会話練習
第10回	第 6 課「講義室は階段の横にあります。」総合復習 / 7 回から 9 回までの小テスト 2
第11回	小テスト 2 フィードバック / 第 7 課「午後、時間大丈夫ですか？」- 語彙と表現、発音
第12回	第 7 課「午後、時間大丈夫ですか？」- 「～を」「～も」
第13回	第 7 課「午後、時間大丈夫ですか？」- 「～へヨ体」、クリスマスソング(韓国語)
第14回	小テスト 3(筆記試験)、第 7 課「午後、時間大丈夫ですか？」- 練習問題、会話練習
第15回	小テスト 3(筆記試験)のフィードバック、韓国のお正月の風景や文化について、総括

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーションを 11 回程度実施する予定です。

成績評価方法	小テスト 50%(小テスト 3/定期試験に相当する筆記試験) 小テスト 30%(小テスト 1,2/実技を含む) 成果物 20%					
教科書	『四訂版・韓国語の世界へ 入門編』李潤玉 他(朝日出版社)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、予習しておく(30 分)					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、練習問題を解く(30 分)					
フィードバックの方法	直接フィードバックを行う					
備考	言語にまつわる文化も楽しんで下さい。恥ずかしいと思わず、発音し、返事し、積極的に授業に参加してください。					
オフィスアワー	授業終了後 10 分間、教室で質問を受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語 I	中川 光	演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12309

科目の概要

まず会話表現を習得してもらい、イタリア語に慣れてもらいます。さらにその表現の中にある言葉の決まりを少しずつ解説していきます。実用的な力も養ってもらうと同時に、実際に使われている表現の中で文法が機能していることを説明します。イタリア語を通してわかる日本との考え方の違いなどにも触れていきます。

到達目標

- イタリア語の基本的な仕組みを理解し、簡単な文をつくれる。
- イタリア旅行に使えるレベルの表現を発話できる。
- イタリア語を正しく音読・発音できるようになる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション 受講時の注意事項 イタリア語の発音・読み方
第 2 回	会話表現:挨拶・近況をたずねる表現・自己紹介/文法解説:名詞の性数
第 3 回	会話表現:お礼の表現・声かけ・状況を表す/文法解説:冠詞
第 4 回	会話表現:お詫び・値段の尋ね方 数字の言い方/文法解説:形容詞
第 5 回	会話表現:希望を伝える・感情を伝える/文法解説:essere 動詞と指示代名詞
第 6 回	会話表現:予定を伝える・必要性を訴える/文法解説:essere 動詞と人称代名詞
第 7 回	会話表現:好みを言う・ものを尋ねる/文法解説:不規則動詞(avere, fare)
第 8 回	会話表現:場所を尋ねる・有無を尋ねる/文法解説:不規則動詞(andare, venire)
第 9 回	会話表現:どれか尋ねる・手段を尋ねる/文法解説:規則動詞(are 動詞)
第10回	会話表現:所要時間を尋ねる・所有を尋ねる/文法解説:規則動詞(ere 動詞)
第11回	会話表現:依頼する・許可を求める/文法解説:規則動詞(ire 動詞)
第12回	会話表現:時間を尋ねる・曜日付を言う/文法解説:補助動詞(dovere)
第13回	会話表現:聞き返す・励ましの表現/文法解説:補助動詞(potere)
第14回	会話表現:天候表現・困ったときの表現/文法解説:補助動詞(volere)
第15回	学習事項のまとめ・総復習

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2～14 回

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『イタリア語がびっくりするほど身につく本 Ciao!からはじめる』鶴田真子美/著(あさ出版)					
参考文献	『ベーシッククラウン伊和・和伊辞典』杉本裕之/監修 谷口真生子/監修 三省堂編修所/編(三省堂)、『ブリーモ伊和辞典 和伊付』(白水社) 辞書は必須ではありませんが、できれば入手してください。上記以外のものでも構いません。					
事前学習(内容・時間)	事前に次回講義の会話表現を読んで筆写してみる(30 分)					
事後学習(内容・時間)	学習した表現を声を出して読み書く(30 分)					
フィードバックの方法	小テストは終了後にその場で解説する					
備考	反復練習が多くなるとありますが飽きないで取り組んでください					
オフィスアワー	授業前後の 30 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
イタリア語Ⅱ	小松 寛明	演習	1 年次 後期	選択	1	30	KGE12310

科目の概要

イタリア語の基本的な文法と語彙を身につけて、平易な文章を読み、書き、聞き取り、話せるようになることを目標とします。特に動詞の変化は文法の最重要事項なので徹底的に指導します。

到達目標

- つづり字を正確に発音できること。
- 動詞の現在形の変化を確実に身につけること。
- 過去時制(近過去・半過去)の変化と用法を理解すること。
- 現在形・近過去・半過去の使い分けができること。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	名詞関連の復讐
第 2 回	動詞関連の復習(現在形・規則変化)
第 3 回	動詞関連の復習(現在形・不規則変化)
第 4 回	近過去①
第 5 回	近過去②
第 6 回	注意すべき近過去
第 7 回	小テスト(近過去) 半過去①
第 8 回	半過去②
第 9 回	半過去(不規則変化)
第10回	小テスト(半過去)
第11回	現在形・近過去・半過去の使い分け①
第12回	現在形・近過去・半過去の使い分け②
第13回	数詞、時刻・曜日・日付の表現
第14回	後期学科試験
第15回	後期学科試験の解答・解説 目的語の代名詞・所有形容詞

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 小テスト 30% 成果物 20%					
教科書	『イタリアーノ・イタリアーノ Italiano Italiano』カスターニャマッテオ(朝日出版社)					
参考文献	『プリーモ伊和辞典 和伊付』(白水社)					
事前学習(内容・時間)	週に 1 時間程度、単語調べなど					
事後学習(内容・時間)	例文・練習問題を音読し書写しながら復習すること(1 時間)					
フィードバックの方法	小テスト・課題は採点の上、解答・解説を配布します。					
備考						
オフィスアワー	授業終了後 10 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	△	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語 I	下村 恭太	演習	1 年次 前期	選択	1	30	KGE12311

科目の概要

初めてドイツ語を学ぶ学生の入門ドイツ語です。基本的な文法や会話表現を学び、ドイツ語の基礎力をつけることを目標とします。また、学んだ文法や語彙を活用し、短い会話にもチャレンジしていきます。さらに、ドイツ語を学ぶだけでなく、ドイツ語圏の歴史・文化についても解説し、言語とその背景に関する理解を深めていきます。

到達目標

- ドイツ語を正しく発音できる。
- 基本文法を理解し、簡単な会話ができる。
- ドイツの文化や歴史などについて理解し、説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	導入:授業の概要説明、アルファベート、母音の発音、挨拶
第 2 回	第 1 課 (1):子音の発音、数詞、主語になる人称代名詞
第 3 回	第 1 課 (2):規則変化動詞の人称変化(1, 2 人称)、平叙文と疑問文の語順、自己紹介(名前・出身・住んでいるところ・専攻)
第 4 回	第 2 課 (1):規則変化動詞の人称変化(全ての人称)、不規則変化動詞 sein, haben の人称変化
第 5 回	第 2 課 (2):規則動詞の人称変化・不規則変化動詞 sein, haben の人称変化の復習、自己紹介の復習
第 6 回	第 3 課 (1):不規則変化動詞の人称変化
第 7 回	第 3 課 (2):不規則変化動詞の人称変化の復習、Dialog (好きなもの)
第 8 回	第 1 課～第 3 課復習、小テスト(中間試験)
第 9 回	第 4 課 (1):名詞の格変化と名詞の複数形
第10回	第 4 課 (2):定冠詞と不定冠詞の格変化
第11回	第 5 課:話法の助動詞、Dialog (したいこと、しなければならないこと)
第12回	第 6 課 (1):所有冠詞と否定冠詞の格変化
第13回	第 6 課 (2):所有冠詞と否定冠詞の格変化の復習、Dialog(家族の紹介)
第14回	第 6 課 (3):形容詞の格変化
第15回	第 4 課～第 6 課復習、小テスト(期末試験)

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2,3,5,7,10,12 回

成績評価方法	小テスト 20%(中間試験) 小テスト 20%(期末試験) 成果物 40%(授業内の課題(発音・文法事項)) 成果物 20%(授業外の課題(文法事項))					
教科書	『ミニマムドイツ語 12 Sei fröhlich -Grundstufe Deutsch in 12 Kapiteln』熊谷哲哉著(朝日出版社)					
参考文献	授業中適宜提示する					
事前学習(内容・時間)	次の授業で扱う文法事項を教科書で確認してください(30 分)					
事後学習(内容・時間)	授業で学んだことを復習し、授業外課題に取り組んでください(復習 30 分+課題 30 分=1 時間)					
フィードバックの方法	小テスト・課題は採点后に返却します。					
備考						
オフィスアワー	授業終了後 15 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	—	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ドイツ語Ⅱ	下村 恭太	演習	1 年次 後期	選択	1	30	KGE12312

科目の概要

ドイツ語Ⅰで学んだ内容を基に、さらにドイツ語に慣れるよう学習を進めていきます。ドイツ語Ⅰと同じく短い会話にチャレンジすることに加え、短い文章の読み書きにも取り組んでいきます。また、ドイツ語Ⅰ同様、ドイツ語圏の歴史・文化についても解説し、言語とその背景に関する理解を深めていきます。

到達目標

- ドイツ語を正しく発音できる。
- 基本文法を理解し、簡単な会話ができる。
- 短い文章を読み書きできる。
- ドイツの文化や歴史などについて理解し、説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	復習 (1):母音の発音、第 1 課～第 3 課の復習
第 2 回	復習 (2):子音の発音、第 4 課～第 6 課の復習
第 3 回	第 7 課 (1): 定冠詞類の格変化、目的語の人称代名詞
第 4 回	第 7 課 (2):定冠詞類の格変化・目的語の人称代名詞の復習目的語の人称代名詞、Dialog (何を誰にどうするか)
第 5 回	第 8 課 (1):前置詞の格支配
第 6 回	第 8 課 (2):前置詞の格支配の復習、時刻表現
第 7 回	第 9 課:分離動詞と非分離動詞
第 8 回	第 7 課～第 9 課復習、小テスト(中間試験)
第 9 回	第 10 課 (1):動詞の三基本形(不定詞・過去基本形・過去分詞)
第 10 回	第 10 課 (2):現在完了形
第 11 回	第 10 課 (3):形容詞・副詞の比較級・最上級
第 12 回	第 11 課 (1):並列接続詞・zu 不定詞
第 13 回	第 11 課 (2):従属接続詞と語順
第 14 回	第 11 課 (3):動詞の命令形
第 15 回	第 10 課～第 11 課復習、小テスト(期末試験)

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1,3,5,7,10,13 回

成績評価方法	小テスト 20%(中間試験) 小テスト 20%(期末試験) 成果物 40%(授業内の課題(発音・文法事項)) 成果物 20%(授業外の課題(文法事項))					
教科書	『ミニマムドイツ語 12 Sei fröhlich -Grundstufe Deutsch in 12 Kapiteln』熊谷哲哉 著(朝日出版社)					
参考文献	授業中適宜提示する					
事前学習(内容・時間)	次の授業で扱う文法事項を教科書で確認してください(30 分)					
事後学習(内容・時間)	授業で学んだことを復習し、授業外課題に取り組んでください(復習 30 分+課題 30 分=1 時間)					
フィードバックの方法	小テスト・課題は採点後に返却します。					
備考						
オフィスアワー	授業終了後 15 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	○	—	○	○	—

II 專 門 基 礎 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療行動科学	日高 庸晴	講義	1 年次 後期	選択	2	30	KSB13101

科目の概要

健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを学ぶために、古典的な行動理論から現在注目されている理論まで幅広く教授する。現代医療における重要な点は、予防的保健行動の促進であり、喫煙や運動といった具体的事例や疾患を例に教授する。人間の行動を包括的にとらえ考えさせるために心理学・社会学・教育学・保健学などの多領域の知見と理論を統合して、講義、演習などを組み合わせ、視聴覚教材や疫学調査によるエビデンスを随時紹介することによって、学生の理解度を深める。

到達目標

- 健康行動に関係する大規模データの読み取り方や考え方を身に付け、説明できる。
- 健康増進と疾病の予防に寄与する人の行動のメカニズムを理解し、述べることができる。
- 古典的な行動理論から臨床現場で実践・応用可能な理論まで幅広く学び、列挙できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション・健康信念モデル
第 2 回	行動変容のためのコミュニケーション
第 3 回	オペラント条件付け・学習理論
第 4 回	合理的行動理論・計画的行動理論
第 5 回	禁煙の行動科学ーどうしても煙草がやめられないー
第 6 回	エイズパンデミックー世界・アジア・日本ー行動科学的予防アプローチ
第 7 回	HIV や性感染症予防について、必要な予防対策の立案
第 8 回	多職種チームで HIV 陽性者を支えるということ
第 9 回	義足による支援
第10回	LGBTQ+の健康課題 1. 学校教育
第11回	LGBTQ+の健康課題 2. 医療現場
第12回	LGBTQ+の健康課題 3. "自分の性"で生きること
第13回	食行動とダイエット/タイプ A 行動特性ー忙しいのが好きなあなた/ソーシャルサポートネットワーク
第14回	合法？ 脱法？ アルコールとドラッグ使用の健康問題
第15回	いのちは誰のものか

アクティブ・ラーニング

その他…第 7,12 回

成績評価方法	定期試験(レポート)100%					
教科書	『LGBTQ+の健康レポート』日高 庸晴(医学書院)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義時のアナウンス等に応じて、情報収集や予習を行うこと(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(2 時間)					
フィードバックの方法	コメントの記入内容の一部を、次回の講義時等に全体で共有すると共に、随時講評します					
備 考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁。マナーを守りましょう。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	○	△	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
死生学	山本 佳世子	講義	2 年次 前期	選択	1	15	KSB23101

科目の概要

いかに医療が進歩しても、人として「死」を免れることはできないところにおいて、いかに「生と死」に向き合うかが問われてくる。「死生学」とは、「どう生き、どう死ぬか」を考える学問である。本科目では、生と死の教育、終末期ケア、死別後の悲嘆のケア、他界観（「あの世」について）、葬送儀礼など、「生と死」について様々な観点から講義する。それによって、受講者一人ひとりが、未来の医療者として、また、一人の人間として、それぞれの死生観を見つめ直す機会とする。

到達目標

- 死生学の基本概念について理解し、説明できる。
- 日本人の死生観に関する基礎的な知識を身につけ、説明できる。
- 自身の死生観を振り返り、言語化できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	死生学とは何か
第 2 回	死生観はいかに育まれるのか
第 3 回	死までの生を生きる：ホスピス・緩和ケア
第 4 回	死からの生を生きる：死別後の悲嘆
第 5 回	死んだらどこに行くのか：日本人の他界観
第 6 回	死者を送る：葬送儀礼
第 7 回	この世にいる死者：お迎え・幽霊
第 8 回	受け継がれていく生、まとめ

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(レポート)70% 成果物 30%					
教科書	なし					
参考文献	適宜、指示する。					
事前学習(内容・時間)	事前に指示する次回講義に関係する資料を読んでおく。(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	毎講義後、講義を受けて得た学び・気づきをまとめる。(2 時間)					
フィードバックの方法	毎回の提出物について、授業内で講評する。					
備考	映画や絵本を紹介しながら、死についての考えを深めていけたらと思っています。積極的な受講を期待します。					
オフィスアワー	質問は授業前後 30 分またはメールで受け付けます。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
癒しと芸術	フルイ ミエコ	講義	1 年次 前期	必修	2	30	KSB11101

科目の概要

この教科では「アートによる癒し」について、創造と享受の二方向から取り上げて講義します。特に学生自身が表現者としての喜びを実感しながら学ぶことを重視し、主に臨床美術の手法に基づく作品制作と作品を介したアートコミュニケーションを実施し、看護の場で生かせる感性と技術を教授します。

到達目標

- アートの役割と可能性について自分の言葉で説明できる。
- 色や形など美術の造形を楽しみ、感じるままに表現できる。
- 自分の感性と学習した手法でアートを看護に活かせる技能を身につける。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	授業概論～癒しと芸術 看護とアートの関わりを考える、創造と享受 作品「アナログ画を描く」
第 2 回	絵は誰でも描ける？(1)臨床美術の理論～右脳モードで描く、作品「線と色で遊ぼう」
第 3 回	絵は誰でも描ける？(2)臨床美術の理論～QOL を高めるアート、十人十色の表現
第 4 回	絵は誰でも描ける？(3)臨床美術の現場から～認知症、高次脳機能障害 演習「三原色のクロッキー」
第 5 回	絵は誰でも描ける？(4)アートとアートセラピー、アートは誰のもの？
第 6 回	絵は誰でも描ける？(5)モチーフを感じる、作品「りんごの量感画」
第 7 回	絵は誰でも描ける？(6)患者の表現の変化
第 8 回	アートコミュニケーション(1)I(アイ)メッセージの大切さ 作品「パステル色の空」
第 9 回	アートコミュニケーション(2)観る楽しみ、話す楽しみ「対話型鑑賞法」
第10回	アートコミュニケーション(3)制作過程でのコミュニケーション
第11回	アートコミュニケーション(4)信じるということ 作品「桜を描く」
第12回	アートコミュニケーション(5)観賞会をしてみよう 作品「桜を描く」
第13回	看護におけるアートの役割(1)こどもとアート、障害者とアート 作品「いろいろ田んぼ」
第14回	看護におけるアートの役割(2)いてくれてありがとうの精神 作品「モザイクリズム」
第15回	まとめ～癒しと芸術 今を生きるアート

アクティブ・ラーニング

その他(アート作品制作と鑑賞活動)…第 1,2,4,6,8,9,11～15 回
グループワーク…第 9,12 回

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	『生きるを励ますアート 五感・マインドフルネス・臨床美術』関根一夫(クリエイツかもがわ)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	実技に必要なものを用意し、講義時に紹介する参考文献の内容を次回講義までに読んでおくこと。(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、学びのまとめをコメント用紙に記入する。(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストの結果については授業の時間内にフィードバックします。作品成果物については授業内でコメントします。質問は毎時のコメント用紙で受付、次の授業にて回答します。					
備考	画材は事前にセット購入してもらいます(2500 円程度必要)。毎時間、指定のものを使うこと。 指示のあるものは各自が事前に用意すること。 二年次に選択科目「看護とアートⅤ(絵画療法)」を履修する場合は、同じ画材を使うので保管しておくこと。					
オフィスアワー	Teams にて随時受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
栄養と健康	須田 あゆみ	講義	1 年次 後期	必修	1	30	KSB11102

科目の概要

人は栄養素なくして生きていくことはできない。適正な栄養摂取と食生活は、健康の維持・増進、および疾病の予防・治療・増悪防止の基本であり、すべての人に必要な事である。本授業では、生命維持における栄養の意義、栄養素や食品の栄養的特徴、ライフステージと食、生活習慣病と食、疾病と食について講義する。また、栄養ケア・マネジメント、チーム医療についても講義する。

到達目標

- 健康と栄養の関係を理解し、人生各期の栄養の特徴を述べることができる。
- 主な病態の栄養管理の特徴と栄養療法を理解し、説明することができる。
- 栄養アセスメントの基礎となる BMI の判定や標準体重の算出ができる。その他、エネルギー消費量の算出ができる。
- 栄養ケアの場における多職種とのチームアプローチの重要性を理解した上で、看護専門職の役割について述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	第 1 章:栄養学を学ぶ意義。人はなぜ食事をするのかを今一度考えてみましょう。
第 2 回	第 2 章:栄養素の種類と働き(糖質、脂質、タンパク質)
第 3 回	第 2 章:栄養素の種類と働き(ビタミン、ミネラル・食物繊維・水)
第 4 回	第 3 章:食物の消化・吸収
第 5 回	第 3 章:栄養素の代謝・排泄
第 6 回	第 4 章:エネルギー代謝
第 7 回	第 5 章:食事と食品(日本人の食事摂取基準)、第 10 章:食事バランスガイド
第 8 回	第 6 章:栄養ケア・マネジメント
第 9 回	第 7 章:栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)
第10回	第 8 章:ライフステージと栄養(妊娠期・乳児期・幼児期)
第11回	第 8 章:ライフステージと栄養(学童期・思春期・成人期・高齢期)
第12回	第 8 章:ライフステージと栄養(高齢期)、第 9 章:臨床栄養(経腸栄養・静脈栄養法・病院食)
第13回	第 1~12 回の復習と補足
第14回	第 9 章:臨床栄養(病院食の意義、疾病・症状別栄養療法)
第15回	第 9 章:臨床栄養(術後の栄養管理、がん患者の栄養・食事療法)、 第 10 章:弁当作成の発表および全体のまとめ(看護と栄養)

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1,7,9,15 回 プレゼンテーション…第 15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物 20%					
教科書	『人体の構造と機能[3] 栄養学 第 13 版』小野 章史(医学書院)他適宜資料を配布します。					
参考文献	『臨床栄養学 第 6 版』關戸 啓子(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読み、要点をまとめておく(30 分)					
事後学習(内容・時間)	練習問題やまとめのレポートに取り組む。分からなかった場所を整理しておく(30 分)					
フィードバックの方法	授業中に練習問題の答え合わせとレポートの解説を行います。					
備考	理解度を把握するために、質問や感想を提出してもらいます(評価外)					
オフィスアワー	授業の前後 30 分、教室で質問を受け付ける。Teams でも随時質問を受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療概論(生命倫理)	林 貴啓	講義	1 年次 後期	必修	2	30	KSB11103

科目の概要

倫理学の基本的な概念・原理を解説し、患者の権利、脳死と臓器移植、終末期医療、生殖補助医療、遺伝子医療といったテーマを扱い、現代の医療が孕む複雑な倫理的問題に関して、背景知識と判断材料を提供しつつ、学生が主体的に問題を検討し、意見を交換する場を設ける。こうしたことを通して、自ら倫理的に思考し、判断する力を培うよう授業を行う。

到達目標

- 倫理に関する知識を深め、説明することができる。
- 倫理が問われる医療諸問題について、さまざまな見解を認識し、説明することができる。
- 物事を倫理的に考える姿勢を身につけ、自らの考えを述べるすることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	医療の倫理とは 倫理的な思考の基本
第 2 回	倫理学の考えかたⅠー基本編
第 3 回	倫理学の考えかたⅡーさまざまな倫理学説
第 4 回	インフォームド・コンセントと看護の視点
第 5 回	道徳的想像力
第 6 回	安楽死・終末期の治療停止をめぐる
第 7 回	脳死と臓器移植
第 8 回	人工妊娠中絶をめぐる
第 9 回	出生前診断と選択的中絶
第10回	文献を読んで考えるーレポート執筆のためのワークショップ
第11回	生殖補助医療Ⅰー不妊治療をめぐる状況
第12回	生殖補助医療ⅡーAIDと代理出産の問題
第13回	最先端医療の倫理
第14回	医療とはー看護の見地からの意味
第15回	死生学の課題

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1～15回
各回とも、前回の課題で寄せられた意見を受講者で共有し、それに対してさらに自身の意見をフィードバックする機会を設けます。

成績評価方法	定期試験(レポート)55% 成果物 45%(各回の小レポート)					
教科書	「教科書」という形では特に指定しない。資料は各回に配布する。					
参考文献	各回の配布資料でそれぞれのテーマに関連する文献を紹介する。 第15回の「死生学」については、担当者著『問いとしてのスピリチュアリティー宗教なき時代に生死を語る』(京都大学学術出版会)の一読を薦める。					
事前学習(内容・時間)	シラバスに提示した各回のテーマについて、事前に情報を集めておく(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義時に紹介した文献を読み、理解を深める(2時間)					
フィードバックの方法	質問や各回の提出課題に対しては、次回講義時に配布資料・説明を通してフィードバックする					
備考	生命倫理は自ら考え、対話することによって初めて自分のものになります。みなさんの主体的・積極的な取り組みを期待します。					
オフィスアワー	講義時の前30分。また Teams の「チャット」を利用した質問は随時受け付けます。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療人類学	景山 千愛	講義	2 年次 前期	選択	2	30	KSB23102

科目の概要

この講義は、医療人類学の基本的な理論について説明する。具体的には、医療に関連する実際のニュースや出来事を題材に、医療人類学の理論によって医療や一般社会における現象がどのように説明できるのか、また、我々の社会にとって主流の考え方が他の文化にとって当然ではなく、医療に関する考え方は文化によって異なること講義する。

到達目標

- 履修者は、医療人類学の基本的思考を身に付けることができる。
- 得た知識をもとに自ら思考し、その考えを他人に理解できるように伝えることができる。
- 履修者は、授業で得た批判的な思考法を応用して、自らの直面する課題に取り組み、自ら設定した課題に取り組むことができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	イントロダクション——医療人類学の基本的な考え方について学ぶ
第 2 回	医療化①——社会構成主義の考え方を学ぶ
第 3 回	医療化②——実例を通して学ぶ
第 4 回	病人役割①——役割論の考え方を学ぶ
第 5 回	病人役割②——実例を通して学ぶ
第 6 回	文化結合症候群と文化相対主義
第 7 回	多角的医療体系
第 8 回	小テスト(中間テスト)・後半ふりかえり
第 9 回	応用①——優生学
第10回	応用②——痛み
第11回	応用③——生殖医療
第12回	応用④——メディアにおける「病気」
第13回	応用⑤——感染症と差別の表象
第14回	「病の表象」のワーク
第15回	レポート講評・動画視聴

アクティブ・ラーニング

第 14 回目の授業で、前回授業の内容を踏まえたワークを行う。筆記用具を持参のこと。

成績評価方法	定期試験(レポート)70% 小テスト 30%(中間テスト)					
教科書	なし					
参考文献	授業中に示します					
事前学習(内容・時間)	前回の授業で示した予習(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業で扱った内容の復習(2 時間)					
フィードバックの方法	中間テストを採点後に返却します。					
備考						
オフィスアワー	授業前後の 15 分間および随時メールで受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	—	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論 I	片山 泰一	講義	1 年次 前期	必修	1	30	KSB11104

科目の概要

病気(疾病)や障害は、様々な原因で、通常とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特に循環器系、呼吸器系について、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の状態(構造)と働き(機能)、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 循環器系・呼吸器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 循環器系・呼吸器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	人体構造機能論 I を学習するために(基礎知識・総論)
第 2 回	循環器系 1 循環器系の構成、心臓の形態
第 3 回	循環器系 2 心臓の拍出機能、刺激伝導系
第 4 回	循環器系 3 心電図
第 5 回	循環器系 4 心周期と心臓の負荷
第 6 回	循環器系 5(小テスト 1) 血管の構造、全身の動脈
第 7 回	循環器系 6 全身の静脈、脳循環
第 8 回	循環器系 7 血圧の調節、リンパ系
第 9 回	呼吸器系・血液 1 呼吸器系の構成(上気道、下気道)、肺、気管支の解剖
第10回	呼吸器系・血液 2 呼吸のメカニズム、スパイロメーター
第11回	呼吸器系・血液 3 ガスの運搬(酸素、二酸化炭素)
第12回	呼吸器系・血液 4(小テスト 2) 呼吸の調節、異常な呼吸
第13回	呼吸器系・血液 5 血液の組成(赤血球・白血球・血小板等)、分画
第14回	呼吸器系・血液 6 血液の一生(赤血球、白血球、血小板等)
第15回	呼吸器系・血液 7 血液の凝固・線溶系

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 小テスト 20%					
教科書	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版』坂井 建雄(医学書院)、『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第 3 版』土居 健太郎(医学書院)					
参考文献	『病気がみえる vol.1 消化器 第 7 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.2 循環器 第 5 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第 5 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.4 呼吸器 第 4 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第 2 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『看護師国家試験 高正答率過去問題集』(東京アカデミー)、『得意になる解剖生理 からだのしくみが目で見てわかる』美田誠二／編著(照林社)、『ぜんぶわかる人体解剖図 系統別・部位別にわかりやすくビジュアル解説』坂井建雄／著 橋本尚詞／著(成美堂出版)、『カラーで学ぶ解剖生理学 [第2版]』竹本裕美:(メディカル・サイエンス・インターナショナル)、『看護師・看護学生のためのレビューブック 2026』岡庭豊(メディックメディア)、『新版 からだの地図帳』佐藤 達夫 監修(講談社)					
事前学習(内容・時間)	上記教科書『人体の構造と機能[1] 解剖生理学』を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること(30 分)					
事後学習(内容・時間)	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする(60 分)					
フィードバックの方法	課題については、授業中あるいは、Web(Teams)にてフィードバックする					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。					
オフィスアワー	質問は授業の前後 30 分あるいは Teams のチャットにて受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅱ	片山 泰一	講義	1 年次 前期	必修	1	30	KSB11105

科目の概要

病気(疾病)や障害は、様々な原因で、通常とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特に消化器系、泌尿器系について、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常人の身体の形態(構造)と働き(機能)、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 消化器系・泌尿器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 消化器系・泌尿器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	口・咽頭・食道の構造と機能(1)(口の構造と機能)
第 2 回	口・咽頭・食道の構造と機能(2)(咽頭、咀嚼、嚥下)
第 3 回	口・咽頭・食道の構造と機能(3)(食道の構造、組織と機能)
第 4 回	腹部消化管の構造と機能(1)胃の構造と機能
第 5 回	腹部消化管の構造と機能(2)小腸・大腸の構造と機能
第 6 回	腹部消化管の構造と機能(3)栄養素の消化と吸収-1(小テスト 1)
第 7 回	腹部消化管の構造と機能(4)栄養素の消化と吸収-2
第 8 回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能(1)膵臓の構造と機能
第 9 回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能(2)肝臓・胆嚢の構造と機能
第10回	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能(3)肝臓の機能・腹膜
第11回	泌尿器系の構造と機能(1)腎臓の構造と機能-1
第12回	泌尿器系の構造と機能(2)腎臓の構造と機能-2(小テスト 2)
第13回	泌尿器系の構造と機能(3)腎臓の構造と機能-3
第14回	泌尿器系の構造と機能(4)排尿路の構造と機能
第15回	泌尿器系の構造と機能(5)体液の調節

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1 回
ディスカッション・ディベート…第 6 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 小テスト 20%					
教科書	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版』坂井 建雄(医学書院)、『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第 3 版』土居 健太郎(医学書院)人体構造機能論Ⅰに準ずる					
参考文献	人体構造機能論Ⅰに準ずる					
事前学習(内容・時間)	上記教科書『人体の構造と機能[1] 解剖生理学』を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること(30 分)					
事後学習(内容・時間)	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする(60 分)					
フィードバックの方法	課題については、授業中あるいは、Web(Teams 他)にてフィードバックする					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。					
オフィスアワー	質問は授業の前後 30 分あるいは Teams のチャットにて受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
人体構造機能論Ⅲ	片山 泰一	講義	1 年次 後期	必修	1	30	KSB11106

科目の概要

病気(疾病)や障害は、様々な原因で、通常とは異なる状態になり、患者は困り感を抱く。従って、看護師として患者の困り感を理解するための基礎知識として、疾病に至る前の通常の状態を正確に知っておく必要がある。本科目では、特に運動器系、神経系、感覚器系、内分泌系および生殖器系の構造と機能を理解し、学生それぞれの理解できる身近な現象などを取り上げながら、人間の身体が如何に精密に出来上がっているのか、正常な人の身体の形態(構造)と働き(機能)、更には両者の密接なつながり等について講義する。

到達目標

- 運動器系・神経系・感覚器系・内分泌系・生殖器系の主要な器官の名称と構造を系統的に他者に説明できる。
- 運動器系・神経系・感覚器系・内分泌系・生殖器系の主要な器官の機能を構造と結び付けて系統的に他者に説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	骨格とはどのようなものか？人体の骨格総論
第 2 回	骨格筋(構造と機能・神経支配・筋の収縮)
第 3 回	体幹の骨格と筋(脊柱・胸郭、肺胸部・腹部の筋)
第 4 回	上肢の骨格と筋(上肢帯・自由上肢の骨格、上肢帯・上腕・前腕の筋群)
第 5 回	下肢の骨格と筋(下肢帯・骨盤・自由下肢の骨格、下肢帯・大腿・下腿の筋群)
第 6 回	頭頸部の骨格と筋(神経頭蓋・内臓頭蓋、頭頸部の筋)(小テスト1)
第 7 回	神経系の構造と機能(1)概論・自律神経による調節
第 8 回	神経系の構造と機能(2)脊髄と脳、脊髄神経と脳神経
第 9 回	神経系の構造と機能(3)脳の高次機能、上行・下行伝導路
第10回	感覚器の構造と機能(1)眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚
第11回	感覚器の構造と機能(2)耳の構造と平衡感覚、味覚と嗅覚、痛み(小テスト2)
第12回	内分泌系による調節
第13回	全身の内分泌腺と内分泌細胞
第14回	ホルモン分泌の調節
第15回	生殖器系の構造と仕組み(男性生殖器・女性生殖器、受精と胎児の発生)

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 小テスト20%					
教科書	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版』坂井 建雄(医学書院)、『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第3版』土居 健太郎(医学書院)人体構造機能論Ⅰに準ずる					
参考文献	人体構造機能論Ⅰに準ずる					
事前学習(内容・時間)	上記教科書『人体の構造と機能[1] 解剖生理学』を中心に進めるので、講義予定の目次を確認し、概要を把握すること(30分)					
事後学習(内容・時間)	講義、配布資料の復習。各種テストの復習。他の教科書・参考資料を用いて、受講した講義に関する箇所をチェックする(60分)					
フィードバックの方法	課題については、授業中あるいは、Webにてフィードバックする					
備考	成績評価に関わる不正行為はすべて厳罰とする。授業の進行は、各々の身体や病気に関する体験が、知識につながることに気づくように工夫されているので、できるだけ身近にある経験を言語化、文章化しておくことが望ましい。					
オフィスアワー	質問は授業の前後30分あるいは Teams のチャットにて受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅰ	山田 知輝	講義	1 年次 後期	必修	2	30	KSB11107

科目の概要

臨床看護において知っておかなければならない循環器、呼吸器、消化器の代表的疾患について、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、治療法、予後などについて教授する。講義を通じて、病態について学ぶことの楽しさや、これから進むべき看護師国家資格取得ならびに臨床現場へのモチベーションにつながるようにしたい。そのためにも適宜臨床での経験についてお話ししていく。

到達目標

- 代表的な疾患における病態を理解し、説明できる。
- それぞれの疾患について、症状、徴候、検査所見、治療、ケアについて理解し、述べることができる。
- 看護師国家試験出題レベルの問題に対処できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	導入、循環器疾患 1(心不全)
第 2 回	循環器疾患 2(虚血性心疾患)
第 3 回	循環器疾患 3(先天性心疾患)
第 4 回	循環器疾患 4(弁膜症)
第 5 回	循環器疾患 5(心筋症、心タンポナーデ)
第 6 回	循環器疾患 6(血管疾患、高血圧症)
第 7 回	消化器疾患 1(食道疾患、胃・十二指腸疾患)
第 8 回	消化器疾患 2(クローン病、潰瘍性大腸炎)
第 9 回	消化器疾患 3(イレウス、大腸がんなど)
第10回	消化器疾患 4(肝疾患)
第11回	消化器疾患 5(その他の肝疾患、胆・膵疾患)
第12回	呼吸器疾患 1(呼吸器感染症)
第13回	呼吸器疾患 2(気管支喘息、間質性肺炎、COPD)
第14回	呼吸器疾患 3(肺がん、肺循環障害、換気異常)
第15回	呼吸器疾患 4(胸膜・縦隔疾患など)、まとめ

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(筆記)100%					
教科書	適宜プリント、授業資料等を配布します					
参考文献	『病気がみえる vol.1 消化器 第 7 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.2 循環器 第 5 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.4 呼吸器 第 3 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第 3 版』土居 健太郎(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	当該範囲の教科書での予習(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	レジュメや教科書を用いた復習(2 時間)、テスト対策としての学習					
フィードバックの方法	授業中や直後、およびメールなどにて対応					
備考						
オフィスアワー	授業前後に質問を受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅱ	伴 信義 奥田 のり美	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSB21101

科目の概要

臨床看護において知っておかなければならない腎・水電解質代謝、代謝、内分泌、血液、神経の代表的な疾患について、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、治療法、予後などについて教授する。

到達目標

- 各器官系において、おのおの代表的な疾患の定義・概念を 5 疾患以上説明できる。
- 特に重要な疾患については、主な症状と症候、検査所見、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	代謝疾患1
第 2 回	代謝疾患2
第 3 回	体液・腎・泌尿器1
第 4 回	体液・腎・泌尿器2
第 5 回	体液・腎・泌尿器3
第 6 回	免疫疾患1
第 7 回	免疫疾患2
第 8 回	血液疾患1
第 9 回	血液疾患2／小テスト
第10回	内分泌疾患1
第11回	内分泌疾患2
第12回	内分泌疾患3
第13回	神経疾患1
第14回	神経疾患2
第15回	小テスト(最終テスト)と解説

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 9,15 回

成績評価方法	小テスト 100%(最終テスト)					
教科書	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版』坂井 建雄(医学書院)、『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第 2 版』田中 越郎(医学書院)					
参考文献	授業内で提示します					
事前学習(内容・時間)	教科書での予習:講義予定の内容を把握し、注意すべき用語をチェックする(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の復習:用語は当日、翌日、1 週間後に見直す(2 時間)					
フィードバックの方法	授業内で解説します					
備考						
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
病態治療学Ⅲ	西垣 里志	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSB21102

科目の概要

主に小児疾患、女性生殖器疾患、精神疾患について、定義・概念、病態生理、検査所見、治療方法、予後などを正しく認識することを目的とする。本科目で学習する疾患は、極めて代表的なものとし、看護アセスメントの際の基礎的な知識を教授する。

到達目標

- おのおの分野について、代表的な疾患の定義・概念を説明できる。
- 特に重要な疾患については、病態生理、主な症状と症候、検査所見、治療方法、予後、疫学について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	小児疾患 1
第 2 回	小児疾患 2
第 3 回	小児疾患 3
第 4 回	小児疾患 4
第 5 回	小児疾患 5
第 6 回	小児疾患 6
第 7 回	小テスト 1 と解説
第 8 回	女性生殖器疾患 1
第 9 回	女性生殖器疾患 2
第10回	女性生殖器疾患 3
第11回	精神疾患 1
第12回	精神疾患 2
第13回	精神疾患 3
第14回	精神疾患 4
第15回	小テスト 2 と解説

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 7,15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 小テスト 20%					
教科書	『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第 2 版』田中 越郎(医学書院)、『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版』坂井 建雄(医学書院)					
参考文献	授業内で提示します					
事前学習(内容・時間)	講義予定の内容を教科書で確認・把握し、用語、代表的な疾患などをチェックする(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の復習。用語、代表的な疾患の定義・概念、病態生理 については当日、翌日、1 週間後に見直す。課題(2 時間)					
フィードバックの方法	授業終了後に質問を受け付けます					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
生化学	中川 学	講義	2 年次 前期	必修	1	30	KSB21103

科目の概要

「生化学」は、生命現象に関わる現象を化学の眼から見る学問である。生体構成物質とそれに関連する代謝調節の化学反応を分子のレベルで理解する力を養成できるように、生命現象と病態のしくみについて講義を行う。この科目は一年次に学修した「ヒトと生物学」や「栄養と健康」または「化学(選択科目)」などと密接に関係しているので、講義では絶えずこれらの科目との関連性を意識させつつ講義を進める。

到達目標

- 五大栄養素を中心とした生体を構成、調節する物質について、その基本構造と性質を述べることができる。
- 栄養素からエネルギーを獲得する代謝系を説明できる。
- 代謝系全体が、酵素やホルモンによってどのように調節や維持されているのかを説明できる。
- 肥満、高血圧、糖尿病、脂質異常症、動脈硬化等、代表的な代謝関連疾患の病因と発病機序について生化学的に説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	生化学概論(教科書:p.10-12) 知っておきたい化学の基礎知識(教科書:p.13-21)
第 2 回	知っておきたい生物の知識:細胞(教科書:p.22-26) 代謝総論(教科書:p.28-37)
第 3 回	酵素(教科書:p.38-43)
第 4 回	糖質代謝①:糖質(教科書:p.49-58)
第 5 回	糖質代謝②:解糖系のしくみ(教科書:p.58-63)
第 6 回	糖質代謝③:グリコーゲンの合成と分解、血糖値の調節とホルモンの作用(教科書:p.64-70)
第 7 回	脂質代謝①:脂質(教科書:p.71-79)
第 8 回	脂質代謝②:脂質の分解とケトン体(教科書:p.80-92)
第 9 回	タンパク質とアミノ酸の代謝①:アミノ酸とタンパク質、アミノ酸の代謝(教科書:p.93-105)
第10回	タンパク質とアミノ酸の代謝②:アミノ酸のその他の使われ方(教科書:p.106-112)
第11回	エネルギー代謝の統合と制御(p.128-135)
第12回	ビタミンとその欠乏症(p.136-143)
第13回	核酸・ヌクレオチドの代謝(p.113-127)
第14回	遺伝情報①:DNAとRNA(教科書:p.144-156)
第15回	遺伝情報②:遺伝子の変化(教科書:p.157-163) 先天性代謝異常(p.164-169)

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物 20%(復習ミニテストへの取り組み)					
教科書	『臨床生化学 第7版』宮澤 恵二(メディカ出版)					
参考文献	『イラストレイテッド ハーパー・生化学』清水 孝雄(丸善出版)					
事前学習(内容・時間)	教科書の該当ページを熟読する(30分)					
事後学習(内容・時間)	講義で学習したことを自分の言葉でノートにまとめ、復習ミニテスト(UNIPA を利用)に回答する(計 30 分)。これらの取り組みを成果物として評価します。					
フィードバックの方法	UNIPA などを活用して講評します。					
備考						
オフィスアワー	講義前 20 分、講義後 10 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	—	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
臨床薬理学	内海 美保	講義	2 年次 前期	必修	1	30	KSB21104

科目の概要

この授業では、臨床現場での安全かつ効果的な薬物療法を提供するため、薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響を講義する。また、一般的な薬理学の知識以外にも、薬の体内動態(吸収・分布・代謝・排泄)や製剤学的特徴、薬物相互作用、副作用、使用上の注意など、薬物療法に関する幅広い視点から授業を行う。第 1～3 回目の総論では、薬の基本を概説し、第 4 回目以降の各論では、臨床で汎用される医薬品について疾患を踏まえて講義する。

到達目標

- 薬が作用する仕組みや生体に及ぼす影響について説明できる。
- 臨床で汎用される医薬品の特徴(体内動態、製剤学的特徴、使用上の注意等)を列挙できる。
- 薬物療法の際の看護のポイントを指摘できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	総論(1):薬物治療と看護
第 2 回	総論(2):薬が作用するしくみ
第 3 回	総論(3):薬の体内動態
第 4 回	抗感染症薬(1):感染症治療に関する基礎事項・抗菌薬
第 5 回	抗感染症薬(2):抗真菌薬・抗ウイルス薬・感染症の治療における問題点
第 6 回	抗がん薬(1):がん治療に関する基礎事項
第 7 回	抗がん薬(2):抗がん剤の種類
第 8 回	免疫治療薬
第 9 回	抗アレルギー薬・抗炎症薬
第10回	末梢での神経活動に作用する薬物
第11回	中枢神経系に作用する薬物
第12回	循環器系に作用する薬物(1):降圧薬・狭心症治療薬・心不全治療薬
第13回	循環器系に作用する薬物(2):抗不整脈薬・利尿薬・脂質異常症治療薬・血液に作用する薬物
第14回	呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物
第15回	物質代謝に作用する薬物

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1～3回

成績評価方法	定期試験(筆記)100%					
教科書	『疾病のなりたちと回復の促進[3] 薬理学 第15版』吉岡 充弘(医学書院)					
参考文献	『NEW 薬理学 改訂第8版』田中 千賀子 編集(南江堂)					
事前学習(内容・時間)	次の講義内容を教科書で確認しておくこと(30分間)					
事後学習(内容・時間)	授業内容が広範囲に及ぶため、1回の講義ごとに必ず復習をすること(2時間)					
フィードバックの方法	レポート・小テストについては、授業内で解説を行います。					
備考	授業に関するアナウンスは Teams で行います。質問は Teams のチャット機能で受け付けます。					
オフィスアワー	出講日の授業の前後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	○	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
感染と免疫	久光 由香	講義	1 年次 後期	必修	1	30	KSB11108

科目の概要

感染に関する定義・概念、病態生理、検査所見、治療方法、感染対策などの知識を正しく知ることが目的とする。講義だけではなく、グループワークを通じて感染症や感染対策に関する意識が高まることで臨床のみならず日常生活においても必要であると理解してもらいたいと考えている。感染症の疾患などは、代表的なものに限られる。そのため、今後の学内演習や臨地実習、さらには卒業後医療機関などで勤務したときに活用できるような“知恵”としての修得を目指していきたい。

到達目標

- 感染と免疫について、考え方を理解し、説明ができる。
- 感染症の疾患において、おのおの代表的な疾患の定義・概念を5疾患以上説明ができる。
- 特に重要な疾患については、主な症状、検査所見、治療方法、予後、疫学について説明ができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	感染の基礎:感染の成立、感染と発症の違い、臨床所見など
第 2 回	感染対策の基礎:標準予防策、経路別(空気・飛沫・接触)予防策
第 3 回	ディスカッション・ディベート:患者、自分がどのような行為が感染を伝播させるか?
第 4 回	感染症の診断:主な微生物、主な検査方法、主な感染症の所見など
第 5 回	感染症の治療:抗微生物薬の概要
第 6 回	ディスカッション・ディベート:ある感染症患者の治療と感染対策(HIV、結核)
第 7 回	関係法規:感染症に関する法律など
第 8 回	感染症発生時の対応:国・行政、医療機関の役割や対応
第 9 回	ディスカッション・ディベート:自分が結核または麻疹の濃厚接触者になった場合のふるまい
第10回	感染症患者への治療と看護:医療機関
第11回	感染症患者への治療と看護:在宅や地域
第12回	ディスカッション・ディベート:事例検討(水痘、MRSA 患者への治療と看護)
第13回	日常生活における感染対策(感染症治療を含めた):患者、利用者、一般人、医療従事者
第14回	ディスカッション・ディベート:事例検討(友人、家族が感染症もしくは易感染状態になった場合、助言をどうする?)
第15回	全講義のまとめ 小テスト(筆記試験:60 分)

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 3,6,9,12,14 回

成績評価方法	小テスト 80%(筆記試験:60 分) 成果物 20%(ディスカッション・ディベート)					
教科書	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第 11 版』坂井 建雄(医学書院)、『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第 3 版』土居 健太郎(医学書院)、『基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)					
参考文献	『病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第 2 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)『アレルギー 膠原病 感染症 第 16 版』泉川 公一他(医学書院) 講義中でお伝えします。					
事前学習(内容・時間)	講義予定の内容を教科書やインターネットなどでチェックする(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義中に予習した内容の落とし込みを行う。講義中に紹介した文献などで再度押さえなおしを行う。(1 時間)					
フィードバックの方法	授業中、及び、ICT(情報通信技術)を活用してフィードバックする					
備考	・一部の講義前に講義内容に関するアンケートを取り、アンケート結果を講義で使います。 ・ディスカッション・ディベートはグループワーク形式で行い、PC で検討内容をまとめてもらいます。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
疫学・保健統計	日高 庸晴	講義・演習	2 年次 後期	必修	2	30	KSB21201

科目の概要

疫学の歴史的発展と疫学の主要目的のひとつである疾病のリスク因子の同定、分布と発生頻度の測定、自然経過と予後の把握、保健医療および環境(衛生)政策の評価方法、予防と治療などその具体的な内容の基礎知識、またその前提となる研究デザインをはじめとした疫学的方法論の教示を行う。また、国内外の健康課題についてグローバルヘルスの視点から講義を行う。

到達目標

- 「いつ・どこで・だれが」疾患にかかっているのかといった、基本的な考え方を身に付け、述べることができる。
- 疾病や健康問題を集団的な現象として量的に把握するための方法論を理解し、説明できる。
- 現代の健康課題の解決の一方法としての疫学的方法論を学び、習得する。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション、疫学の歴史と定義、ヘルスリテラシーとは
第 2 回	EMB の理念
第 3 回	医療情報の検索のために(1)情報の種類と信頼性、蔵書検索・インターネット検索の基本操作
第 4 回	医療情報の検索のために(2)言葉の具体・抽象について、インターネット検索のテクニック
第 5 回	医療情報の検索のために(3)Google Scholar・医中誌 WEB の基本操作
第 6 回	医療情報の検索のために(4)「医中誌 Web HELP」の活用、メディカルオンラインの基本操作
第 7 回	医療情報の検索のために(5)医中誌 Web の「PubMed 検索」機能、ページ内検索、総合演習
第 8 回	研究デザイン、データのバイアス、妥当性と信頼性
第 9 回	スクリーニングと予防の疫学
第10回	有病率など主な疫学指標
第11回	子どもの健康課題の疫学
第12回	国際保健
第13回	感染症の疫学
第14回	健康に影響をおよぼす社会的決定要因
第15回	薬害(B型肝炎)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション…第14回

成績評価方法	定期試験(レポート)100%					
教科書	『疫学・保健統計学 第3版』牧本 清子(医学書院)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時の説明および講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習を行うこと(2時間)					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(2時間)					
フィードバックの方法	コメントシートの記入内容の一部を次回の講義全体でシェアすると共に、講評します					
備考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	△	—	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
公衆衛生学	日高 庸晴 佐野 ちひろ	講義	2 年次 前期	必修	1	30	KSB21105

科目の概要

疾病の発生と予防ならびに健康増進を維持促進するために、その理論的枠組みや施策について深い理解を促すために「いつ、何処で、誰が」という基本に立ち返りつつ、個人・集団・地域社会・国・グローバルといった視点から、公衆衛生の理論的背景と実践を学ぶ。また人々の健康を維持するための生活環境やその維持、法的基盤・社会保障制度、対象に応じた公衆衛生活動の必要性や地域・学校・産業保健の概要についても講義する。

到達目標

- 公衆衛生に基本や歴史的経緯について、理解し、説明できる。
- 保健活動の基盤となる法や施策について理解し、説明できる。
- 健康増進のために必要な理論的枠組みやその実践方法を習得できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	健康の定義・公衆衛生の理念
第 2 回	保健活動の実践機関(保健所・市区町村保健センター)と保健師活動の実際
第 3 回	地域保健活動
第 4 回	母子保健活動
第 5 回	精神保健活動・難病支援
第 6 回	医療統計の指標(オッズ比、リスク比などの基礎的な指標)
第 7 回	学校保健活動
第 8 回	職場の健康管理
第 9 回	地域保健法とヘルスプロモーション(健康日本 21)
第10回	健康に関する指標や要因
第11回	公衆衛生と人権(1) 薬害(薬害エイズ/HIV 訴訟)
第12回	公衆衛生と人権(2)タスキギー事件、グアテマラ事件
第13回	公衆衛生における予防的保健行動の促進
第14回	公衆衛生における感染症対策
第15回	公衆衛生における環境対策と食の安全対策

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(レポート)50% 小テスト 50%					
教科書	『公衆衛生 第6版』平野 かよ子(メディカ出版)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義時のアナウンス等に応じて、情報収集や予習を行うこと(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(2 時間)					
フィードバックの方法	コメントの記入内容の一部を、次回の講義時等に全体で共有すると共に、随時講評します					
備考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	△	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康 I	大本 友香	演習	1 年次 前期	選択	1	30	KSB13301

科目の概要

この授業では、体力の低下をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。簡単にできるストレッチ法や機能的な動きを実践の中で理解する。自身またはクライアントの身体のひずみを調整する方法や QOL を向上させる運動の方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、身体のバランスを整えるための技術を習得する。
- 実技を通し、コミュニケーション力・チーム力を身に付ける。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動とフットセラピー、座位の動的ストレッチ
第 2 回	殿部の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とフットセラピー、座位の動的ストレッチ
第 3 回	殿部の筋肉②・脚後面の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とフットセラピー、座位の動的ストレッチ
第 4 回	脚後面の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動と肩関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動①
第 5 回	脚前面の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動②
第 6 回	脚前面の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動と関節周辺をほぐすためのストレッチ、動きの仕組み/有酸素運動③
第 7 回	下肢の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操①
第 8 回	下肢の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操②
第 9 回	脚サイドの筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操③
第 10 回	内転の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操④
第 11 回	内転の筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操⑤
第 12 回	内転の筋肉と関わる骨、関節③/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操⑥
第 13 回	ストレッチの復習、ピラティスと動きの仕組み体操⑦
第 14 回	ピラティスと動きの仕組み体操⑧
第 15 回	実技テスト及びまとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1～15 回

成績評価方法	定期試験(実技)55% 小テスト45%					
教科書	プリント配布					
参考文献	『プロが教える筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト事典 オールカラー』石井直方／監修 荒川裕志／著(ナツメ社)、『筋肉と関節しくみと動きが見える事典』末吉勝則・中田康夫(永岡書店)					
事前学習(内容・時間)	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる(30 分)					
事後学習(内容・時間)	授業で行ったワークを 1 つでも実践し、確認する(30 分)					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備考	水分を補給しながらの実技です。水分補給できる物を用意すること。また G パン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装(前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない)、T シャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らかなものを用意。					
オフィスアワー	授業後 15 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
運動と健康Ⅱ	大本 友香	演習	1 年次 後期	選択	1	30	KSB13302

科目の概要

この授業では、体力低下をはじめとした病気や障害に対する予防・治癒を目的とした身体活動、運動の必要性について講義する。加えて、解剖学に基づいて骨、筋肉、腱、関節、それぞれの役割を理解し、柔軟性、筋力、筋持久力を向上させていく技術を教授する。身体の機能的な動きを理解し、クライアントの状況に合わせた運動方法についての理解を促す。

到達目標

- 運動の不足や過剰がもたらす病気や障害について理解し、健康の一助としての運動の必要性について論ずることができる。
- 身体の柱となる骨格の役割、および筋の役割を理解し、説明できる。
- 自身の身体を使ってストレッチやエクササイズなどの実技を行うことにより、寝た状態など様々な態勢でも運動が出来る技術を習得する。
- 実技を通し簡単な運動指導が出来る技術を習得する。また、リーダーシップ力を身に付ける。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	身体のバランスの重要性/ボールを使って身体を整える運動、動きの仕組み/有酸素運動①
第 2 回	背中筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動②
第 3 回	背中筋肉と関わる骨、関節②/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動③
第 4 回	胸部の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動④
第 5 回	肩部の筋肉と関わる骨、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動⑤
第 6 回	上肢の筋肉と関わる骨、関節①/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/有酸素運動⑥
第 7 回	上肢の筋肉と関わる骨②、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操①
第 8 回	首の筋肉と関わる骨、腹部の筋肉と関わる骨①、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操②
第 9 回	腹部の筋肉と関わる骨②、関節/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操③
第 10 回	腹部の筋肉と関わる骨③/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操④
第 11 回	腹部の筋肉と関わる骨④/ボールを使った運動とピラティス、動きの仕組み/体操⑤
第 12 回	筋肉の復習とピラティス、動きの仕組み/体操⑥
第 13 回	ピラティスと動きの仕組み体操⑦
第 14 回	動きの仕組み体操⑧
第 15 回	実技テスト及びまとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1～15 回

成績評価方法	定期試験(実技)55% 小テスト45%					
教科書	プリント配布					
参考文献	『病気がみえる vol.11 運動器・整形外科』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『プロが教える筋肉のしくみ・はたらきパーフェクト事典 オールカラー』石井直方/監修 荒川裕志/著(ナツメ社)					
事前学習(内容・時間)	次の授業に必要な筋肉の付着部を覚えてくる(30 分)					
事後学習(内容・時間)	授業で行ったワークを1つでも実践し、確認する(30 分)					
フィードバックの方法	小テストは授業内で解説します					
備考	水分を補給しながらの実技です。水分補給できる物を用意すること。またGパン、スカート、ストッキングは×です。動きやすい服装(前にファスナーやボタンが付いているものは推奨しない)、Tシャツ、トレーニング用のコットン素材のスパッツ又はトレーニング用パンツ着用。靴は、底の平らなものを用意。					
オフィスアワー	授業後 15 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
衛生関係法規	奥田 のり美	講義	2 年次 前期	必修	1	30	KSB21106

科目の概要

保健、医療、福祉に関連した関係法規の基礎知識について学ぶ。医療サービス実践の基盤は法律によって根拠づけられ、規制されているということの重要さと必要性を理解する。さらに人々の健康を守るためのサービス提供機関と医療従事者の役割や機能についての基本的な法律や問題などについて、保健・医療職に焦点を当てながら関係法規を中心に講義する。

到達目標

- 看護サービスを提供する上で必要な基本法規について説明できる。
- 看護専門職としての意識を高め、看護者としての法的責任について説明できる。
- チーム医療における、看護職の職務の根拠や役割について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	看護職が知っておくべき法の基礎
第 2 回	保健師助産師看護師法・看護師の職務と責任
第 3 回	医療従事者に関する法律・医療法
第 4 回	医療事故が生じた時の法的責任・看護に関する法的事例
第 5 回	公衆衛生法 1 地域保健法・健康増進法
第 6 回	公衆衛生法 2 母子保健法・学校保健安全法
第 7 回	公衆衛生法 3 精神保健福祉法・感染症に関する法律
第 8 回	薬務に関する法律 医薬品医療機器等法・麻薬および向精神薬取締法
第 9 回	社会福祉に関する法律 1 社会福祉法・生活保護法
第10回	社会福祉に関する法律 2 高齢者福祉に関する法
第11回	社会福祉に関する法律 3 障がい者福祉に関する法・児童福祉に関する法
第12回	社会保険法 1 医療保険
第13回	社会保険法 2 介護保険法
第14回	労働に関する法 労働基準法・労働安全衛生法
第15回	まとめ・小テスト

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 4,15 回

成績評価方法	小テスト 100%					
教科書	『看護・医療を学ぶ人のための よくわかる関係法規 改訂第2版』松原孝明(学研プラス)					
参考文献	『これで突破！社会保障&関係法規 2025』西田 幸典(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	次回講義内容に関するテキストの事前学習(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習・課題(1 時間)					
フィードバックの方法	講義の都度授業の理解程度と質問について確認し、次回の講義で全体または個別にフィードバックします					
備考	基本的にテキストに沿って授業展開します。必ずテキストの関連項目を事前学習の上、授業に臨んで下さい。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理 I	吉田 浩	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	30	KSB11201

科目の概要

授業ではコンピューターを使用した情報の取り扱いに必要な基本的な知識と技術を概説し、情報をまとめる技術を実技演習を通して修得させる。また情報をやり取りする時に気を付けなければならないセキュリティの知識やマナーも合わせて説明し、安全なコミュニケーションのあり方を考察させる。

到達目標

- 情報を伝え合うツールとしてのコンピューターを正しく操作できる。
- 基本ソフトウェア(Word, Excel, PowerPoint)を使って情報をまとめて作成できる。
- ネットも含めたコンピューターによるコミュニケーションにおいて必要な知識やマナーを説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	コンピューターの基本操作その 1(起動と終了、アプリの起動、ウインドウ操作)／Word の基礎 -テキスト入力の基礎
第 2 回	コンピューターの基本操作その 2(エクスプローラーの操作、ファイルとフォルダーの操作、ファイルの管理)／Word の基礎 -テキスト入力の応用
第 3 回	コンピューターの応用操作その 1(ショートカットの利用)／Word の基礎 -書式の設定
第 4 回	コンピューターの応用操作その 2(ファイルの種類)／Word の基礎 -表の操作
第 5 回	情報モラルその1(情報社会の問題点、著作権)／Word の基礎 -画像と図形
第 6 回	情報モラルその2(個人情報の保護、ルールとマナー)／Word の基礎 -アプリケーションとの連携
第 7 回	情報モラルその3(情報の発信、コミュニケーションツール)／Excel の基礎 -データ入力の基礎
第 8 回	情報セキュリティその 1(セキュリティ、コンピューターウイルス)／Excel の基礎 -データ入力の応用
第 9 回	情報セキュリティその 2(スパイウェア、不正アクセス)／Excel の基礎 -表のレイアウト
第10回	生成 AI(人工知能、ウインドウズアプリと生成 AI 連携)／Excel の基礎 -数式の計算とグラフの作成
第11回	プレゼンテーションその 1(TED、プレゼンテーションに必要なこと)／Power Point の基礎 -スライド作成
第12回	プレゼンテーションその 2(テーマ、物語、ストーリーボード)／Power Point の基礎 -スライドのデザイン、スライドの画面転換の効果
第13回	プレゼンテーションその 3(プレゼントとしてのプレゼンテーション)／Power Point の応用-スライドショーを作成する、プレゼンテーション資料作成
第14回	プレゼンテーション 1(発表)
第15回	プレゼンテーション 2(発表)、プレゼンテーションのまとめ(4 つのポイントとプレゼンテーションの講評)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーションを第 14 回、15 回に分けて行います。

成績評価方法	小テスト 60%(復習用の課題) 成果物 40%(プレゼンテーション)					
教科書	『イチからしっかり学ぶ！ Office 基礎と情報モラル Microsoft365・Office2021 対応【NESS 付】』noa 出版(noa 出版)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	前回の授業の内容を復習し習得しておくこと。(30 分)					
事後学習(内容・時間)	毎回の授業時に復習用の課題(小テスト)を出題するので、それらに回答し提出すること。(1 時間)					
フィードバックの方法	提出された課題にコメントをつけて返却する。					
備考	授業に対する主体的な態度を望みます。					
オフィスアワー	授業終了後 30 分と授業日以外は随時チャットで受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
情報処理Ⅱ	國島 丈生	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	30	KSB13201

科目の概要

医療機関では、医療、保健、介護などさまざまな分野に関わるデータや情報を日々扱わなければなりません。このようなデータや情報を効率的に処理することは、医療従事者の働き方改革にも直結します。この授業では、現在実際に活用されているさまざまな情報技術のうち、とりわけ医療に関連の深いものとして、データ分析、医療情報システム、DX(デジタル・トランスフォーメーション)、生成 AI を選び、実習、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通して理解を深めてもらいます。この講義を通して、将来、看護師として働く皆さんに、医療分野への情報技術の活用に必要な知識と考え方を習得してもらうことを狙います。

到達目標

- Excel を使って基本的なデータ分析を行うことができる。
- AI など先端的な情報技術の知識を理解し、他人に対して適切に説明できる。
- 自らの身の回りの問題に対して、AI など先端的な情報技術によって解決できる提案を行うことができる。
- 先端的な情報技術をテーマにディスカッション、立案、プレゼンテーションを行うことができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション、医療と情報技術
第 2 回	Excel による情報処理(1):データの入力と集計
第 3 回	Excel による情報処理(2):データの修正と変換
第 4 回	Excel によるデータ分析(1):グラフによるデータの表示
第 5 回	Excel によるデータ分析(2):ピボットテーブルによるデータ集計
第 6 回	Excel によるデータ分析(3):ピボットテーブルのグラフ表示
第 7 回	Excel によるデータ分析(4):散布図によるデータの表示
第 8 回	医療機関における医療情報システム(1):調査とディスカッション
第 9 回	医療機関における医療情報システム(2):調査・ディスカッション内容のプレゼンテーション
第10回	医療 DX による業務の効率化(1):調査とディスカッション
第11回	医療 DX による業務の効率化(2):調査・ディスカッション内容のプレゼンテーション
第12回	生成 AI の現状と活用法
第13回	医療と生成 AI (1):調査とディスカッション
第14回	医療と生成 AI (2):調査・ディスカッション内容のプレゼンテーション
第15回	振り返り

アクティブ・ラーニング

グループワーク、ディスカッション・ディベート:第 8 回、第 10 回、第 13 回
 プレゼンテーション:第 9 回、第 11 回、第 14 回。履修人数が多い場合はグループでのプレゼンテーションにする可能性もあります。

成績評価方法	成果物 70% 定期試験(レポート)20% 小テスト 10%					
教科書	『【第2版】医療者のためのExcel入門 超・基礎から医療データ分析まで』田久浩志／著(医学書院)					
参考文献	『医療情報システム入門 2023』一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会(社会保険研究所)『病院DX』野末睦・中村恵二(秀和システム) 『医療のための生成 AI 実践ガイド』長英一郎(日本医学出版) そのほか、必要に応じて授業時に紹介します。					
事前学習(内容・時間)	シラバスを参照し、各授業に関連する知識を調べてください。また必要に応じて教員から指示があります。(30 分)					
事後学習(内容・時間)	授業を受けて気づいた学びをもとにさらに独自に調べてください。また、必要に応じて教員から指示があります。(30 分)					
フィードバックの方法	授業時にフィードバックを実施することを予定しています(授業運営の進行を通して変更する可能性があります)。					
備考						
オフィスアワー	授業前後に 10 分程度の間をオフィスアワーとして設定しています。担当教員はこの時間帯しか本学にいないため、何らかの質問や相談等がある場合はオフィスアワーを積極的に活用してください。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	—

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
社会保障と福祉	長谷川 章子	講義	2 年次 後期	必修	2	30	KSB21107

科目の概要

現代社会における社会保障について、その発達の歴史、理念と意義、社会保障の体系、社会保障各制度の概要、民間保険の概要と公的施策との関係等を教授し、医療専門職として理解しておくべき社会保障の基本的知識を説明する。また、ライフサイクルを基礎とし、人々の生活に社会保障がどのように関わり、支えているかを講義する。

到達目標

- 医療従事者として理解しておかなければならない社会保障制度を説明できる。
- グループワークを通して、社会保障をより身近なものとして理解を深め、医療現場で使用できる社会保障制度を述べるができる。
- 「人を援助する」ことを学び、適切な援助を説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	社会保障の概念および理念 —— 社会保障とは ——
第 2 回	出生～乳児期の社会保障 —— 出産費用・出産保障等 ——
第 3 回	幼児期の社会保障 —— 保健所の役割、保育所の役割等 ——
第 4 回	児童期の社会保障 —— 小学校、中学校、学童保育等 ——
第 5 回	出生～児童期までの社会保障を学び、各グループでテーマを設定しグループでプレゼンテーションを行う
第 6 回	青年期前期の社会保障 —— 高校、大学、専門学校、アルバイト等 ——
第 7 回	青年期後期の社会保障 —— 就労等 ——
第 8 回	視聴資料「シッコ」—— アメリカの医療保険制度——
第 9 回	成人期前期の社会保障 —— 結婚、出産等 ——
第10回	成人期後期の社会保障 —— 子育て等 ——
第11回	高齢期の社会保障 —— 定年、介護等 ——
第12回	コンプライアンス —— ハラスメントの概要 ——
第13回	医療保障の概要 —— 医療保障とは・医療保障の種類 ——
第14回	年金制度の概要 —— 公的年金とは・民間年金とは ——
第15回	障害者制度の概要 —— 障害者総合支援法の概要 ——

アクティブ・ラーニング

グループワーク…毎講義ごとに実施する
ディスカッション…第3,5,7,8,10,12,15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 50%					
教科書	講義ごとに資料を配布する					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	ライフサイクルについて事前に流れを理解しておくこと(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	グループワークの討議に備えて、各講義の内容を復習し、十分に理解すること(2 時間)					
フィードバックの方法	個人課題に対するコメントは、次回講義時に返却します。小テストの解答は次回講義時に解説します。					
備考						
オフィスアワー	講義開始 30 分前					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
医療と経済	川島 隆志	講義	2 年次 後期	選択	2	30	KSB23103

科目の概要

医療・看護を取り巻く環境は年々変化し、ますます厳しくなっていく。その大きな要因のひとつに「経済」がある。日本が高度成長を続けていた頃は、医療において経済・経営が語られることはなかった。少子化・高齢化の促進等による人口の変化、国の経済成長力の衰退がその要因となっている。本講義は、医療と経済の関係をわかりやすく講義し、効果的・効率的なケアを保証するために、経済を理解する必要性を説明する。また、生活者を良い方向に導くための考え方である行動経済学についても講義する。

到達目標

- 経済学、行動経済学の基本を理解し、その考え方を述べることができる
- 経済に関わる統計を医療・看護の視点で説明できる
- 行動経済学の考え方を医療・看護への応用例で説明できる

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	はじめに 本講義の概要
第 2 回	経済学の基礎①基本的な考え方
第 3 回	経済学の基礎②重要な概念「マクロ・ミクロ 2 つの視点」「需要と供給」「資源の配分」「機会費用」
第 4 回	需要に関する統計①「国民医療費の推移」「社会保障給付金の現状」
第 5 回	需要に関する統計②「人口動態」「世帯構成」
第 6 回	人口動態、世帯構成と医療・看護との関係
第 7 回	供給に関する統計「医療従事者数」「医療施設数の現状」
第 8 回	1～7 回までのまとめと国試練習問題
第 9 回	行動経済学の基礎①基本概念「プロスペクト理論」「現在バイアス」「互恵性と利他性」「ヒューリスティックス」
第10回	行動経済学の基礎②ナッジの意味とその策定方法
第11回	行動経済学の応用①「仕事への応用」事例
第12回	行動経済学の応用②「健康行動への誘いナッジ」例
第13回	行動経済学の応用③「医療における意思決定への応用」例
第14回	受講者による発表：医療・健康にかかわるナッジ例を発表
第15回	医療と経済のまとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 4～7 回
プレゼンテーション…第 14 回

成績評価方法	定期試験(レポート)70% 成果物 30%					
教科書	厚生労働省のホームページより必要な資料をダウンロードしていただきます(講義で指示します)					
参考文献	『行動経済学の使い方』大竹 文雄(岩波書店)					
事前学習(内容・時間)	医療・看護の関係をグループワークするための事前準備(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	グループワークについて復習する(2 時間)					
フィードバックの方法	課題等については授業中に解説し、返却します					
備考	統計数値を読む力、そこから課題を発見する力を学修するという心構えで受講してください。 また、生活者の行動を様々な視点で想像しながら受講してください。					
オフィスアワー	講日の授業の後 30 分。随時メールでも受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
臨床心理学	岩城 晶子	講義	2 年次 前期	選択	2	30	KSB23104

科目の概要

臨床心理学は、何らかの心の問題や葛藤に苦しむ人を援助しようとする現実的な要請の中で起こってきた学問である。臨床心理学が対象とするのは病を抱える人だけでなく、ライフサイクル上の様々な変化や困難の中にある人、自分のよりよい人生とは何かについて考える人など多岐にわたる。本科目では多様な心の理論や技法、歴史、文化などの視点から講義し、様々な角度から「人のこころ」について共に考える。

到達目標

- 臨床心理学の各理論とそれにおける心の定義やメカニズムについての知識を獲得し、説明することができる。
- 心理的援助の具体的方法や実践について基礎知識を獲得し、説明することができる。
- 病、ライフサイクル、社会、文化などの多角的視点から人の心について自分なりに考え、表現することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	臨床心理学ってなんだろう？
第 2 回	臨床心理学の歴史①古代から近現代まで
第 3 回	臨床心理学の歴史②近現代以降
第 4 回	臨床心理学の基礎理論・方法論①深層心理学派
第 5 回	臨床心理学の基礎理論・方法論②行動学派
第 6 回	アセスメント①見立てについて
第 7 回	アセスメント②事例を通して考える
第 8 回	心理療法①初回面接について
第 9 回	心理療法②関係性について
第10回	心理療法③芸術療法
第11回	臨床心理学の実践について①事例を通して考える
第12回	臨床心理学の実践について②ロールプレイ
第13回	「文化」を通して心について考える①「英国王のスピーチ」
第14回	「文化」を通して心について考える②「千と千尋の神隠し」
第15回	まとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 7,10,12,13,15 回

成績評価方法	定期試験(レポート)80% 成果物 20%					
教科書	特に使用しません。適宜、参考資料やプリントを配布します。					
参考文献	『図解でわかる臨床心理学』井上嘉孝(中央法規出版)、『カウンセリングの実際問題』河合 隼雄 著(誠信書房)、『新装版 臨床心理学ノート』河合 隼雄(金剛出版)					
事前学習(内容・時間)	授業で提示されたキーワードや社会問題について調べてくること(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	毎時間の授業内容を踏まえた小レポートを作成し、次回授業までに提出すること(2 時間)					
フィードバックの方法	小レポートや質問、成果物については、授業内でフィードバックします					
備考	人の心・苦しみに関するテーマや事例を扱うので、受講生の真剣な態度での参加を求めます					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	△	△	△

Ⅲ 專 門 分 野

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅠ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義・演習	1 年次 後期	必修	1	30	KSP11201

科目の概要

超高齢社会の到来、コロナ禍により今、医療現場は大きく変化している。先の見通せない不確かさの中で私たちは何を目指し、何を成すのか。これからの看護に求められるものは？看護と芸術がどのような関係性を持ち、芸術分野が看護と結びつくことで開かれる可能性を教授する。

また、毎回、学生の表現からディスカッションする時間を設け、双方向から対話型授業を作り上げてゆく。その他医療現場における様々なアート活動の事例を知り、その考え方や手法を学ぶことで観察力、想像力、表現力を身につけられるよう導く。

到達目標

- 日常の丁寧な観察、発想の転換から「美」を見いだせる感性を磨き、真の問題発見から解決へ向かっての道筋が見出せ、説明ができる。
- 循環論を理解し、問題を直視できる考え方を身につけ、述べることができる。
- 創造性を身につけ、問題(課題)解決への道筋をたて、作品を制作し、表現、解説できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	「ホスピタルアート」とは看護と建築との繋がり ナイチンゲールの看護覚書から 意見交換
第 2 回	イギリスと日本のホスピタルアート 意見交換
第 3 回	心の「痛み」と芸術表現 意見交換
第 4 回	写真で自己を表現する 課題説明 制作
第 5 回	制作発表(1)
第 6 回	制作発表(2)
第 7 回	制作発表(3)
第 8 回	制作発表(4)
第 9 回	病院に於けるアートの役割 ①理念の顕在化(事例紹介) グループワーク
第10回	病院に於けるアートの役割 ②業務改善(事例紹介) グループワーク
第11回	病院に於けるアートの役割 ③社会包摂(事例紹介)
第12回	小さなものづくり 制作(1)
第13回	小さなものづくり 制作(2)
第14回	制作発表(1)
第15回	制作発表(2)

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1～3回
 グループワーク…第9,10回
 プレゼンテーション…第5～8, 14,15回

成績評価方法	定期試験(レポート)50% 成果物 50%					
教科書	なし					
参考文献	『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子(言叢社) 『生命体としての病院―「痛み」を「希望」に変えるホリスティックなアートの力』森 合音(京都大学基礎物理学研究所 Journal of Integrated Creative Studies 2022 第3章/ http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~future/icis/) 『痛みを希望に変えるコミュニティーデザイン』紫牟田 伸子・森 合音(筑摩書房)					
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する(30分)					
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる(30分)					
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します					
備考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します					
オフィスアワー	Teams 上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅡ (治療環境とアメニティ)	森 合音	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21201

科目の概要

「ものづくり」は自分自身を知ることから始まる。他者とのコミュニケーションの始まりは自分を表現し、理解してもらおうと歩み寄ることに他ならない。制作を通じて自己と向き合い、プレゼンを通じて他者に自己を投げかけてゆく体験を通じ表現力を身につける。また「共同制作」を通じて作家の世界観やそこに込める想いなどを共有、完成されていく過程を体験することで、自己表現、利他表現、相互表現を学び作家性や作品性を越えてつながる芸術の持つ社会包摂機能の活用術を身につけられるよう導く。

到達目標

- 医療現場の問題を、「自己の心、患者の心の変化」を含めた広義の「治療環境」の側面から分析できる。
- 他者の考えを知り、痛みを観察し、想像し、寄り添える柔軟な感性を持ち、表現できる。
- 創造性を身につけ、問題(課題)解決への道筋をたて、作品を制作し、表現、解説できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ヘルスヒューマニティーズ とホスピタルアート 概念
第 2 回	チームで想いを形にする手法 グラフィック工芸家 招聘 講義 モーネ工房 井上 由季子(1)
第 3 回	チームで想いを形にする手法 グラフィック工芸家 招聘 制作 モーネ工房 井上 由季子(2)
第 4 回	制作①宝塚大学ショーウィンドウ広報物制作 「一瞬で道ゆく人励ます表現」 グループワーク
第 5 回	企画・制作 グループワーク
第 6 回	制作 グループワーク
第 7 回	制作 グループワーク
第 8 回	制作物発表
第 9 回	病棟で実践するアートワークショップを考えてみよう 課題説明 想像力と創造力で「痛み」を抱える人に何ができるか
第10回	グループで企画
第11回	ワークショップ準備 制作
第12回	制作
第13回	別のチームのワークショップ体験
第14回	別のチームのワークショップ体験
第15回	感想・振り返り

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション…第 8,15 回
グループワーク…第 2～7、9～14 回

成績評価方法	成果物 50% 定期試験(レポート)50%					
教科書	なし					
参考文献	『未来共創の哲学 大統一生命理論に挑む』村瀬雅俊・村瀬智子(言叢社) 『生命体としての病院―「痛み」を「希望」に変えるホリスティックなアートの力』森 合音(京都大学基礎物理学研究所 Journal of Integrated Creative Studies 2022 第 3 章/ http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~future/icis/) 『痛みを希望に変えるコミュニティーデザイン』紫牟田 伸子・森 合音(筑摩書房)					
事前学習(内容・時間)	医療環境における様々なアート活動をリサーチ、分析する(30 分)					
事後学習(内容・時間)	実際に授業を受けた内容から、臨床看護に応用できる部分をまとめる(30 分)					
フィードバックの方法	作品、レポートは以降の授業で講評します					
備考	希望者には質問や情報提供等個別に対応します					
オフィスアワー	Teams 上の「チャット」にて、随時質問を受け付けます					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅢ(笑い療法)	星加 静枝	講義・演習	2 年次 前期	選択	1	15	KSP22201

科目の概要

笑いは免疫力を高め、自然治癒力を持つことを、知識と体験で笑いの効果を実感してほしい。メカニズムを学び、体験を通してその効果について講義する。笑いの三大効用は健康力、人間関係力、想像力であるといわれている。それら高めるためには人生を豊かにし、自己表現ができる芸術の力を借りなければならない。講義や参加型演習やグループワークかつ音楽療法も取り入れ、心と脳の処方箋である笑い療法について講義する。

到達目標

- 笑いは免疫力を高め、楽しく豊かに生きるためのコミュニケーション、マネージメントの基本であることについて説明できる。
- 身近な音楽を通じ、音楽が促す笑いについて体得する。
- 企画された笑い療法をフィールドワークのなかでレクリエーションの一環として実演することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	看護と人間の感情と笑いのメカニズムについて（ガイダンス、笑いと環境、ユーモア看護）
第 2 回	看護と音楽が笑いに与える影響を体験を通じて学ぶ
第 3 回	元気になる癒しの環境
第 4 回	笑いの効能
第 5 回	笑い療法の実践
第 6 回	在宅における笑いの事例 グループワーク
第 7 回	笑いの発表会（企画）
第 8 回	笑いの発表会（実演）

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 6 回

成績評価方法	定期試験(レポート) 50% 成果物 50%					
教科書	資料配布					
参考文献	『笑いの処方箋—医者もできる噺家 桂前治の愉快的診療室』中島英雄(法研) 『死に方のコツ』高柳和江(小学館文庫)					
事前学習(内容・時間)	笑い方の練習(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	笑い方の練習(2 時間)					
フィードバックの方法						
備考	笑いとお笑いは違う。笑い与健康、笑い音楽などに興味を持ってください。					
オフィスアワー	授業終了後 30 分、教室で質問を受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに 掲げる 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅣ(音楽療法)	武田 倫衣子	講義・演習	2 年次 前期	選択	1	15	KSP22202

科目の概要

音楽療法では、クライアントのこころとからだの治療のために音楽を用いる。音楽療法は看護と重要な関わりのある様々な臨床現場で実施されている。看護師をはじめとする医療スタッフの音楽療法への正しい理解は、クライアントへの音楽療法の効果を倍増させる。クライアントから深い信頼を寄せられるであろう未来の看護師たちへ、音楽療法の基本及び看護師としての有効な関わり方を講義する。

到達目標

- 音楽療法についての基礎知識を修得し、説明できる。
- 音楽療法の意義と、看護師が積極的に参加することの重要性を解説することができる。
- 音楽療法で用いられる基礎的な技術の一部を修得し、活用できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	音楽療法の概要と歴史 成果物①
第 2 回	心身障がい者(児)のための音楽療法 成果物②
第 3 回	精神科における音楽療法
第 4 回	神経学的リハビリテーションにおける音楽療法 緩和ケア及びホスピスにおける音楽療法 第一回小テスト(第 1-3 回の授業内容)
第 5 回	第一回小テスト解説 高齢者のための音楽療法
第 6 回	高齢者のための音楽療法(続き) その他いろいろな音楽療法 ハンドベル演奏の実践・成果物③ (ハンドベル演奏の実践及び成果物③は、受講人数によって実施回数を増やす可能性あり)
第 7 回	音楽療法に関連性のある映画に学ぶ 第二回小テスト(第 4-6 回の授業内容)
第 8 回	第二回小テスト解説 高齢者の音楽療法に関する映画に学ぶ(続き) 成果物④

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2,6 回 (受講人数によって、グループワークであるハンドベル演奏の実施回数を増やす可能性あり)

成績評価方法	小テスト 80%(小テスト一つにつき評価割合 40%) 成果物 20%(成果物①、②、④:一つにつき評価割合 4%、成果物③:評価割合 8%)					
教科書	資料を随時配布する					
参考文献	必要に応じて適宜配布する					
事前学習(内容・時間)	次回の授業内容について、インターネット・書籍などで自分なりに知識を得ておく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業内容の復習(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストは次回の授業中に返却し解説を行う。成果物の返却は行わない。					
備考	受講にあたって音楽的知識の有無は問わないが、音楽に興味・関心があることが望ましい。					
オフィスアワー	授業終了後 30 分・随時チャット及びメールでも受け付ける。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅤ(絵画療法)	フルイ ミエコ	講義・演習	2 年次 前期	選択	1	15	KSP22203

科目の概要

アートによって人の潜在能力を引き出すには、活動の目的を理解して環境を整え、実践する力が求められます。この科目では「臨床美術」を軸に、対人援助のアートの実践に必要な技術と表現力、コミュニケーション技術を教授します。同時に実践を支える人間観について講義します。

到達目標

- 美術表現についての知識を理解し、美術活動を実践できる。
- アートを看護に活かせる具体的手法と技術を身につけ、実践できる。
- 対人援助としてのアートの実践に必要なマインドを理解し、コミュニケーション技術を身につけ、実践できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	総論「生きるを励ますアート」
第 2 回	美術表現の理解～「感じる」から「表現」へ繋げる
第 3 回	実践に役立つ手法①オイルパステルの抽象表現
第 4 回	美術表現の理解②造形からの出発
第 5 回	実践に役立つ手法③色鉛筆の表現
第 6 回	実践に役立つ手法④素材を楽しむ表現
第 7 回	アート活動の実際～現場運営に必要なこと
第 8 回	まとめ「アートを味方に」～存在論的人間観と関係性

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2,7 回
その他(アート作品制作と鑑賞活動)…第 3～6 回

成績評価方法	成果物 70% 小テスト 30%					
教科書	なし					
参考文献	『生きるを励ますアート 五感・マインドフルネス・臨床美術』関根一夫(クリエイツかもがわ)					
事前学習(内容・時間)	実技に必要なものを用意し、講義時に紹介する参考文献の内容を次回講義までに読んでおくこと。(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、学びのまとめをコメント用紙に記入する。(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストの結果については授業の時間内にフィードバックします。作品成果物については授業内でコメントします。質問は毎時のコメント用紙で受付、次回の授業にて回答します。					
備考	画材は事前にセットで購入してもらいます(1500 円程度必要)。指定のものを使うこと。指示のあるものは各自が事前に用意すること。					
オフィスアワー	授業終了後 30 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅥ(陶芸療法)	上田 順平	講義・演習	2 年次 後期	選択	1	15	KSP22204

科目の概要

陶芸制作は、作業療法として精神科領域で以前から用いられていた。一方、生活機能訓練としても注目されており、脳賦活訓練と手指のリハビリテーションなどでも効果が認められている。陶芸の治療的効果について、陶芸や様々な芸術に関する講義と、実際の陶芸制作を通じた演習を行う。

到達目標

- 焼き物の成り立ち、基本的な陶芸制作の方法を説明することができる。
- 焼き物を通じて、医療にとって身体の健康と等しく重要である心の健康を体感し、作品に表現することができる。
- 基礎的な焼き物作りの方法を身につけ、制作を行うことができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	焼き物の成り立ち、制作プロセスの紹介
第 2 回	作りたい作品のイメージを共有して、様々な芸術作品を紹介する。
第 3 回	カップやお茶碗、オブジェなどの制作開始
第 4 回	粘土段階での加飾を行う
第 5 回	素焼きに備えて、表面処理を行う
第 6 回	絵付けと釉薬作業①
第 7 回	絵付けと釉薬作業②
第 8 回	自身の作品について各自プレゼンテーション、講評会(意見交換)

アクティブ・ラーニング

実習・フィールドワーク…第 1～7 回
プレゼンテーション…第 8 回

成績評価方法	成果物 100%(内、作品 80%、プレゼンテーション評価 20%)					
教科書	なし					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	講義までに制作する作品の構想を考えておくこと(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義後に当日の制作の成果を検証し、次回制作時に活かせるようにすること(2 時間)					
フィードバックの方法	講評会の際に芸術からの視点、生活からの視点で受講者それぞれの作品について、講評を行います					
備考						
オフィスアワー	授業終了後 90 分					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅦ(セラピーメイク)	倉地 祐子	講義・演習	2 年次 後期	選択	1	15	KSP22205

科目の概要

今、医療現場では、治療だけでなく心のケアが重要視されています。患者様の心を癒し前向きに、QOL を上げる化粧療法「セラピーメイク」が注目されています。この講座では、ご自身の看護師としての身だしなみメイク、患者様に寄り添う「セラピーメイク」を中心に、理論と技術を教授します。

到達目標

- 看護師としての身だしなみ「セルフメイク」の知識と技術を説明できる。
- 患者様に寄り添う化粧療法「セラピーメイク」の知識と技術を説明できる。
- 故人様に行う「エンゼルメイク」の知識と技術を説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション セルフメイク(皮膚の構造、スキンケア・化粧下地)
第 2 回	セルフメイク(紫外線対策・ファンデーション・チーク)
第 3 回	セルフメイク(眉・アイメイク・リップ)
第 4 回	セラピーメイク(セラピーメイクの概要・あざ)
第 5 回	セラピーメイク(タトゥー・リストカット)
第 6 回	セラピーメイク(にきび・シミ・実技総復習)
第 7 回	エンゼルメイク
第 8 回	1 回から 7 回目までのまとめと小テスト

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 5,7 回

成績評価方法	小テスト 100%					
教科書	毎回プリント資料を配布します。					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	次回の講義内容についてインターネット等で知識を得ておく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内容を振り返り、知識・技術ともに復習すること(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストについては、授業内で解説を行います。					
備考	ご自身のメイク道具を持参いただきます。 お持ちでない方はお貸しいたします。					
オフィスアワー	授業終了後 15 分、教室で質問を受け付けします。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅧ (アロマセラピー・タッチケア)	大本 千佳	講義・演習	2 年次 後期	選択	1	15	KSP22206

科目の概要

タッチケアとアロマセラピーは、補完代替療法の有望な治療法の一つとして医療経済の観点からも注目されている。タッチケア、アロマセラピーについての基礎的知識の講義をおこなう。特に最も早くに普及した周産期領域のアロマセラピーについて、実技演習を交えながら講義をおこなう。

到達目標

- タッチング・タッチケアの基礎的知識を学び、医療分野への活用について説明できる。
- アロマセラピーの基礎的知識を学び、医療分野での安全な使用方法について説明できる。
- 女性・周産期領域におけるアロマセラピーについて基礎的技術を身につける。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	タッチング
第 2 回	タッチケア
第 3 回	アロマセラピー概論 1 歴史、医療分野でのアロマセラピーの現状(世界、日本)
第 4 回	アロマセラピー概論 2 精油の特徴 ケモタイプ 精油の正しい取り扱い
第 5 回	女性・周産期領域におけるアロマセラピー 理論
第 6 回	女性・周産期領域におけるアロマセラピー 実技 1 トリートメントの基礎
第 7 回	女性・周産期領域におけるアロマセラピー 実技 2 下肢トリートメント
第 8 回	女性・周産期領域におけるアロマセラピー 実技 3 足浴・ハンドマッサージ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1～8 回

成績評価方法	定期試験(レポート)100%(タッチケア 50% アロマセラピー50%)					
教科書	講義で紹介する					
参考文献	『ナースのためのアロマセラピー実践応用編－DVD でここが知りたいがもっとよくわかるアロママッサージテクニック』日本アロマセラピー学会看護研究会(メディカ出版)、 『ナースのためのアロマセラピー』日本アロマセラピー学会看護研究会(メディカ出版)、 『ナースケアワーカーのための臨床アロマセラピー入門編』日本臨床アロマセラピー学会(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	興味のある分野でのアロマセラピーの実践例について調べる(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	課題レポート作成に向けて学習を深める(2 時間)					
フィードバックの方法	課題レポート返却時にコメントを追記する					
備考						
オフィスアワー	適宜メールで対応する					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用能力 (看護実践力)
	○	—	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアートⅨ(推拿)	矢尾 重雄 陳 雷／鈴 武利	講義・演習	2 年次 後期	選択	1	15	KSP22207

科目の概要

「中医学の全体像」、「中医臨床における推拿の施術方法とその効果」についての講義と実技指導を行う。推拿とは、中国伝統医学の理論と技術を用いた治療法である。東洋医学や推拿の基本的な考え方を学び、その基本的な手技を実践できるようになることが目的である。 推拿のソフトな手技により気血の巡りを整え、陰陽のバランスを調整して、メンタルケア、ストレス緩和、看護ケアに活用できる知識と実践を指導する。

到達目標

● 東洋医学の基本的な考え方を説明できる。 ● 推拿の考え方を説明できる。 ● 推拿の基本的な手技を実践できる。
--

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	中医基礎理論概論Ⅰ(整体観と中医学における陰陽五行論・弁証論治)
第 2 回	中医基礎理論概論Ⅱ(気・血・水の概念、五臓六腑)
第 3 回	経絡経穴学
第 4 回	中医推拿療法概論(推拿の概念・歴史・応用範囲・注意事項・臨床特徴)
第 5 回	推拿基本手技Ⅰ(頭部・顔面部 ツボへの基本手技)
第 6 回	推拿基本手技Ⅱ(肩部・上肢 ツボへの基本手技)
第 7 回	推拿基本手技Ⅲ(背部、腰部、下肢 ツボへの基本手技)
第 8 回	推拿基本手技Ⅰ～Ⅲの総復習

アクティブ・ラーニング

その他(第 5～8 回) 学生同士で施術を行い、推拿手技を実践する。 以下の手順を通じて振り返りと確認を行う： 1.推拿手技を実践しながら、各種手技の施術ポイントや力加減などを確認する。 2.受け手からフィードバック(感覚や効果など)を受け取り、技術の改善に活かす。
--

成績評価方法	成果物 80% 小テスト 20%					
教科書	なし、各講義に資料を配布する					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	事前資料を確認と熟読、前回演習の手技を練習(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業資料の復習と手技の練習(2 時間)					
フィードバックの方法	各講義で質問を受けて解説を実施します					
備考	推拿を通して中医学を理解していただき看護の臨床現場に役立てていただきたい					
オフィスアワー	授業終了後 30 分、教室で質問を受け付ける					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	○	△	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学概論	平野 加代子 基礎看護学分野教員	講義	1 年次 前期	必修	2	30	KSP11101

科目の概要

基礎看護学概論は、看護の初学者が専門職としてキャリア発達を遂げていくための最初のステップとして、看護について考える重要な科目である。本科目においては、看護の対象者、看護専門職、看護の提供の仕組み等の看護に関する主要な概念について広く概観し、看護活動の基盤として重要な倫理観や看護師の臨床判断の基盤となる気づく力を修得する。さらに社会から必要とされる看護の役割と責務についての理解を深め、「看護とは何か」という問に対する学生自身の探求を円滑に深めることができるよう学修を支援する。

到達目標

- 看護における主要な概念とその意味、および概念間の関連について説明できる。
- 看護師の臨床判断の基盤となる思考パターンについて説明し、自身の気づく力を伸長することができる。
- 看護専門職の活躍の場と役割について説明できる
- 看護を提供する仕組みについて説明できる

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス 科目の位置づけと学習する意義と目的 看護・ケアとは
第 2 回	看護のなりたち
第 3 回	看護の対象者① 人間・健康・環境
第 4 回	看護の対象者② 人間・健康・環境
第 5 回	看護の提供者① 看護実践の基盤 看護専門職の思考法
第 6 回	看護の提供者② 看護実践の原則
第 7 回	看護の提供者③ 看護倫理
第 8 回	看護の提供者④ 医療安全への取り組み
第 9 回	看護専門職の活躍① キャリア発達 専門看護師・認定看護師
第 10 回	看護専門職の活躍② 国際看護・災害看護
第 11 回	看護の提供の仕組み① 看護マネジメント
第 12 回	看護の提供の仕組み② 保健医療福祉サービス
第 13 回	臨床判断モデルと気づく力①
第 14 回	臨床判断モデルと気づく力②
第 15 回	看護の提供の仕組み③ 法律・医療保険制度と介護保険制度・看護教育制度／小テスト(筆記試験)

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～12 回
グループワーク…第 13～15 回

成績評価方法	小テスト 50% 小テスト 20%(第 15 回の筆記試験) 成果物 30%(レポート、技術)					
教科書	『NURSING TEXTBOOK SERIES 看護学概論第 5 版 看護追求へのアプローチ』田中 幸子(医歯薬出版)					
参考文献	授業時に紹介します。					
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲のページを熟読し、割り当てられた課題に取り組む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	各講義回に課題を提示する(2 時間)					
フィードバックの方法	講義時間中に必要に応じて説明を加える					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護理論	平野 加代子 基礎看護学分野教員	講義	1 年次 後期	必修	1	15	KSP11102

科目の概要

看護理論は看護における知識を体系化し、看護に関連した現象をより明確に記述・説明・予測するための枠組みであり、より望ましい看護実践を可能にするために開発され発展してきた。本科目では、事例について看護理論を用いて深く考察し、看護展開における対象理解と対象者の持てる力を導き出す看護援助を考え、さらに看護理論を活用しながら看護を実践するための基礎的能力を身につけられるよう教授する。

到達目標

- 看護学を構成する主要概念について説明できる。
- 看護理論と看護に関連する諸理論について説明できる。
- 看護専門職を志向し、自身の考える看護について説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス 看護学を構成する主要概念と看護理論
第 2 回	代表的な看護理論①
第 3 回	代表的な看護理論②
第 4 回	代表的な看護理論③
第 5 回	看護現象を理解するための諸理論①
第 6 回	看護現象を理解するための諸理論②
第 7 回	看護現象を理解するための諸理論③
第 8 回	看護学の発展と看護理論の活用 まとめ

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1,8 回
グループワーク…第 2～7 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	『看護学の概念と理論』野嶋佐由美(日本看護協会出版会)、『看護覚え書き』フロレンス・ナイティンゲール 著 小玉香津子・尾田葉子 訳(日本看護協会出版会)					
参考文献	『看護の基本となるもの』ヴァージニア・ヘンダーソン 著 湯楨ます・小玉香津子 訳(日本看護協会出版会)					
事前学習(内容・時間)	教科書の授業範囲のページを熟読し、割り当てられた課題に取り組む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	『看護の基本となるもの』を通読し要約する(2 時間)					
フィードバックの方法	課題に対するフィードバックは課題へのコメントや、講義におけるディスカッションにより適宜行う					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	△	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護コミュニケーション論	西垣 里志／木村 聡子 東野 和馬／棕本 美帆	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	30	KSP11202

科目の概要

コミュニケーションを構成する要素とプロセスを理解し、看護実践の基盤となる援助的人間関係を築くための基礎的な知識とスキルを教授する。看護専門職としてのコミュニケーション能力を伸ばすことができるよう、グループワークやディスカッションによるインタラクティブな活動を多く取り入れ学修を支援する。

到達目標

- 自己理解を図りながら自己のコミュニケーションの特徴を知り説明することができる。
- 様々なコミュニケーションの技術を理解し説明することができる。
- 他者理解および関係構築のための基礎的知識について説明できる。
- 社会の一員として必要な言葉遣いやマナーとチームで活動するために必要な基本的なスキルを身につける。
- 看護専門職として対象者と関係構築する際に重要となるモラルや倫理観が説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	コミュニケーションの仕組み
第 2 回	自分とのコミュニケーション① 自己理解 自己開示 自己受容
第 3 回	自分とのコミュニケーション② 他者理解 自己表現
第 4 回	対人関係を考える① 信頼関係 聴く力 マナー
第 5 回	対人関係を考える② 適切な対人距離 社会人基礎力
第 6 回	様々なコミュニケーションの問題と対処
第 7 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術① 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
第 8 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術② 傾聴する技術
第 9 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術③ 共感する技術 承認する技術
第 10 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術④ アサーション
第 11 回	看護専門職としてのコミュニケーション技術⑤ 患者・家族に対するコミュニケーションのロールプレイ
第 12 回	コミュニケーションスキルの向上 リフレクション プロセスレコード
第 13 回	看護学習者としてのコミュニケーション① 挨拶 報告 連絡 相談 多職種連携
第 14 回	看護学習者としてのコミュニケーション② コーチング チームリーダーとしてのコミュニケーション
第 15 回	看護学習者としてのコミュニケーション③ モラルと倫理観

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～5,7～10 回
グループワーク…第 11～14 回
プレゼンテーション…第 6,15 回

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	テキストの授業範囲の箇所を熟読しまとめ、自分に置き換え考えてみる(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	学習内容を日常生活のコミュニケーション場面に落とし込み実践してみる(1 時間)					
フィードバックの方法	成果物に対するフィードバックやコメントは授業中に対話しながら解説する					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術Ⅰ	瀬山 由美子 基礎看護学分野教員	講義・演習	1 年次 前期	必修	2	60	KSP11203

科目の概要

すべての看護ケアに共通する基本的な知識と技術、自立した生活が困難となった人々に対する日常生活の援助、原理と原則に準拠した安全で安楽な看護ケアを提供するための基礎的な知識と技術について教授する。科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、実習室という臨床を模した学習環境において、看護学を学習するにあたり必要となる主体的な学習態度とグループで協力して学び合う姿勢を身につけることができるよう、講義と演習を組み合わせ、学修を支援する。

到達目標

- 原理・原則に基づいた看護ケアを提供するための基本的な知識について説明できる。
- 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護ケアを計画することができる。
- 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護ケアを展開することができる。
- 主体的に学習に取り組み、グループの活動に貢献できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、看護技術とは(講義)
第 2 回	感染防止の技術①[感染予防の基礎知識、スタンダードプリコーション、感染経路別予防策](講義)
第 3 回	感染防止の技術②[実習室オリエンテーション、スタンダードプリコーション](講義・演習)
第 4 回	環境調整技術①[環境調整の意義、療養環境のアセスメント、療養環境の調整と整備](講義)
第 5 回	環境調整技術②[スタンダードプリコーション、ベッドメイキング、環境整備](演習)
第 6 回	環境調整技術③[ベッドメイキング、環境整備](演習)
第 7 回	活動・休息援助技術①(講義)
第 8 回	苦痛の緩和・安楽確保の技術(講義)
第 9 回	活動・休息援助技術②[移送・移乗・安楽な体位](演習)
第 10 回	活動・休息援助技術③[移送・移乗・安楽な体位](演習)
第 11 回	食事援助技術①[食事と栄養の意義、食事摂取基準、治療食・治療食、食事と栄養のアセスメント](講義)
第 12 回	食事援助技術②[食事摂取の自立困難、嚥下障害、経管・経腸栄養法、経静脈栄養法](講義)
第 13 回	食事援助技術③[食事介助](演習)
第 14 回	食事援助技術④[食事介助](演習)
第 15 回	清潔・衣生活援助技術①[清潔と衣生活の意義、清潔に影響する要因、アセスメント](講義)
第 16 回	清潔・衣生活援助技術②[清潔行動や衣生活の援助](講義)
第 17 回	清潔・衣生活援助技術③[足浴](演習)
第 18 回	清潔・衣生活援助技術④[足浴](演習)
第 19 回	清潔・衣生活援助技術⑤[洗髪](演習)
第 20 回	清潔・衣生活援助技術⑥[洗髪](演習)
第 21 回	清潔・衣生活援助技術⑦[全身清拭・寝衣交換](演習)
第 22 回	清潔・衣生活援助技術⑧[全身清拭・寝衣交換](演習)
第 23 回	排泄援助技術①[排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント](講義)
第 24 回	排泄援助技術②[排泄の意義、排泄に影響する要因、排泄のアセスメント](講義)
第 25 回	排泄援助技術③[床上排泄](演習)
第 26 回	排泄援助技術④[床上排泄](演習)
第 27 回	排泄援助技術⑤[おむつ交換、陰部洗浄](演習)
第 28 回	排泄援助技術⑥[おむつ交換、陰部洗浄](演習)
第 29 回	技術の統合①
第 30 回	技術の統合②

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～4,7,8,11,12,15,16,23,24 回／グループワーク…第 5,6,9,10,13,14,17～22,25～30 回

成績評価方法	定期試験(筆記)60% 定期試験(実技)20% 成果物 20%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)、『基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第 19 版』有田 清子(医学書院)					
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第 2 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)					
事前学習(内容・時間)	テキスト・配布資料・関連動画を活用し、技術の手順と根拠を説明できる状態で演習に臨む(1～3 時間)					
事後学習(内容・時間)	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返す行い、看護技術を身につける(1～3 時間)					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学援助技術Ⅱ	神寶ひろみ 基礎看護学分野教員	講義・演習	1 年次 後期	必修	2	60	KSP11204

科目の概要

治療や検査などの身体的侵襲を伴う技術は正確性・安全性・安楽性が特に重要となり、高い倫理観を基盤とした援助が求められる。科学的根拠に基づく判断と、倫理的な配慮を伴った技術が展開できる能力を養うことを目的として、医療安全の視点から理解できるように授業を展開する。授業は、講義と演習を組み合わせた主体的学習が取り組めるように指導する。
--

到達目標

● 原理・原則に基づいた看護ケアを提供するための基本的な知識について説明できる。 ● 科学的根拠に基づき対象者に必要な看護ケアを計画することができる。 ● 安全・安楽で、倫理的な配慮を伴う看護ケアを展開することができる。 ● 主体的に学習に取り組み、グループの活動に貢献できる。
--

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス、安全確保の技術(講義)
第 2 回	感染防止の技術①[洗浄・消毒・滅菌、無菌操作](講義)
第 3 回	感染防止の技術②[感染性廃棄物、感染管理、針刺し事故](講義)
第 4 回	感染防止の技術③[滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション](演習)
第 5 回	感染防止の技術④[滅菌手袋、滅菌鑷子の取り扱い、スタンダードプリコーション](演習)
第 6 回	排泄援助技術①[排便・排尿](講義)
第 7 回	排泄援助技術②[一時的導尿](演習)
第 8 回	排泄援助技術③[一時的導尿](演習)
第 9 回	呼吸・循環を整える技術①[呼吸・循環・体温のアセスメント](講義)
第 10 回	呼吸・循環を整える技術②[呼吸・循環・体温のアセスメント](講義)
第 11 回	呼吸・循環を整える技術③[バイタルサインの測定](演習)
第 12 回	呼吸・循環を整える技術④[バイタルサインの測定](演習)
第 13 回	呼吸・循環を整える技術⑤[酸素療法・一時的吸引](演習)
第 14 回	呼吸・循環を整える技術⑥[酸素療法・一時的吸引](演習)
第 15 回	創傷管理技術①[創傷管理、褥瘡予防](講義)
第 16 回	創傷管理技術②[創傷処置、ドレッシング材の特徴と使用方法](演習)
第 17 回	症状・生体機能管理技術①(講義)
第 18 回	症状・生体機能管理技術②(講義)
第 19 回	症状・生体機能管理技術③[静脈血採血](演習)
第 20 回	症状・生体機能管理技術④[静脈血採血](演習)
第 21 回	与薬の技術①[薬物の性質](講義)
第 22 回	与薬の技術②[与薬法](講義)
第 23 回	与薬の技術③[輸血管理](講義)
第 24 回	与薬の技術④[皮下注射、筋肉内注射](演習)
第 25 回	与薬の技術⑤[皮下注射、筋肉内注射](演習)
第 26 回	与薬の技術⑥[輸液](演習)
第 27 回	与薬の技術⑦[輸液](演習)
第 28 回	技術の統合①
第 29 回	技術の統合②
第 30 回	技術の統合③

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～4,6,7,9～11,13,15,17～19,21～24,26 回
グループワーク…第 5,8,12,14,16,20,25,27～30 回

成績評価方法	定期試験(筆記)60% 定期試験(実技)20% 成果物 20%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 第19版』茂野 香おる(医学書院)、『基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 第19版』有田 清子(医学書院)					
参考文献	『看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第2版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『看護がみえる vol.2 臨床看護技術』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)					
事前学習(内容・時間)	テキスト・配布資料・関連動画を活用し、技術の手順と根拠を説明できる状態で演習に臨む(1～3 時間)					
事後学習(内容・時間)	事後課題により演習をふり返り、セルフトレーニングを繰り返す行い、看護技術を身につける(1～3 時間)					
フィードバックの方法	演習内容や課題へのフィードバックは、成果物へのコメントもしくは演習中のディスカッションを通して行う					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
ヘルスアセスメント	平野 加代子 基礎看護学分野教員	講義・演習	2 年次 前期	必修	1	30	KSP21202

科目の概要

ヘルスアセスメントは、対象者の健康状態を把握するために必要な知識、技術および的確に診査できる能力が必要である。特に看護実践に必要なフィジカルアセスメントは、生活者である対象者の身体状況を診査し、より適切な看護判断や看護実践に活用するために必要な知識、思考、技術を修得できるように講義および演習を進める。さらに看護過程における身体的問題のアセスメントにつなげるための学修を支援する。

到達目標

- 看護の場面におけるヘルスアセスメントの意義が説明できる。
- フィジカルイグザミネーションの基本技術の方法と根拠が説明でき実施できる。
- フィジカルイグザミネーションで得られた情報を正確に記録できる。
- フィジカルイグザミネーションで得られた情報から身体的問題をアセスメントすることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	【講義】ヘルスアセスメントと看護の役割とフィジカルアセスメントの概念 フィジカルアセスメントの基本技術と対象者への配慮
第 2 回	【講義/演習】全体の概観：一般状態と生命徴候
第 3 回	【講義/演習】生命を維持する：循環器系フィジカルアセスメントの基本
第 4 回	【演習】生命を維持する：循環器系フィジカルアセスメントの実際
第 5 回	【講義/演習】生命を維持する：呼吸器系フィジカルアセスメントの基本
第 6 回	【演習】生命を維持する：呼吸器系フィジカルアセスメントの実際
第 7 回	【講義/演習】見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す：脳神経系フィジカルアセスメントの基本
第 8 回	【演習】見る・聴く・嗅ぐ・味わう・触れる・話す：脳神経系フィジカルアセスメントの実際
第 9 回	【講義/演習】身体を動かす/からだをまもる：筋・骨格系、皮膚、リンパ、甲状腺フィジカルアセスメントの基本
第10回	【演習】身体を動かす/からだをまもる：筋・骨格系、皮膚、リンパ、甲状腺フィジカルアセスメントの実際
第11回	【講義/演習】食べる・栄養をとりこむ/排泄する：消化器系、腎・泌尿器フィジカルアセスメントの基本
第12回	【演習】食べる・栄養をとりこむ/排泄する：消化器系、腎・泌尿器フィジカルアセスメントの基本
第13回	【講義/演習】セクシャリティ：男性・女性生殖器フィジカルアセスメントの基本 事例を用いたフィジカルイグザミネーション(実施計画の作成)
第14回	【演習】事例を用いたフィジカルイグザミネーション(技術テスト)
第15回	【演習】事例を用いたフィジカルイグザミネーション(技術テスト)

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2～13 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 定期試験(実技)20% 成果物 10%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)、『新訂版 写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント アドバンス』守田 美奈子(インターメディカ)					
参考文献	『日常生活行動からみるヘルスアセスメント』大久保暢子 編(日本看護協会出版会)、『看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)					
事前学習(内容・時間)	講義前は「人体の構造と機能」の知識がベースとなりますので復習しておく必要があります。講義後、必ず演習を実施しますので、フィジカルイグザミネーションの根拠と方法を復習して臨んでください(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業毎に事後課題を提示します(1 時間)					
フィードバックの方法	事後課題は、授業時または提出後に講評する					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	△	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護過程展開の基礎	平野 加代子 基礎看護学分野教員	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21203

科目の概要

看護過程は看護を展開するための思考と実践の過程であり、看護を科学的に展開するための基本技術である。授業では、看護過程の必要性や構成要素、看護過程の展開プロセスとそこで必要なクリティカルシンキングについて講義する。さらに模擬電子カルテソフトを使用し、事例展開を演習形式で行い、概念の理解と知識の活用ができるように学修を支援する。

到達目標

- 看護過程の概念と構成要素を説明できる。
- 事例に対する看護過程の展開ができる。
- 事例に対する個性を考慮した看護計画を立案することができる。
- 事例の看護計画に基づいた実践・評価ができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	【講義】看護学における看護過程の位置づけ、看護過程の構成要素 看護過程の 5 つの段階と事例展開を行う上で必要な準備
第 2 回	【演習】事例に関連した病態の理解
第 3 回	【講義/演習】情報の分析①
第 4 回	【講義/演習】情報の分析②
第 5 回	【講義/演習】情報の分析③
第 6 回	【講義】全体像
第 7 回	【演習】事例患者の全体像の作成
第 8 回	【演習】事例患者のアセスメントおよび看護問題の明確化までのプロセス(全体像のグループ発表)
第 9 回	【講義/演習】事例患者の看護問題リスト作成
第10回	【講義・演習】事例患者の看護計画立案
第11回	【演習】事例患者の看護計画立案(グループ発表)
第12回	【演習】事例患者の看護計画実践/看護実践後の報告と記録の整理①
第13回	【演習】事例患者の看護計画実践/看護実践後の報告と記録の整理②
第14回	【講義/演習】看護計画の評価と修正、看護サマリー
第15回	【講義/演習】看護サマリー発表、まとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 2～5,7～11,14 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	『基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 第 19 版』茂野 香おる(医学書院)、『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第 6 版』江川 隆子 編集(ヌーヴェルヒロカワ)、『看護過程をひとつひとつわかりやすく。』(Gakken)					
参考文献	『看護がみえる vol.4 看護過程の展開』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『看護過程の解体新書』石川ふみよ(学研プラス)					
事前学習(内容・時間)	アセスメントに必要な知識を随時、復習・学習する。授業資料を読む(1～3 時間)。					
事後学習(内容・時間)	指定された課題(2 時間)					
フィードバックの方法	レポート課題は、授業時または提出後に講評する					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護マネジメント論	高須 久美子	講義	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31101

科目の概要

医療安全における基本的な知識、看護職の責務と役割について教授する。また、医療現場における危険の予知と回避、事故防止などの安全対策の理論と方法を教授する。

看護管理では、看護がどのように組織化され、質が保証されているかを学び、職位や権限の有無にかかわらず、看護職者がケアや組織・社会の問題に気づき、それぞれの立場で主体的に他者と協働し変化を起こすことの大切さを教授する。

到達目標

- 医療安全の基本的な知識とは何かを説明できる。
- 看護業務の範囲と責任について説明できる。
- ヒューマンエラーの知識を生かした事故防止策について説明できる。
- 事故報告の意味と必要性について説明できる。
- 看護業務のマネジメントを通し、看護を仕事として確実に遂行するための方法を説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	医療安全と看護の理念
第 2 回	医療安全への取り組みと医療の質の評価
第 3 回	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント
第 4 回	チームで取り組む安全文化の醸成
第 5 回	看護業務に関連する事故と安全対策①
第 6 回	看護業務に関連する事故と安全対策②
第 7 回	在宅看護における医療事故と安全対策
第 8 回	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策
第 9 回	看護学生の実習と安全
第10回	看護管理 看護マネジメント
第11回	看護管理 看護専門職とキャリア
第12回	キャリアマネジメント
第13回	看護と経営、看護現場に影響を与える制度と法律①
第14回	看護と経営、看護現場に影響を与える制度と法律②
第15回	小テスト および その解説と国家試験でよく出るポイント

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第4,6,8,9回/グループワーク…第 11,12 回

授業の中でペアワークやディスカッション、グループワークなどを通じて自己の考えを述べる時間をつくとともに、他者からの学びを共有することで自己成長を促す。グループワークやディスカッションには、自己の考えを持って参加する。

厚生労働省や看護協会の HP を見るとともに医療や看護に関する情報を得る習慣を付けること。

成績評価方法	小テスト 80% (最終講義内で実施) 成果物 20% (毎回講義時に意見、質問を記載して提出)					
教科書	『看護管理 第 5 版』吉田 千文(メディカ出版)、『医療安全 第 5 版』松下 由美子(メディカ出版)、『看護をめぐる法と制度 第 5 版』平林 勝政(メディカ出版)					
参考文献	『看護師国家試験対策ブック まるカン 2025』まるカン編集委員会 編著(メディカ出版)、 『これで突破! 社会保障&関係法規 2025』西田 幸典 編著他(メディカ出版)、 『必修問題まんてん GET!』看護師国家試験対策研究会 編(メディカ出版) 他 随時紹介					
事前学習(内容・時間)	該当範囲の教科書を読んでおくこと。当該範囲の国家試験問題を事前配布するため予習しておくこと(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業後配布した資料などを復習しておくこと。疑問に思ったことは次回までに整理し、質問する(2 時間)。					
フィードバックの方法	毎回、講義終了後時に講義内容についての意見や質問を聴取、フィードバックを行なう。					
備考	講義内容についての意見や質問記載用紙を毎回配布する。					
オフィスアワー	授業の前後およびメールは随時可能。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学概論	桶河 華代 乙黒 千鶴/内貴 千沙登	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSP21101

科目の概要

地域で暮らす人々の「健康と暮らし」を支える看護について、その基盤となる考え方と社会資源や法制度等について教授する。人々を取り巻く社会の変化に伴う生活者のニーズに対応するため、医療現場、行政、産業、学校、介護・福祉施設など多様な場で展開される看護活動を説明する。地域包括ケアシステムの目的を理解し、看護職種での連携・多職種との協働の重要性について講義する。

到達目標

- 地域で暮らす人々の「健康と暮らし」を支える看護について、その基盤となる考え方と社会支援や法制度等について説明できる。
- 社会の変化に伴う生活者のニーズに対応するため、医療現場、行政、産業、学校、介護・福祉施設など多様な場で展開される看護活動を説明できる。
- 地域包括ケアシステムの目的を理解し、看護職種での連携・多職種との協働の重要性について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	地域・在宅看護の概念①
第 2 回	地域・在宅看護の概念②
第 3 回	在宅療養者と家族の支援①
第 4 回	在宅療養者と家族の支援②
第 5 回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護① 地域アセスメント
第 6 回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護② 地域包括ケアシステム
第 7 回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護③ 療養の場の移行に伴う看護/地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携
第 8 回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護④ 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント
第 9 回	地域療養を支える制度① 社会資源の活用/医療保険制度/後期高齢者医療制度
第10回	地域療養を支える制度② 介護保険制度/生活保護制度
第11回	地域療養を支える制度③ 障害者に関連する法律/難病法/子どもの在宅療養を支える制度と社会資源
第12回	地域療養を支える制度④ 在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源/高齢者施策
第13回	在宅療養を支える訪問看護① 訪問看護の特徴/在宅ケアを支える訪問看護ステーション
第14回	在宅療養を支える訪問看護② 訪問看護サービスの展開在宅看護における安全と健康危機管理
第15回	地域・在宅看護の動向と今後の発展－在宅看護の先駆的取り組み/これからの地域・在宅看護の発展に向けて－

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 15 回
グループワーク…第 12 回
その他…第 13,14 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物 10% 小テスト 10%					
教科書	『地域療養を支えるケア 第 7 版』臺 有桂(メディカ出版)					
参考文献	『地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤 第 6 版』河原 加代子(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間の指示された課題を実施する(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストについて、授業の中で解説します					
備考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を説明します					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学援助論Ⅰ	桶河 華代 乙黒 千鶴/内貴 千沙登	講義	2 年次 後期	必修	1	15	KSP21102

科目の概要

地域で暮らす療養者と家族が、在宅療養を継続できるための看護援助について教授する。生活者である療養者とその家族を疾患や障害だけでなく、社会活動および社会環境という視点で見つめ、生活者としてのニーズや看護課題を抽出し、援助の個別性・多様性と看護の役割について講義する。

到達目標

- 在宅看護を必要とする対象者の背景や特徴が説明できる。
- 療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を説明できる。
- 地域で暮らす療養者と家族が、在宅療養を継続できるための看護援助について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	在宅療養生活を支える基本的な技術①—コミュニケーション/ヘルスアセスメント—
第 2 回	在宅療養生活を支える基本的な技術②—環境整備/生活リハビリテーション—
第 3 回	在宅療養生活を支える基本的な技術③—感染対策/災害看護—
第 4 回	在宅療養生活を支える基本的な技術④—ターミナルケア—
第 5 回	日常生活生活を支える看護技術①—食生活—
第 6 回	日常生活生活を支える看護技術②—排泄—
第 7 回	日常生活生活を支える看護技術③—清潔—
第 8 回	日常生活生活を支える看護技術④—呼吸—

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 3 回
グループワーク…第 3,7 回
プレゼンテーション…第 3 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物 10% 小テスト 10%					
教科書	『在宅療養を支える技術 第 2 版』臺 有桂(メディカ出版)					
参考文献	『地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実践 第 6 版』河原 加代子(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題を実施する(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストについて授業の中で、解説します					
備考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を説明します					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学援助論Ⅱ	桶河 華代 乙黒 千鶴/内貴 千沙登	講義	2 年次 後期	必修	2	30	KSP21103

科目の概要

地域で生活するさまざまなライフサイクルや健康レベルにある個人・家族・集団の健康の維持・増進や疾病予防を目指した看護の展開を教授する。地域包括ケアシステム作りを含む具体的な事例を通した看護を説明する。個々や集団にアプローチするだけでなく公共政策や環境づくりが重要であるヘルスプロモーションの概念から健康教育の理論的枠組みなど基本的な知識と技術を教授する。

到達目標

- 在宅看護の対象者の健康状態や暮らし方、生活環境の特徴、ニーズを説明できる。
- 生活の場において、対象者の健康状態から、予防的ケアや早期対応の視点をもった看護について説明できる。
- 対象者が望む生活を実現するために必要な地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携の在り方を説明できる。
- 地域で暮らす人々の健康の保持増進、疾病の予防に関する看護活動を理解し説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	地域での人々の暮らしを支える地域包括ケアシステムと看護
第 2 回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関の連携
第 3 回	退院調整支援と在宅医療の実際
第 4 回	在宅療養者と家族の特徴と看護
第 5 回	様々な家族の理解と家族支援
第 6 回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護①独居の糖尿病療養者
第 7 回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護②認知症高齢者と家族
第 8 回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護③脳梗塞後遺症のある高齢者と家族
第 9 回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護④ターミナル期のがん療養者と家族
第10回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑤ALS 療養者と家族
第11回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑥脊髄損傷者と家族
第12回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑦精神障害者と家族
第13回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑧重症心身障害児と家族
第14回	健康課題をもつ療養者の暮らしを支える看護⑨COPD 療養者と家族
第15回	地域で暮らす人々の健康の保持増進、疾病の予防に関する看護活動

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 10～14 回
グループワーク…第 10～14 回
プレゼンテーション…第 15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物 10% 小テスト 10%					
教科書	『地域療養を支えるケア 第 7 版』臺 有桂(メディカ出版)					
参考文献	『地域・在宅看護論[2] 地域・在宅看護の実際 第 6 版』河原 加代子(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキストを読んでおく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題を実施する(2 時間)					
フィードバックの方法	課題について授業の中で、解説します					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	△	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学援助論Ⅲ	桶河 華代 乙黒 千鶴/内貴 千沙登	講義・演習	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31201

科目の概要

生活の場で実施される医療的ケアについて、在宅療養者の特徴や提供される看護技術と看護展開について教授する。また、代表的な在宅医療と看護および社会資源の活用や多職種連携の現状をふまえ、看護職として在宅療養者へのかかわりが理解できるよう指導する。

到達目標

- 在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族の生活状況をふまえ、安全に配慮した援助の必要性について説明できる。
- 在宅で医療的援助を必要とする療養者と家族への地域・在宅看護過程の展開について説明できる。
- 在宅療養者と家族のニーズに則した看護目標の設定と個性性を尊重した看護計画を立案できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	療養者宅での看護援助の特徴と留意点
第 2 回	地域・在宅看護を必要とする人とその家族の実際
第 3 回	地域・在宅看護過程の展開① 地域・在宅における看護過程の特徴
第 4 回	地域・在宅看護過程の展開② 情報収集・整理
第 5 回	地域・在宅看護過程の展開③ 病態・生活機能関連図
第 6 回	地域・在宅看護過程の展開④ アセスメント
第 7 回	地域・在宅看護過程の展開⑤ アセスメント
第 8 回	地域・在宅看護過程の展開⑥ アセスメント
第 9 回	地域・在宅看護過程の展開⑦ アセスメント
第10回	地域・在宅看護過程の展開⑧ アセスメント、看護計画
第11回	地域・在宅看護過程の展開⑨ 看護計画の立案
第12回	地域・在宅看護過程の展開⑩ 看護計画の立案
第13回	地域・在宅看護過程の展開⑩ 看護計画の実践
第14回	地域・在宅看護過程の展開⑪ 看護計画の実践の評価・今後の計画
第15回	地域・在宅看護過程の展開⑫ まとめ

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第13,14回
グループワーク…第13,14回
プレゼンテーション…第13,14回

成績評価方法	定期試験(レポート)70% 定期試験(筆記)30%					
教科書	『在宅療養を支える技術 第2版』臺 有桂(メディカ出版)、『地域療養を支えるケア 第7版』臺 有桂(メディカ出版)					
参考文献	『強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程 第2版』河野 あゆみ(医学書院)、『療養者が望む暮らしを支える 地域・在宅看護過程』尾崎章子、蒔田寛子(医歯薬出版)					
事前学習(内容・時間)	該当部分のテキスト(配布資料等)を通読し予習を行う(1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業時間に指示された課題の実施および該当部分のテキスト(配布資料等)の復習を行う(2時間)					
フィードバックの方法	質問および課題については授業内で説明および解説する					
備考	授業開始時に講義受講に際しての注意事項を説明します					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	△	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学概論	成人看護学分野教員	講義	2 年次 前期	必修	1	15	KSP21104

科目の概要

成人が成長発達する上での特徴、発達課題、生活の特徴を講義するとともに、健康障害による生活への影響を教授する。また、生活習慣、職業、生活ストレスなどに関連する健康障害および更年期にみられる健康障害と健康の保持増進・健康障害の予防のための方法についても講義する。

到達目標

- 成人期の特徴を身体的変化と心理的・社会的諸相との関連による統一体として説明できる。
- 成長発達過程と健康及び健康課題について理解し、ライフスタイルや生活ストレスと関連させて説明できる。
- セルフケアによる生活の再構築や quality of life(QOL)を維持する看護について説明できる。
- 成人を取り巻く社会や保健医療環境の変化・福祉の動向を考慮し、看護の役割について説明できる。
- 健康レベルに応じた看護の方法に関する概念や理論について理解し、アプローチについて説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	成人期にある人の理解
第 2 回	成人をとりまく今日の状況①
第 3 回	成人をとりまく今日の状況②
第 4 回	成人期にある人の健康①
第 5 回	成人期にある人の健康②
第 6 回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方①
第 7 回	成人期にある人を看護するための基本的な考え方②
第 8 回	健康状態に応じた看護

アクティブ・ラーニング

グループワーク・ディスカッション…第 1～8 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 成果物 20%					
教科書	『成人看護学 成人看護学概論(改訂第 4 版)』林 直子(南江堂)					
参考文献	『成人看護学[1] 成人看護学総論 第 16 版』小松 浩子(医学書院)、『成人看護学概論 第 5 版』安酸 史子(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	教員が課題を提示する(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	教員が課題を提示する(2 時間)					
フィードバックの方法	授業中および Teams 等を用いて、適宜フィードバックする					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学援助論Ⅰ	成人看護学分野教員	講義・演習	2 年次 後期	必修	2	60	KSP21204

科目の概要

急性期・回復期にある成人の特徴および健康問題を理解し、危機的状況乗り越え生活を再構築する援助に必要な基礎的知識と方法について教授する。周手術期にある成人の特徴および健康問題を理解し、術前・術中・術後から社会復帰に向けた看護の基礎的知識と方法について事例を用いて講義・演習を行う。

到達目標

- 急性期から回復期における成人期の患者の身体・心理・社会的な特徴を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の特徴を踏まえて心身の状態を説明できる。
- 急性疾患および周手術期患者の回復にむけた援助の方法について説明できる。
- 急性期から回復期において必要とされる看護の役割や技術を説明できる。
- クリティカルケアの概要と実際について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	急性期における看護の特徴
第 2 回	急性の状態にある患者の身体的・心理的反応/急性の状態にある患者と家族の看護、周手術期看護概要
第 3 回	周手術期看護:手術前期
第 4 回	周手術期看護:手術期(内視鏡治療・鏡視下手術含む)
第 5 回	周手術期看護:手術後期① 意識レベル、呼吸状態、循環動態、疼痛のアセスメントと看護
第 6 回	周手術期看護:手術後期② 術後感染、栄養状態、消化管機能、術後精神状態のアセスメントと看護(ドレーン管理、早期離床、退院に向けた支援を含む)
第 7 回	脳神経機能障害のある患者の看護① (脳腫瘍、クモ膜下出血の手術と看護)
第 8 回	脳神経機能障害のある患者の看護② (開頭腫瘍摘出術を受ける患者の事例展開)
第 9 回	呼吸機能障害のある患者の看護① (肺がん、気胸、喉頭がんの手術と看護)
第 10 回	呼吸機能障害のある患者の看護② (胸腔鏡下肺葉切除術を受ける患者の事例展開)
第 11 回	循環機能障害のある患者の看護① (虚血性心疾患、弁膜症、血管の疾患の手術と看護)
第 12 回	循環機能障害のある患者の看護② (冠動脈バイパス術を受ける患者の事例展開)
第 13 回	小テスト(1 回～12 回)
第 14 回	消化機能障害のある患者の看護① (食道がん、胃がん、肝臓がん、胆石の手術と看護)
第 15 回	消化機能障害のある患者の看護② (胃切除術を受ける患者の事例展開)
第 16 回	消化機能障害のある患者の看護③ (肝切除術を受ける患者の事例展開)
第 17 回	消化機能障害のある患者の看護④ (食道切除術、腹腔鏡下胆嚢摘出術を受ける患者の事例展開)
第 18 回	消化機能障害のある患者の看護⑤ (腸切除術を受ける患者の事例展開)
第 19 回	運動機能障害のある患者の看護① (大腿骨頸部骨折/転子部骨折、変形性膝関節症の手術と看護)
第 20 回	運動機能障害のある患者の看護② (人工股関節全置換術を受ける患者の事例展開)
第 21 回	排泄機能障害のある患者の看護① (大腸がん、膀胱がんの手術と看護)
第 22 回	排泄機能障害のある患者の看護② (低位前方切除と回腸人工肛門増設術を受ける患者の事例展開)
第 23 回	一次救命処置(BLS)演習
第 24 回	二次救命処置(ACLS)
第 25 回	生殖機能障害のある患者の看護(乳房部分切除術、子宮摘出術を受ける患者の看護)
第 26 回	移植術(肝移植・腎移植・骨髄移植)を必要とする患者の看護
第 27 回	クリティカルケア① (クリティカルケアとは)
第 28 回	クリティカルケア② (クリティカルケアの実際)
第 29 回	周手術期におけるフィジカルイグザミネーション
第 30 回	成人看護学援助論Ⅰ まとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第9～30 回

成績評価方法	定期試験(筆記)40% 小テスト40% 成果物 14% 成果物 6%(演習(実技))					
教科書	『成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護(改訂第4版)』林直子(南江堂)、『周手術期看護 第4版』中島 恵美子(メディカ出版)					
参考文献	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版』坂井 建雄(医学書院)、『臨床外科看護総論 第12版』池上 徹(医学書院)、『成人看護学 急性期看護Ⅱ クリティカルケア』佐藤まゆみ(南江堂)					
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ、病態治療学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲについて復習する(1時間)					
事後学習(内容・時間)	課題について学習をし、提出する(1時間)					
フィードバックの方法	授業中あるいは Teams などを用いて適宜フィードバックする					
備考	演習を行うため、実習室では白衣を着用してください					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学援助論Ⅱ	成人看護学分野教員	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21205

科目の概要

少子高齢化の進展、医療技術の進歩、医療提供の場の多様化等により医療を取り巻く環境は変化している。また、慢性疾患を有する人は増加傾向にあり、個人の価値観が多様化し、医療従事者間においても、慢性疾患を有する人とその家族の意思を尊重し、QOL を重視した看護の提供が重要視され、慢性状態に関わる健康問題は、複雑さを増している。そこで、生涯にわたり、疾病コントロールを必要とする慢性疾患の特徴および慢性疾患を有する人とその家族の特徴や疾病とともに生活する対象のセルフマネジメントを支援する援助方法について教授する。また、緩和ケアを必要とする患者およびその家族への援助方法について教授する。

到達目標

- 慢性疾患を有する人とその家族の特徴について説明できる
- 慢性疾患を有する人のセルフマネジメントを支援する援助方法について説明できる
- 慢性疾患を有する人の看護に必要なアセスメントの視点と看護援助について説明できる
- 終末期および緩和に関わる概念、基本的な援助の考え方について説明できる
- 終末期にある患者や家族が抱える問題や苦痛について理解を深め、支援の必要性について説明できる

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	慢性疾患を有する人とその家族と援助支援の基本
第 2 回	呼吸器系の障害を有する人とその家族に対する看護①
第 3 回	呼吸器系の障害を有する人とその家族に対する看護②
第 4 回	循環器系の障害を有する人とその家族への援助①
第 5 回	循環器系の障害を有する人とその家族への援助②
第 6 回	消化器系の障害を有する人とその家族への援助①
第 7 回	消化器系の障害を有する人とその家族への援助②
第 8 回	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族への援助
第 9 回	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への援助
第10回	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助①
第11回	血液・免疫系の障害を有する人とその家族への援助②
第12回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への援助
第13回	感覚器系の障害を有する人とその家族への援助
第14回	がん患者とその家族への看護
第15回	終末期にある人と緩和ケアと必要とする人とその家族に対する看護

アクティブ・ラーニング

毎回の授業の目標を達成するため、グループワーク ディスカッション・ディベートなどを行う場合、授業終了後に、事後課題に取り組んでもらうことがあります。

成績評価方法	定期試験(筆記)85% 成果物 15%(授業中で作成したレポートや事後課題など)					
教科書	『成人看護学 慢性期看護(改訂第4版)』鈴木久美(南江堂)、『緩和ケア 第3版』恒藤 暁(医学書院)					
参考文献	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第11版』坂井 建雄(医学書院)、『疾病のなりたちと回復の促進[2] 病態生理学 第2版』田中 越郎(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	人体構造機能論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、病態治療学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで授業テーマと関連するところを予習しておくこと(1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業内容について復習し、課題について学習をすること(1時間)					
フィードバックの方法	提出した課題のコメントは、返却後に読んで確認しておくこと					
備考	事前学習や事後学習に取り組むなど、主体的な参加を望みます					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人看護学援助論Ⅲ	成人看護学分野教員	講義・演習	3 年次 前期	必修	2	60	KSP31202

科目の概要

手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人への看護援助に必要な知識・看護技術が習得できるように教授する。事例を通して急性期および慢性期の患者を身体的・精神的・社会的側面から総合的にとらえ、様々な知識や情報を用いてアセスメントを行うことで看護上の問題を抽出し、患者が必要としている看護の明確化および援助ができるように教授する。

到達目標

- 手術を受ける患者および急性および慢性疾患をもつ成人に必要な看護援助について、演習を通して修得できる。
- 急性期または慢性期の患者の看護上の問題を、看護理論を用いてアセスメントし、優先順位を考えて説明できる。
- 看護上の問題から患者の目標を考え、目標を達成するために必要な看護援助を立案および評価できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	成人期における看護過程①(看護過程と看護診断)
第 2 回	成人期における看護過程②(看護過程と看護診断)
第 3 回	成人期における看護過程③(アセスメントの視点)
第 4 回	成人期における看護過程④(アセスメントの視点)
第 5 回	成人期における看護過程⑤(アセスメントの実際)
第 6 回	成人期における看護過程⑥(アセスメントの実際)
第 7 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:授業ガイダンス、事例紹介
第 8 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:フェイスシートの作成、情報収集
第 9 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 10 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 11 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 12 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:全体像の描写(関連図、全体像の記述)
第 13 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:看護診断と優先順位の決定
第 14 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:長期目標と短期目標、看護計画の立案
第 15 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:実践と評価
第 16 回	慢性期にある患者の看護過程の展開:セルフケア確立のための支援、サマリー作成、まとめ
第 17 回	急性期にある患者の看護過程の展開:授業ガイダンス、事例紹介
第 18 回	急性期にある患者の看護過程の展開:フェイスシートの作成、情報収集
第 19 回	急性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 20 回	急性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 21 回	急性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 22 回	急性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 23 回	急性期にある患者の看護過程の展開:分析的なアセスメント
第 24 回	急性期にある患者の看護過程の展開:全体像の描写(関連図、全体像の記述)
第 25 回	急性期にある患者の看護過程の展開:看護診断と優先順位の決定
第 26 回	急性期にある患者の看護過程の展開:長期目標と短期目標、看護計画の立案
第 27 回	急性期にある患者の看護過程の展開:術後 3 日目以降の患者の情報収集、SOAP 記録の作成
第 28 回	急性期にある患者の看護過程の展開:実践と評価
第 29 回	急性期にある患者の看護過程の展開:実践と評価、サマリー作成
第 30 回	まとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第3～30 回

成績評価方法	成果物 50%(慢性期にある患者の看護過程記録用紙) 成果物 50%(急性期にある患者の看護過程記録用紙)					
教科書	『NANDA-I 看護診断 定義と分類』(医学書院)					
参考文献	『ヘルスアセスメント(Web 動画付)改訂第 2 版 臨床実践能力を高める』三上 れつ 編集(南江堂)、『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 第 6 版』江川 隆子 編集(ヌーヴェルヒロカワ)、『病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第 5 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.7 脳・神経 第 2 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.1 消化器 第 6 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『病気がみえる vol.4 呼吸器 第 3 版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『黒田裕子の しっかり身につく看護過程』(照林社)					
事前学習(内容・時間)	既習の成人看護学の授業内容を復習し、資料を整理してから授業に臨んでください(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	提示された課題に取り組み、指定期日までに提出してください 授業で理解できなかった内容については自己学習をしてください(2 時間)					
フィードバックの方法	成果物に対して、適宜フィードバックする					
備考	この授業では後期からの実習を想定しているため演習を中心に行います					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学概論	西村 めぐみ	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSP21105

科目の概要

高齢者を文化、家族、身体、心理、社会というさまざまな側面から捉え、高齢者の健康と生活を支える基盤となる知識や看護援助のあり方、老年看護の担うべき役割、「老いを生きる」を支えることとはどういうことなのかについて講義する。

到達目標

- 老年期にある人々の身体的・精神心理的・社会的機能の変化(老性変化)を説明できる。
- 加齢(老化)に関するさまざまな理論の概要を説明できる。
- 「老いを生きる」を支えるとはどのようなことか自分の考えを説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション、老年看護学を理解するための基盤 老年期の理解 老性変化
第 2 回	老年看護学を理解するための基盤 高齢者をとりまく社会制度①
第 3 回	高齢者をとりまく社会制度② 高齢者の権利擁護
第 4 回	老年期に活用できる理論・アプローチ
第 5 回	高齢者の健康生活の支援
第 6 回	高齢者の療養生活の支援
第 7 回	認知症の高齢者の支援
第 8 回	認知症の高齢者の支援 認知症と社会制度
第 9 回	認知症の高齢者の支援 家族介護者への支援
第10回	高齢者の尊厳を支える看護と看取り、家族への支援
第11回	生かし生かされる地域づくり
第12回	高齢者について理解を深める これまで学習したことについてグループワークを通して学びを深める
第13回	グループワークの内容を発表しあい、学びを共有する① プレゼンテーション
第14回	グループワークの内容を発表しあい、学びを共有する② プレゼンテーション
第15回	全体のまとめ、まとめの小テスト

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1～11,13,14 回
グループワーク…第12 回

成績評価方法	定期試験(筆記)80% 小テスト20%					
教科書	『老年看護学概論(改訂第4版)』正木治恵(南江堂)					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	事前に指示された課題に取り組む(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内容を振り復習および追加学習をするとともに、資料をファイリングする(2時間)					
フィードバックの方法	小テストについては、講義内で解説を行います					
備考	常に「自分の考え」を大切にしながら学び合ひましょう					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学援助論Ⅰ	西村 めぐみ 松山 美恵子/岡本 杏華	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21206

科目の概要

高齢者の看護実践に必要な基本的な技術について、高齢者のヘルスアセスメントを実施する上で踏まえるべき特徴・高齢者総合機能評価、高齢者の生活場面に対する看護実践と評価の方法、老年症候群の各症状が生活に及ぼす影響と看護、高齢者に特徴的な疾患を抱える看護の実際の視点から講義する。

到達目標

- 老年看護におけるヘルスアセスメントの意義やその実際について説明できる。
- 各生活場面における高齢者の加齢変化をふまえた高齢者に対するフィジカルアセスメントと看護実践について説明できる。
- 老年症候群の各症状の病態・生活に及ぼす影響が説明でき、必要とされる看護について自分の言葉で述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション、老年看護の特徴と目標、老年看護の基本技術—ヘルスアセスメント
第 2 回	高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術①(呼吸・循環)
第 3 回	高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術②(食事・排泄)
第 4 回	高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術③(動作と移動・睡眠)
第 5 回	高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術④(体温・清潔・コミュニケーション・性)
第 6 回	高齢者に特徴的な症状と看護—老年症候群①(起立・歩行障害、感覚機能障害)
第 7 回	高齢者に特徴的な症状と看護—老年症候群②(摂食・嚥下機能障害)
第 8 回	高齢者に特徴的な症状と看護—老年症候群③(脱水、低栄養、皮膚瘙痒感)
第 9 回	高齢者に特徴的な症状と看護—老年症候群④(褥瘡、せん妄、感染症)
第10回	高齢者によくみられる疾患と看護①(慢性心不全・脳血管疾患)
第11回	高齢者によくみられる疾患と看護②(慢性閉塞性肺疾患・パーキンソン病)
第12回	高齢者によくみられる疾患と看護③(認知症・変形性膝関節症)
第13回	演習「高齢者疑似体験」高齢者を疑似体験して学びを深めよう
第14回	演習「高齢者疑似体験」とろみ茶の試飲をして高齢者の嚥下機能について学びを深めよう
第15回	まとめ、まとめの小テスト、解説

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1～15回

成績評価方法	定期試験(筆記)60% 小テスト40%					
教科書	『老年看護学技術(改訂第4版)』真田弘美(南江堂)					
参考文献	適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	事前に指示された課題に取り組む、または次回の講義内容を事前に学習する(1～2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習をするとともに、資料をファイリングする(1～2時間)					
フィードバックの方法	まとめの小テストについては、講義内で解説する					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
老年看護学援助論Ⅱ	桧山 美恵子 西村 めぐみ/岡本 杏華	講義・演習	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

慢性疾患や加齢による身体機能の低下を抱える高齢者を対象とする老年看護では、疾患や障害をもちながらもその人らしく生活を営むことができるよう支援する。したがって、この授業では疾患や健康障害を有している生活者として幅広く高齢者を捉え、生活機能の観点からアセスメントし、必要とされる看護を抽出し実践・評価する一連の看護過程の展開の仕方を講義する。

到達目標

- 高齢者を身体的、心的・霊的、社会・文化的視点を包括し、全人的な存在として捉え、総合的に理解する方法について説明できる。
- 高齢者に必要な情報を収集、解釈・分析し看護計画を立てて実践・評価する一連のプロセス(看護過程)の方法について説明できる。
- 高齢者の望む生活や状態像を見据えた看護を展開する能力・実践力を修得する。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション 老年看護の展開における考え方
第 2 回	高齢者に特徴的な疾患と看護
第 3 回	高齢者の看護過程の展開① 情報収集・アセスメント
第 4 回	高齢者の看護過程の展開② 情報収集・アセスメント
第 5 回	高齢者の看護過程の展開③ 情報収集・アセスメント
第 6 回	高齢者の看護過程の展開④ 関連図・看護の焦点抽出
第 7 回	高齢者の看護過程の展開⑤ 関連図・看護の焦点抽出
第 8 回	高齢者の看護過程の展開⑥ 看護目標の設定・看護計画立案
第 9 回	高齢者の看護過程の展開⑦ 看護目標の設定・看護計画立案
第10回	高齢者の看護過程の展開⑧ 看護計画発表
第11回	高齢者の看護過程の展開⑨ 看護実践(アクティビティケア計画・準備)
第12回	高齢者の看護過程の展開⑩ 看護実践(アクティビティケア計画・準備)
第13回	高齢者の看護過程の展開⑪ 看護実践(アクティビティケア発表)
第14回	高齢者の看護過程の展開⑫ 看護実践(アクティビティケア発表)
第15回	高齢者の看護過程の展開⑬ まとめ的小テストと解説

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1～10 回
グループワーク…第 11～12 回
プレゼンテーション…第 10、13～14 回

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 30% 小テスト 20%					
教科書	『生活機能からみた 老年看護過程 第4版』山田 律子(医学書院)					
参考文献	『老年看護学概論(改訂第4版)』正木治恵(南江堂)、『老年看護学技術(改訂第4版)』真田弘美(南江堂)適宜紹介する					
事前学習(内容・時間)	事前に指示された課題に取り組む、また次回の課題内容を事前に学習する(1～2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義内の課題に取り組む、講義内容を振り返り追加学習するとともに、資料をファイリングする(1～2 時間)					
フィードバックの方法	課題、小テストについては、講義内で講評、解説する					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	—	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学概論	東尾 公子	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSP21106

科目の概要

小児看護の基本理念を理解し、小児各期にある対象の成長・発達の特徴ならびに健康問題に対する看護の基本を教授する。また、小児保健の動向や子どもを取り巻く現状と課題に対する理解を深め、今後の小児看護を創造できるよう教授する。

到達目標

- 小児看護の理念について説明できる。
- 子どもの権利について理解し、権利を擁護する小児看護について説明できる。
- 子どもの健康問題や子どもを取り巻く社会・医療を理解し、小児看護の課題について説明できる。
- 小児看護で用いられる理論を理解し、事例に活用できる。
- 小児各期における成長・発達を支援する看護について説明できる。
- 小児看護の専門性について考え、述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	1. 小児看護の理念 1)こども観、小児とは 2)小児看護の歴史 3)小児看護
第 2 回	2. 子どもの権利と小児看護における倫理
第 3 回	3. 子どもを取り巻く現状と課題 1)法律と施策 2)母子保健・小児保健
第 4 回	3. 子どもを取り巻く現状と課題 3)子どもを取り巻く社会環境、子育て環境
第 5 回	4. 小児看護で用いられる理論 1)理論の理解
第 6 回	4. 小児看護で用いられる理論 2)理論を活用した対象理解
第 7 回	5. 子どもの成長・発達と看護 1)成長・発達の原則 2)乳児期の子どもの成長・発達と看護①
第 8 回	5. 子どもの成長・発達と看護 2)乳児期の子どもの成長・発達と看護②
第 9 回	5. 子どもの成長・発達と看護 3)幼児期の子どもの成長・発達と看護①
第10回	5. 子どもの成長・発達と看護 3)幼児期の子どもの成長・発達と看護②
第11回	5. 子どもの成長・発達と看護 3)幼児期の子どもの成長・発達と看護③
第12回	5. 子どもの成長・発達と看護 4)学童期の子どもの成長・発達と看護
第13回	5. 子どもの成長・発達と看護 5)思春期の子どもの成長・発達と看護 6. 発育の評価
第14回	7. 小児看護の専門性
第15回	7. 小児看護の専門性 まとめ

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート 第 2 回、第 14 回
グループワーク 第3～6回
プレゼンテーション 第4回、第 15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	『小児の発達と看護 第 7 版』中野 綾美(メディカ出版)、『小児の疾患と看護 第 3 版』中村 友彦(メディカ出版)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	配布資料に目を通し、わからない用語を調べる。(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業後のノート整理(2 時間)					
フィードバックの方法	授業中の質問に回答する。					
備考	課題は成果物として評価する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学援助論Ⅰ	東尾 公子 石本 晶子	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21207

科目の概要

疾病と入院による子どもと家族への影響を理解するための基盤となる理論を教授し、小児期に特有の健康障害を健康レベルの経過や様々な状況下で捉え、子どもと家族に対する必要な看護の内容や方法について教授する。

到達目標

- 病気や入院による子どもと家族への影響を基盤となる理論をもとに説明できる。
- 急性期にある症状をアセスメントし、症状別に子どもと家族への看護を説明できる。
- 慢性期にある子どもと家族の特徴を理解し、エンパワメントを支援する看護を説明できる。
- 周手術期にある子どもと家族の特徴を理解し、術前術後の看護の基本を説明できる。
- 終末期にある子どもと家族の特徴を理解し、緩和ケアについて説明できる。
- 特殊な状況にある子どもと家族の特徴と看護について説明できる。
- 在宅における子どもと家族の特徴や現状を理解し、在宅看護の実践について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	1. 健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護
第 2 回	2. 急性期にある子どもと家族への看護 1) 急性期にある子どもと家族への看護の基本 2) 急性期の症状－発熱－のアセスメントと看護
第 3 回	2. 急性期にある子どもと家族への看護 3) 急性期の症状－脱水、呼吸困難、痙攣、嘔吐、熱傷－のアセスメントと看護 4) 救命処置
第 4 回	3. 慢性期にある子どもと家族への看護 1) 慢性期にある子どもと家族への看護の基本 2) I 型糖尿病の子どもの看護
第 5 回	3. 慢性期にある子どもと家族への看護 3) ネフローゼ症候群の子どもの看護
第 6 回	4. 終末期にある子どもと家族への看護 1) 終末期にある子どもと家族への看護の基本 2) 脳腫瘍の子どもの看護
第 7 回	4. 終末期にある子どもと家族への看護 3) 白血病の子どもの看護
第 8 回	5. 周手術期にある子どもと家族への看護 1) 手術を受ける子どもの術前・術中・術後の看護
第 9 回	5. 周手術期にある子どもと家族への看護 2) アデノイド増殖症で手術を受ける子どもの看護 3) 膀胱尿管逆流症で手術を受ける子どもの看護
第10回	6. 検査や処置を受ける子どもと家族への看護
第11回	7. 外来における子どもと家族への看護
第12回	8. 集中治療を受けている子どもと家族への看護 1) ファロー四徴症の子どもの看護 2) ハイリスク新生児の看護
第13回	9. 被虐待児と家族への看護
第14回	10. 在宅における子どもと家族への看護
第15回	11. 障がいのある子どもと家族への看護 1) 先天的な健康障害 2) 心身障害 3) 重症心身障害児 4) 18トリソミー

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 2,9 回／グループワーク…第 4～7,11 回

成績評価方法	定期試験(筆記)100%					
教科書	『小児の疾患と看護 第3版』中村 友彦(メディカ出版)、『小児の発達と看護 第7版』中野 綾美(メディカ出版)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	配布資料に目を通し、わからない用語を調べる。(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	わからない内容を調べノートを整理する。(2 時間)					
フィードバックの方法	授業中の質問に回答する。					
備考	ディスカッション、グループワークには授業内容をもとに積極的に参加する。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学援助論Ⅱ	東尾 公子 石本 晶子	講義・演習	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31203

科目の概要

小児とその家族への看護に必要な知識、アセスメント、看護技術の習得をめざす。看護過程演習を通して、事例にある小児とその家族の身体面、生活面、心理社会面を統合的に捉え、必要な看護を導き出すための方法を教授する。看護技術演習を通して、小児の特徴をふまえた基本技術を教授する。

到達目標

- 小児看護過程の特徴を説明できる。
- 急性期にある子どもと家族の身体面、生活面、心理社会面をアセスメント、看護問題の明確化、看護計画を立案し、記述できる。
- 急性期にある子どもに必要な看護技術の目的、方法を説明することができ、看護技術を実施することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	1. 小児看護過程の特徴
第 2 回	2. 看護過程演習 1) 事例紹介 気管支喘息の子ども
第 3 回	2. 看護過程演習 2) 子どもの機能的健康パターンの特徴(ゴードンの 11 機能的健康パターン)
第 4 回	2. 看護過程演習 3) 事例の情報収集と整理
第 5 回	2. 看護過程演習 4) 機能的健康パターンによる小児のアセスメントの視点
第 6 回	2. 看護過程演習 5) 機能的健康パターンにそった情報の解釈・分析
第 7 回	2. 看護過程演習 6) 看護問題の明確化、優先度の決定
第 8 回	2. 看護過程演習 7) 事例の全体像 統合関連図(病態・全体)作成
第 9 回	2. 看護過程演習 8) 目標設定と看護計画立案
第10回	2. 看護過程演習 8) 目標設定と看護計画立案
第11回	3. 看護技術演習1) 幼児のバイタルサイン測定
第12回	3. 看護技術演習 2) 吸入 3) 吸引
第13回	3. 看護技術演習 4) 輸液管理
第14回	3. 看護技術演習 5) プレパレーション作成
第15回	3. 看護技術演習 6) プレパレーション実施 まとめ

アクティブ・ラーニング

グループワーク 第 9～14 回
ディスカッション・ディベート 第 15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	『小児の発達と看護 第 7 版』中野 綾美(メディカ出版)、『小児の疾患と看護 第 3 版』中村 友彦(メディカ出版)、『小児看護技術 第 5 版』中野 綾美(メディカ出版)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	看護過程用紙の記述(1 時間) 看護技術演習前は手順書の作成行う。(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	技術練習(1 時間) 看護過程用紙の修正(1 時間)					
フィードバックの方法	看護過程の内容については授業内で解説を行う。					
備考	小児看護学実習には、事例に対する看護過程の知識が不可欠であるため自身で主体的に取り組む。また、看護を試行錯誤する上で正解はないので、自分で問いを発しながら思考を深める思考方法を獲得していく。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学概論	母性看護学分野教員	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSP21107

科目の概要

母性看護学は女性の一生を通しての健康維持、増進、疾病の予防に関わる領域である。母性看護の特徴および基盤となる概念、我が国における母子保健の歴史の変遷や母子保健の今日的課題について講義する。また、女性のライフサイクル各期(思春期、成熟期、更年期、老年期)の発達課題や健康上の課題と支援方法、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、リプロダクティブヘルスケアについて教授する。

到達目標

- 母性看護の変遷・母性看護の特徴および対象について説明できる。
- 女性のライフステージ各期における特徴や健康問題、それらに対する援助について説明できる。
- 母子保健統計や母子保健行政・施策の現状と問題を踏まえ、自分自身の考えを述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	導入、母性看護の基盤となる概念(1)母性の定義・特性
第 2 回	母性看護の基盤となる概念(2)セクシャリティー
第 3 回	母性看護の基盤となる概念(3)母性看護のあり方、母性看護における倫理
第 4 回	母性看護の対象取り巻く社会の変遷と現状(1)母性看護の変遷と動向・統計
第 5 回	母性看護の対象取り巻く社会の変遷と現状(2)母性関連施策・システム
第 6 回	母性看護の対象理解
第 7 回	母性看護に必要な看護技術 セルフケア・エンパワメント・ヘルスプロモーション
第 8 回	女性のライフステージ各期における看護(1)性周期・小テスト
第 9 回	女性のライフステージ各期における看護(2)思春期・小テスト解説
第10回	女性のライフステージ各期における看護(3)成熟期
第11回	女性のライフステージ各期における看護(4)更年期・老年期
第12回	リプロダクティブ・ヘルスケア(1)リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、性感染症とその予防
第13回	リプロダクティブ・ヘルスケア(2)人工妊娠中絶と看護
第14回	リプロダクティブ・ヘルスケア(3)家族計画と受胎調整法の実践
第15回	リプロダクティブ・ヘルスケア(4)DV・虐待、性暴力を受けた女性に対する看護

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 2,4,5,12 回
グループワーク…第 2,4,5,12 回
プレゼンテーション…第 2,4,5,12 回

成績評価方法	定期試験(筆記)75% 小テスト15% 成果物10%					
教科書	『母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版』森 恵美(医学書院)					
参考文献	適宜プリントを配布する					
事前学習(内容・時間)	毎回の授業計画を確認し、テキストおよび参考文献を読んでおく(2時間)					
事後学習(内容・時間)	講義の復習を行うこと(2時間)					
フィードバックの方法	小テストについては、授業内で解説を行います					
備考	最近の母性を取り巻く現状を情報収集して毎回講義に望んで、話し合えるようにしてください。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学援助論Ⅰ	母性看護学分野教員	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	30	KSP21208

科目の概要

妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期の生理的变化とその変化にあわせた母子を中心とした支援について教授する。また、周産期領域(妊産褥婦および新生児)の疾病を中心に病態・診断・治療について系統的に教授するとともに、女性のライフサイクル全般にわたる性と生殖に関する健康問題およびマタニティサイクル期に生じやすい疾病や生殖医療を受ける女性の支援について講義する。

到達目標

- 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象の生理的、心理・社会的特徴について説明できる。
- 正常経過にある妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメントとウェルネスに主眼をおいた援助について説明できる。
- 妊婦・産婦・褥婦・新生児の正常経過から逸脱した状態と援助について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	妊婦の生理的变化と 心理・社会的特徴
第 2 回	胎児の発育状態、胎児付属物の発達と機能
第 3 回	妊婦のアセスメントと援助
第 4 回	正常分娩の経過、産婦と家族の心理
第 5 回	分娩経過のアセスメントと分娩各期の援助①
第 6 回	分娩経過のアセスメントと分娩各期の援助②
第 7 回	新生児の特徴、出生直後の適応生理とアセスメント
第 8 回	新生児の適応生理とアセスメント
第 9 回	新生児の生理をふまえた援助、退院時の援助
第10回	退行性変化のアセスメントと援助①
第11回	退行性変化のアセスメントと援助②
第12回	進行性変化のアセスメント
第13回	母乳育児確立への援助
第14回	褥婦の心理・社会的特徴、育児技術習得状態や家庭・社会生活への適応のアセスメントと援助
第15回	ハイリスク妊婦・産婦・褥婦と援助、産科処置 講義のまとめ

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1,3～6,9,11,13 回
グループワーク…第 1,3～6,11,13 回
プレゼンテーション…第 6 回

成績評価方法	定期試験(筆記)70% 成果物 30%					
教科書	『母性看護学[2] 母性看護学各論 第14版』森 恵美(医学書院)、『成人看護学[9] 女性生殖器 第15版』末岡 浩(医学書院)					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	授業計画の該当部分を予習すること(1時間)					
事後学習(内容・時間)	授業始めまたは終わりに小テストを行うことがある。講義の復習を行う(1時間)					
フィードバックの方法	小テストは講義内で解説を行います					
備考	小テストおよび授業後課題は成果物として評価する					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	△	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学援助論Ⅱ	母性看護学分野教員	講義・演習	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31205

科目の概要

女性のライフサイクルの中で最もダイナミックな変化をもたらすマタニティサイクルに焦点をあて、母子とその家族に対する援助方法を教授する。妊娠・分娩・産褥・新生児期は生理的経過である一方で、心身の異常や危機など生理的な逸脱を生じやすい側面を持つ。マタニティサイクルにある対象とその家族の心身の健康状態のアセスメント、アセスメントに基づいた看護診断、看護計画と実践をウェルネス思考での看護過程として講義や演習を通して教授する。

到達目標

- 妊婦と胎児の健康状態、妊婦や家族の心理・社会的側面をアセスメントし、妊婦のセルフケア能力を高める支援を説明できる。
- 演習を通して妊婦健康診査を実施できる。
- 分娩進行中にある産婦と胎児の健康状態、産婦や家族の心理的側面をアセスメントし、演習を通して産痛緩和の援助を実施できる。
- 産褥の健康状態、産褥や家族の心理・社会的側面をアセスメントし、退行性変化を促す援助と母乳育児確立への援助を説明できる。
- 演習を通して退行性変化を促す援助と母乳育児確立への援助を実施できる。
- 新生児の子宮外生活適応状態をアセスメントし、演習を通して新生児の基本的看護を実施できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画	
第 1 回	看護過程の展開：妊娠期の事例①	
第 2 回	看護過程の展開：妊娠期の事例②	
第 3 回	看護過程の展開：分娩期の事例	
第 4 回	妊娠期のヘルスアセスメントとケア①	妊娠経過のアセスメントと妊婦健康診査技術
第 5 回	妊娠期のヘルスアセスメントとケア②	妊娠経過のアセスメントと妊婦健康診査技術
第 6 回	分娩期のヘルスアセスメントとケア	分娩期の補助動作、呼吸法に関する援助技術
第 7 回	看護過程の展開：産褥期の事例①	
第 8 回	看護過程の展開：産褥期の事例②	
第 9 回	看護過程の展開：新生児の事例①	
第10回	看護過程の展開：新生児の事例②	
第11回	産褥期のヘルスアセスメントとケア①	退行性変化と進行性変化のアセスメントと援助技術
第12回	産褥期のヘルスアセスメントとケア②	退行性変化と進行性変化のアセスメントと援助技術
第13回	新生児のヘルスアセスメントとケア①	バイタルサイン測定、全身観察
第14回	新生児のヘルスアセスメントとケア②	抱き方、更衣、おむつ交換
第15回	看護過程の展開：帝王切開の事例 母性看護援助論Ⅱのまとめ	

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 4～6,11～14 回

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 50%					
教科書	『根拠と事故防止からみた 母性看護技術 第3版』石村 由利子(医学書院)					
参考文献	『母性看護学[1] 母性看護学概論 第14版』森 恵美(医学書院)、『成人看護学[9] 女性生殖器 第15版』末岡 浩(医学書院)					
事前学習(内容・時間)	演習前は、授業計画の該当部分を予習し、手順書の作成を行う。(1時間)					
事後学習(内容・時間)	技術練習や課題に取り組む。(1時間)					
フィードバックの方法	課題に関しては、授業内で解説を行います。					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学概論	西垣 里志／木村 聡子 東野 和馬／棕本 美帆	講義	2 年次 前期	必修	2	30	KSP21108

科目の概要

精神看護学を学ぶ上で理解しておくべき、精神の健康や、精神症状と状態像を知り、精神障害の基礎的理解を図ることを目的とした講義を行う。また、心の機能と発達、人格の形成について説明する。精神障害と治療の歴史を学び、現在の精神保健医療福祉の動向の理解に繋げていきながら、精神科医療の問題を考えられるように教授していく。また、精神障害者の生きる力や生きにくさを学修することができるよう支援する。

到達目標

- 精神の健康の概念について説明できる。
- 心の機能と発達、心と身体の関係について述べることができる。
- 精神障害への治療の歴史並びに法律と精神保健福祉の動向を説明することができる。
- プロセスレコードの意味を理解し、書き方・活用方法を説明することができる。
- 当事者の話や視聴覚教材を通して障害をもって生きるものの意味や意義を考えることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	精神の健康の概念
第 2 回	心のしくみと人格形成(発達段階)
第 3 回	精神の健康とストレスマネジメント、睡眠
第 4 回	精神を病むことと生きること
第 5 回	精神症状論と状態像
第 6 回	精神障害者の治療の歴史
第 7 回	精神科領域で必要な法律と制度
第 8 回	精神障害と社会学(スティグマ)
第 9 回	当事者の体験から学ぶ
第10回	精神保健医療福祉対策と動向
第11回	地域におけるメンタルヘルス
第12回	看護師のメンタルヘルス感情労働・プロセスレコードについて
第13回	精神科において身体をケアする/リエゾン精神看護
第14回	世界の精神医療の在り方(映画「人生ここにあり」から)①
第15回	世界の精神医療の在り方(映画「人生ここにあり」から)②

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 3～4,10,14 回
グループワーク…第 9,12 回
プレゼンテーション…第 15 回

成績評価方法	定期試験(筆記)60% 成果物 40%(当事者の講義を聞いて、プロセスレコード等)					
教科書	『精神看護学[1] 精神看護の基礎 第 6 版』武井 麻子(医学書院)					
参考文献	別途案内					
事前学習(内容・時間)	次回の講義内容について事前にテキストを熟読し、ノートにまとめる(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	授業後に資料のまとめを読み返し、要点をまとめノートに記載していく(2 時間)					
フィードバックの方法	講義内容の質問に関して適宜解説を行う					
備 考	成績評価方法の成果物においてはレポート等 知的好奇心をもって、積極的に自己学習する事					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	△	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学援助論Ⅰ	木村 聡子／西垣 里志 東野 和馬／椋本 美帆	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	15	KSP21209

科目の概要

オレム・アンダーウッド理論を用いた看護過程の展開、セルフケア援助を考えることができるように教授する。主な精神疾患の基本的理解のために、病態と症状、看護について教授する。精神障がい者への看護としての技術と、精神科リハビリテーションについて教授し、具体的に技術を習得できるように説明していく。

到達目標

- オレム・アンダーウッド理論及びセルフケアへの援助について理解し、説明することができる。
- 精神疾患の代表的なものの病態と症状、看護について説明することができる。
- 各種精神療法について理解し、説明することができる。
- 精神科リハビリテーションを理解し、実際に技術を習得することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オレム・アンダーウッド理論とセルフケア援助の理解
第 2 回	気分障害の病態と症状、治療について
第 3 回	気分障害の看護について
第 4 回	統合失調症の病態と症状、治療について
第 5 回	統合失調症の看護について
第 6 回	神経症性障害と精神作用物質使用による精神および行動の障害、パーソナリティー障害の症状と看護について
第 7 回	精神療法①
第 8 回	精神療法②

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 3,5 回
グループワーク…第 7 回
プレゼンテーション…第 8 回

成績評価方法	定期試験(筆記)60% 成果物 40%					
教科書	『精神看護学[1] 精神看護の基礎 第 6 版』武井 麻子(医学書院)、『精神看護学[2] 精神看護の展開 第 6 版』武井 麻子(医学書院)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	教科書等の該当ページを読み、講義内容についてまとめる(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	学習内容および提示した課題について、講義資料や教科書等を用いてまとめる(2 時間)					
フィードバックの方法	小テストの解説と成果物に関して授業での説明					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学援助論Ⅱ	木村 聡子／西垣 里志 東野 和馬／棕本 美帆	講義・演習	2 年次 後期	必修	1	15	KSP21210

科目の概要

精神疾患患者を看護するうえで、ストレングスをいかした目標志向の看護を実践できるようストレングスモデルを教授する。また、オレム・アンダーウッド理論に基づいた問題解決技法を使った看護過程を学び精神疾患をもつ患者へのアプローチの多面的方法が理解できるように支援する。またそれらの理論を使いながら患者ケアができるように教授する。当事者の講義を聞き地域での生活のしづらさを学修し説明することができるよう支援する。

到達目標

- スtrenグスモデルの理解と、ストレングスマッピングを作成し強みを生かした看護について説明することができる。
- 地域で生活されている精神障がい者の苦悩を理解すると同時に生活の実際について説明することができる。
- オレム・アンダーウッド理論に基づく看護過程を展開することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ストレングスモデルについて
第 2 回	ストレングスモデルを用いた精神科看護
第 3 回	精神障がい者の地域生活支援の理解
第 4 回	当事者の体験から学ぶ
第 5 回	看護過程①(統合失調症・気分障害) 身体的・心理的・社会的アセスメント
第 6 回	看護過程②(統合失調症・気分障害) ストレングスを活かした看護計画立案
第 7 回	看護過程③(統合失調症・気分障害) アセスメント・計画発表準備
第 8 回	看護過程④(統合失調症・気分障害) 発表および学びの共有

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～2 回
グループワーク…第 3,6～8 回
プレゼンテーション…第 4,8 回

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『精神看護学[1] 精神看護の基礎 第 6 版』武井 麻子(医学書院)、『精神看護学[2] 精神看護の展開 第 6 版』武井 麻子(医学書院)					
参考文献	別途案内					
事前学習(内容・時間)	次回の講義内容をテキストで学習し、ノートにまとめる。看護過程の展開のために、提示された課題を必ず行い講義に臨む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	ノートのポイントを読み直して記憶する。講義の説明やグループワークでの学びを整理する(2 時間)					
フィードバックの方法	講義内容の質問に関して解説を行う					
備考	知的好奇心をもって、積極的に自己学習する事					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究Ⅰ	日高／卯川／東尾 木村／桧山／西	講義・演習	3 年次 前期	必修	1	30	KSP31206

科目の概要

看護研究の必要性とその意義および看護の研究方法について教授する。実際に看護に関連する疑問・問題の中から研究課題を抽出し、論理的・科学的思考に基づいた研究方法について教示すると共に、その理解を深めることを目指す。

到達目標

- 看護研究の意義と研究方法(量的研究/実験研究・質的研究・文献研究)を理解し、説明できる。
- 適切な論文クリティークができ、看護の現場からの臨床的課題を言語化することができる。
- 仮説を導き出しその仮説に基づき、インタビューガイドや質問項目・質問票を設計できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	イントロダクション、看護研究とは何か 論文や研究の種類とその違い、研究の実施手順と研究計画書
第 2 回	量的研究 1～量的研究を知る～
第 3 回	量的研究 2～量的研究を深める～
第 4 回	質問票設計
第 5 回	質問票による調査研究の実際
第 6 回	質的研究デザイン
第 7 回	質的研究データ収集・分析
第 8 回	研究倫理
第 9 回	文献レビュー演習 1～研究テーマに関する文献検索、文献入手～
第10回	文献レビュー演習 2～グループで文献整理～
第11回	エスノグラフィーの実際
第12回	量的研究のクリティーク
第13回	質的研究のクリティーク
第14回	クリティーク演習 1～量的研究論文のクリティーク～
第15回	クリティーク演習 2～質的研究論文のクリティーク～

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 9,10, 14,15 回

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『看護研究 第 2 版』坂下 玲子(医学書院)					
参考文献	『よくわかる 看護研究の進め方・まとめ方』横山美江他(医歯薬出版)、 『よくわかる 質的研究の進め方・まとめ方』グレッグ美鈴他(医歯薬出版)					
事前学習(内容・時間)	第 1 回および各講義前のアナウンスに基づき、必要に応じて情報収集や予習をすること(1 時間)					
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(2 時間)					
フィードバックの方法	課題提出後に、適宜全体で講評します					
備考	私語や講義に関係しないスマートフォン操作等は厳禁					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護研究Ⅱ	卯川 久美	講義・演習	4 年次 前期	必修	1	30	KSP41201

科目の概要

4 年間の学習を振り返り広い視野を持ちながら看護における関心や課題となるテーマを抽出し、文献検索・文献検討により知見を深め、研究目的達成のための実現可能な研究計画書を作成できるよう、学生自身の主体的な学習を支援する。

到達目標

- 看護に関する研究テーマを設定できる。
- 文献検索・文献検討を通して批判的思考を習得することができる。
- 研究目的達成のための研究計画書を作成することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回 ～ 第 15 回	ゼミナール形式にて行い、「研究計画書」を作成し提出する。

アクティブ・ラーニング

第 2 回～15 回において、ディスカッション・ディベートを行う

成績評価方法	成果物 100%					
教科書	『看護研究 第 2 版』坂下 玲子(医学書院)					
参考文献	適宜紹介します					
事前学習(内容・時間)	講義「看護研究Ⅰ」を復習してください(1 時間)。					
事後学習(内容・時間)	看護研究計画書が実践可能な「研究計画書」であるのかを再考して、加筆修正を行ってください(1 時間)。					
フィードバックの方法	「研究計画書」の作成に関する質問や疑問に対する学習支援は随時行います。					
備 考	本科目は 4 年間の看護の学びの総仕上げとなる授業科目です。「看護研究Ⅱ 手引き」をよく読み、指定の書式に従い研究計画書を作成してください。 成績評価の資格は、ゼミナールの授業回数の 3 分の 2 以上出席した者についてのみ得ることができます。 ゼミナールでの積極的なディスカッションと、日々の主体的な自己研鑽により、各自がより深く看護を探究していくことを期待します。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケー ション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	△	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
国際看護活動論	磯邊 厚子	講義	4 年次 後期	選択	1	15	KSP42101

科目の概要

国境を超えた健康問題や環境問題、身近な在留・在日外国人への対応について、多様な人々の生活や文化、健康状態を理解し、グローバルヘルスの観点から看護の役割について講義する。”Think Globally, Act Locally”(世界規模で考え、足元から行動せよ、抽象的な思考を具現化し、世界の現実を踏まえて地域づくりへ参画せよ)の視角をもって講義する。

到達目標

- 世界規模の人々の健康問題を知り、多様な文化や生活を踏まえた国際看護の必要性を説明できる。
- 国内外における人々の健康課題を理解し、その支援方法と看護の役割を説明できる。
- 事例を展開し、発表や意見交換から知識を発展させ、グローバルヘルスの観点から看護を説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	講義:国際看護とは:グローバルナースングとは 国際看護の概念と世界の健康問題の概要を学ぶ 世界の保健指標を視る、課題に気づき、理解する
第 2 回	講義:異文化とは 途上国の看護学生の教育現場の事例から学ぶ 事例:「途上国での看護活動」から国際看護を理解する
第 3 回	講義:女性と子どもの健康課題及び対策を学ぶ 母と子どもの栄養不良に対する取り組みを理解する
第 4 回	講義:途上国の保健事情と感染症:治療よりも疾病予防、プライマリ・ヘルスケアを学ぶ 住民参加と健康教育の取り組み一環境問題を踏まえた教育方法を理解する
第 5 回	講義:難民・災害看護活動の実際を学ぶ UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)で働く日本人女性の活動紹介の後、グループディスカッションを行い発表する
第 6 回	講義:多文化共生看護の概念と背景を学び、看護の統合を考える 在留・在日外国人患者への保健医療職者の対応:身近な看護活動を学ぶ
第 7 回	国際看護のキャリア形成:海外活動の機会と活動の実際を学ぶ JICA 海外協力隊と保健医療職者の可能性を理解する
第 8 回	演習:途上国の看護活動及び外国人患者対応に関する事例展開: グループワークで課題を共有・企画し、発表することで知識を統合、発展させる

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1,5～7 回
グループワーク…第 8 回

成績評価方法	定期試験(筆記)50% 成果物 50%(授業課題、演習企画、発表)					
教科書	教科書は不要。講義資料を配布します。					
参考文献	『国際看護学 グローバル・ナースングに向けての展開』監修 南 裕子(中山書店)、 『国連人間開発報告書 2022-2023 年版』UNDP、 『世界子供白書 2023』UNICEF					
事前学習(内容・時間)	関連資料や参考文献を読んでおく。テレビやインターネット、新聞で、最新の国際情報やグローバルヘルスの情報を学ぶ(2時間)					
事後学習(内容・時間)	課題により学習内容を振り返り、国際看護について自己の考えを深め、表現する(2時間)					
フィードバックの方法	授業ワークシートに対する応答を授業内、またはワークシートへのコメントで行います					
備考						
オフィスアワー	各授業終了後 30 分間					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
災害看護活動論	中田 徹朗	講義	4 年次 後期	選択	1	15	KSP42102

科目の概要

近年の災害を医療・看護として学び、人々の健康や生活に及ぼす影響を学び看護職として災害看護について学ぶことを目的とする。

到達目標

● 日本に多発する自然災害をはじめとするさまざまな災害と発生する問題について学び、災害看護の基礎知識を得る。そして災害発生時において看護職者として何ができるのか、日頃からどのような備えが必要なのかを述べるができる ● 災害及び災害看護に関する基礎的知識として、災害の歴史、定義を含む災害看護の全体像を説明できる ● 看護の専門知識を統合して看護師支援活動の実際や専門領域での災害看護の方法について述べるができる ● 大規模災害時における看護師の役割を説明できる

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	災害看護の歴史と定義・災害の種類 ・災害看護の歴史を知り現在の災害看護について理解する ・災害看護の定義を理解する ・災害の種類と被災の特徴を理解する
第 2 回	災害看護の歴史と定義・災害の種類 ・震災関連死とは ・避難所について 避難所の看護を理解することができる
第 3 回	災害サイクルと時相に合わせた災害医療と看護 ・災害サイクルの定義を理解する ・災害サイクルに合わせた必要な医療・看護を理解する
第 4 回	災害時の合言葉 CSCATTT 実際の活動① ・CSCATTT に基づき、災害時の動き方を理解する ・実際の災害現場を学びながら、CSCA を理解する
第 5 回	災害時の合言葉 CSCATTT 実際の活動② ・CSCATTT に基づき、災害時の動き方を理解する ・実際の災害現場を学びながら、CSCA を理解する
第 6 回	災害時の合言葉 CSCATTT 実際の活動③ ・CSCATTT に基づき、災害時の動き方を理解する ・実際の災害現場を学びながら、TTT を理解する ・トリアージ行うことで知識・方法を理解する ・トリアージタグの書き方を取得する
第 7 回	災害時の合言葉 CSCATTT 実際の活動④ ・CSCATTT に基づき、災害時の動き方を理解する ・実際の災害現場を学びながら、TTT を理解する ・災害時の診療・クラッシュ症候群の知識を理解する ・救急・災害での観察方法・診療方法を理解する
第 8 回	小テスト(筆記試験:45 分間)とまとめ

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	小テスト 80%(筆記試験:45 分間) 成果物 20%					
教科書	資料を配布					
参考文献	なし					
事前学習(内容・時間)	シラバスに沿って講義前に予習しておく(配布資料や教科書など) 近年の災害の特徴や災害復興に関する番組やニュースから情報を得ておく(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	講義時に配布した資料などをもとに、復習して理解を深める(2 時間)					
フィードバックの方法	授業ごとに対応、質問などは授業で返答					
備考						
オフィスアワー	授業の前後 15 分程度、教室で質問を受けます。また随時メールでも受けます。					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
チーム医療論	高須 久美子	講義	4 年次 後期	選択	1	15	KSP42103

科目の概要

チーム医療に必要な多職種間で、協働し連携していくために人と人が協働して物事を達成することの基本について説明しチームワークの基礎を教授する。 また、チームメンバーとの情報共有や協働、多重課題における対処などチームで行うことの重要性を教授する。 さらに、保健医療の歴史と現状を概観することを通して協働や連携がどのような過程で発展してきたかについて講義する。

到達目標

●保健医療の歴史と現状を理解し継続看護やチーム医療の必要性を説明できる ●リーダーシップ、フォロアシップを理解し、チームへの貢献を考えて行動する方法を修得する ●看護職、医療専門職としてチームで協働するためのスキルについて説明できる ●看護を継続させるためには何が必要かを説明できる ●多職種および市民と協働する方法が説明できる
--

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	社会の変化と看護職の役割／人々の生活と看護のかかわり／日本の看護職の活動の変遷
第 2 回	協働 他者とともに活動すること／チームを効果的に機能させる／リーダーシップとフォロアシップとは
第 3 回	チームの一員に求められる協働のための行動／共同とは／継続看護のための共同
第 4 回	市民・多職種との協働とは／効果的な話し合いとは
第 5 回	組織で取り組む看護活動／組織の理解／分業と協働／働く人を活かすマネジメント
第 6 回	チーム医療について考える／多職種協働とは／多重課題における対処
第 7 回	業務のマネジメント／チームリーダーへの報告・連絡・相談／チームメンバーとの情報共有と協力
第 8 回	小テストおよびその解説と国家試験でよく出るポイントの解説

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 1～5,7 回 グループワーク…第 6 回
--

成績評価方法	小テスト 80%(最終講義内で実施) 成果物 20%(毎回講義時に学びや意見、質問を記載して提出)					
教科書	『看護管理 第 5 版』吉田 千文(メディカ出版)					
参考文献	『看護師国家試験対策ブック まるカン 2025』まるカン編集委員会 編著(メディカ出版) 『これで突破! 社会保障&関係法規 2025』西田 幸典 編著他(メディカ出版) 『必修問題まんてん GET!』看護師国家試験対策研究会 編(メディカ出版)					
事前学習(内容・時間)	該当範囲の教科書を読んでおくことおよび当該範囲の国家試験問題を配布するため予習しておくこと(1 時間)。					
事後学習(内容・時間)	授業後配布した資料などを復習しておくこと。疑問に思ったことは次回までに整理し、質問する(1 時間)。					
フィードバックの方法	授業後、本日のまとめ、課題の説明などを行なう。 毎回、講義終了後時に講義内容についての意見や質問を用紙にて回収、フィードバックを行なう。 記載された用紙にはコメントを記載して返却する。					
備考	授業の中でペアワークやディスカッション、グループワークなどを通じて自己の考えを述べる時間をつくるとともに、他者からの学びを共有することで自己成長を促す。 グループワークやディスカッションには、自己の考えを持って参加する。 厚生労働省や看護協会の HP を見るとともに医療や看護に関する情報を得る習慣を付けること。					
オフィスアワー	授業の前後およびメールは随時 OK					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護の生涯教育論	卯川 久美	講義	4 年次 後期	選択	1	15	KSP42104

科目の概要

看護基礎教育、卒後教育、看護継続教育の概要を踏まえ、看護専門職としての生涯教育の必要性について修得することができるように教授する。また、自己のキャリア発達、専門職としての成長のために必要な生涯学習について考えることができるように支援する。

到達目標

- 生涯教育とは何かについて説明することができる。
- 看護職になぜ生涯教育が必要になるのかを説明することができる。
- 看護職の生涯教育のためのリソースについて説明することができる。
- 自己のキャリア発達と生涯教育の関係について説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス 生涯教育とは
第 2 回	専門職としての看護と教育:専門職とは
第 3 回	専門職としての看護と教育:看護教育
第 4 回	専門職としての看護と教育:卒後教育、看護継続教育、看護専門職団体の役割
第 5 回	生涯教育とキャリア発達:看護師のキャリアとは、看護師のキャリアの課題
第 6 回	看護師のまなびサポートブック:これからの時代に求められる看護師、まなびのプロセス
第 7 回	看護師のまなびサポートブック:ライフステージと生涯学習
第 8 回	看護生涯教育の課題と展望

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1～7 回
プレゼンテーション…第 8 回

成績評価方法	定期試験(レポート)100%					
教科書	『看護のための教育学 第 2 版』中井 俊樹(医学書院)					
参考文献	『看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う 改訂第 2 版』グレッグ美鈴 編集(南江堂)、『NURSING TEXTBOOK SERIES 看護学概論第 5 版 看護追求へのアプローチ』田中 幸子(医歯薬出版)					
事前学習(内容・時間)	テキストの該当箇所の熟読および事前課題に取り組む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	提示された課題に取り組む(2 時間)					
フィードバックの方法	講義内でフィードバックする					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統合看護演習Ⅰ	看護学部専任教員	演習	3 年次 前期	必修	1	15	KSP31301

科目の概要

各看護学分野の事例をモデルとして、4 年次生とともに、各看護学の日常生活の援助技術、診療の補助技術など、事例に応じた技術を計画・実践・評価することができるように教授する。

到達目標

- 各看護学分野にある事例の身体的・心理的・社会的な特徴が説明できる。
- 各看護学分野にある事例に必要な看護技術の目的、方法、留意点を説明することができる。
- 各看護学分野にある事例に必要な看護技術を実施することができる。
- 3・4 年次生がピアラーニング形式で実施できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス:科目展開の説明
第 2 回	各看護学分野からの学習課題提示・グループ学習
第 3 回	各看護学分野の看護①:対象の看護の実際① 事例 1-1
第 4 回	各看護学分野の看護②:対象の看護の実際② 事例 1-2
第 5 回	各看護学分野の看護③:対象の看護の実際③ 事例 2-1
第 6 回	各看護学分野の看護④:対象の看護の実際④ 事例 2-2
第 7 回	各看護学分野の看護⑤:対象の看護の実際⑤ 事例 3-1
第 8 回	各看護学分野の看護⑥:対象の看護の実際⑥ 事例 3-2

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 2～8 回
 グループワーク…第 2～8 回
 プレゼンテーション…第 3～8 回

成績評価方法	定期試験(実技)90%(各看護学分野 30%×3 分野) 成果物 10%(課題レポート)					
教科書	適時指示します。					
参考文献	ガイダンス時に提示します。					
事前学習(内容・時間)	前時の指示に基づき課題に取り組む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	毎回指示された課題に取り組む(2 時間)					
フィードバックの方法	実技試験や成果物に対してコメントを返します。					
備考	3 年次生と4年次生がピア・ラーニングの形で事前学習から演習の振り返りまでを行うこと。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
統合看護演習Ⅱ	看護学部専任教員	演習	4 年次 前期	必修	1	15	KSP41301

科目の概要

3 年次生とともに、ピアラーニングを行うことで、各看護学の日常生活の援助技術、診療の補助技術など、事例に応じた技術の計画・実践・評価に対する指導ができるように教授する。

到達目標

- 各看護学分野にある事例の身体的・心理的・社会的な特徴が説明できる。
- 各看護学分野にある事例に必要な看護技術の目的、方法、留意点を説明することができる。
- 各看護学分野にある事例に必要な看護技術を実施することができる。
- ピアラーニングの中で 3 年次生に助言できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	ガイダンス:科目展開の説明
第 2 回	各看護学分野からの学習課題提示・グループ学習
第 3 回	各看護学分野の看護①:対象の看護の実際① 事例 1-1
第 4 回	各看護学分野の看護②:対象の看護の実際② 事例 1-2
第 5 回	各看護学分野の看護③:対象の看護の実際③ 事例 2-1
第 6 回	各看護学分野の看護④:対象の看護の実際④ 事例 2-2
第 7 回	各看護学分野の看護⑤:対象の看護の実際⑤ 事例 3-1
第 8 回	各看護学分野の看護⑥:対象の看護の実際⑥ 事例 3-2

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 2～8 回
グループワーク…第 2～8 回
プレゼンテーション…第 3～8 回

成績評価方法	定期試験(実技)90%(各看護学分野 30%×3 分野) 成果物 10%(課題レポート)					
教科書	適時指示します。					
参考文献	ガイダンス時に提示します。					
事前学習(内容・時間)	前時の指示に基づき課題に取り組む(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	毎回指示された課題に取り組む(2 時間)					
フィードバックの方法	実技試験や成果物に対してコメントを返します。					
備考	3 年次生と 4 年次生がピア・ラーニングの形で事前学習から演習の振り返りまでを行うこと。					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

IV 専門分野(臨地実習科目)

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅰ	平野 加代子 基礎看護学分野教員	実習	1 年次 前期	必修	1	45	KSP11401

科目の概要

実際の医療の場に赴き看護実践場面や看護の対象者の療養生活の様子を見学することにより、看護の提供の仕組みと看護の機能や役割、看護の対象者の療養生活とニーズなど、前期に学習した理論と実際とを統合させ、理解を促す。臨床判断の基盤となる気づく力を育み、看護専門職として必要な倫理観やキャリア発達の開始時期にある学習者としての自覚と姿勢を身につけるための学びを支援する。

到達目標

- 看護の提供の仕組み、看護の機能や役割に関する Concept について自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 対象者の療養生活の様子、対象者のニーズに関する Concept について自らの気づきをもとに発展させて説明することができる。
- 看護職者としての倫理観に基づく学習姿勢と実習態度を示すことができる。
- 看護に対する興味・関心を持ち、自己の今後の課題とキャリア発達への展望を述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習(1 週間) 2025 年 8 月 25 日(月)～8 月 29 日(金) 2025 年 9 月 1 日(月)～9 月 5 日(金) 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪南医療センター、川西市立総合医療センター、済生会中津病院、 JCOH 大阪病院、多根総合病院、星ヶ丘医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2025 年度 基礎看護学実習Ⅰ 実習要項」による。 なお、上記日程とは別に 7 月末または 8 月上旬頃、プレ・オリエンテーションの日程を設ける。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	プレ・オリエンテーション時に、別紙課題を提示する(10 時間)					
事後学習(内容・時間)	実習で学んだことを論理的にまとめ、自己の課題を明確にし、今後の学習に役立てる(8 時間)					
フィードバックの方法	実習記録は適宜フィードバックし、実習の振り返りと今後の課題はデブリーフィングによりフォローする					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
基礎看護学実習Ⅱ	平野 加代子 基礎看護学分野教員	実習	2 年次 後期	必修	3	135	KSP21401

科目の概要

基礎看護学実習Ⅱでは、患者を受け持ち、学内や基礎看護学実習Ⅰで学んだ知識や技術を活用した実習を行う。具体的には、受け持ち患者に関する情報を収集し、看護問題を判別、問題を解決するために必要な看護計画を立案、実施評価するといった一連の看護の思考プロセスを踏んだ看護の展開ができるための基礎的能力を育成する。

さらに現在、医療や介護分野において AI や ICT の導入が進んでいる現状があることを踏まえて、受け持ち対象者の退院後の生活を視野に入れた看護過程の展開ができるよう教授する。加えて、それに対応するための最先端の医療や介護システム、機器の知見を深められるよう支援する。

到達目標

- 健康な人や健康上の問題を抱えている地域で生活する人々と関わり、生活する上での問題を明らかにすることができる。
- それらの問題を解決するために人的・物的資源や医療や介護システムを活用することを考えることができる。
- 対象者に対する看護上の問題を解決するための思考プロセスを展開することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 基礎看護学実習Ⅱ(3 週間) 1.2026 年 1 月 26 日(月)～1 月 30 日(金) 2.2026 年 2 月 2 日(月)～2 月 13 日(金) 2026 年 2 月 16 日(月)～2 月 27 日(金) 【実習施設】 下記 1 と 2 のいずれかを組み合わせて行う。(実習施設の法人名は省略) 1.大阪府下老健施設・地域包括支援センター、ATC エイジレスセンター等 2.大阪南医療センター、川西市立総合医療センター、多根総合病院、済生会中津病院、星ヶ丘医療センター その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2025年度 基礎看護学実習Ⅱ 実習要項」による。 上記期間とは別に、合同オリエンテーションを 12 月中旬に実施する。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	実習開始前は、既習学習の知識の振り返りと援助技術の習得。 実習中は毎日、受け持ち患者に必要な知識と技術の学習(40 時間)					
事後学習(内容・時間)	実践した看護のまとめと自己の課題を明確にする(8 時間)					
フィードバックの方法	実習記録は適宜フィードバックし、実習の振り返りと今後の課題は、デブリーフィングによりフォローする。					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域・在宅看護学実習	桶河 華代 乙黒 千鶴/内貴 千沙登	実習	3 年次 後期 4 年次 前期	必修	2	90	KSP31401

科目の概要

地域で生活している療養者とその家族、および状況に応じて生活の場で展開される看護を説明し、地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と多職種連携について教授する。

到達目標

- 地域で生活している療養者とその家族をについて説明できる。
- 生活の場で展開される看護を説明できる。
- 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と多職種連携を説明できる。
- 看護学生として、看護倫理を踏まえた態度で関わるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 地域・在宅看護学実習(2 週間)(訪問看護ステーション実習・居宅介護支援事業所実習) 3 年次後期 4 年次前期 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 1.訪問看護ステーション実習:多根訪問看護ステーション、阪和訪問看護ステーション 訪問看護ステーションそよかぜ、垂水訪問看護ステーション、つばい訪問看護ステーション 訪問看護ステーションあんさんぶる東淀川サテライトリンク、STY 訪問看護ステーション 他 2.居宅介護支援事業所実習:そよかぜ居宅介護支援事業所 他 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度後期～2026 年度前期 地域・在宅看護学実習 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	事前課題の作成を行う(10 時間)					
事後学習(内容・時間)	実習内容により随時課題に取り組む(1 日 2 時間)					
フィードバックの方法	実習中、臨地にて随時指導を行う					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人・老年看護学実習Ⅰ	成人看護学分野教員	実習	3 年次 後期 4 年次 前期	必修	3	135	KSP31402

科目の概要

急性または救急疾患あるいは手術を受ける成人期の患者に対し、治療による心身への侵襲に伴う変化と回復過程をふまえ、急性期から回復期における全人的な看護援助(回復促進のための看護、患者およびその家族の社会生活への復帰に向けた看護)が展開できるよう教授する。

到達目標

- 患者や家族を総合的に理解し、急性または救急疾患の患者あるいは手術を受ける患者が心身を整えるための援助を実施できる。
- 急性または救急疾患や手術等の侵襲に対する生体反応を踏まえ、回復促進に向けた援助を科学的根拠のもとで実施できる。
- 身体機能やボディイメージの変化を踏まえ、患者およびその家族が社会生活へ復帰するための援助を実施できる。
- 急性期から回復期における看護の役割や継続について説明できる。
- 看護実践を振り返り、自己の看護観について述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 成人・老年看護学実習Ⅰ(3週間) 3 年次後期 4 年次前期 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 尼崎総合医療センター、星ヶ丘医療センター、北野病院、大阪南医療センター、ベリタス病院、神戸マリナーズ病院、医誠会病院など その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度後期～2026 年度前期 成人・老年看護学実習Ⅰ 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義および演習内容を復習し、成人看護学実習オリエンテーションで提示する事前学習内容をしっかり学習すること。スタンダードプリコーションを含む感染予防対策について学習しておくこと(3時間)					
事後学習(内容・時間)	病態生理や疾病論中に理解できなかったことを振り返り学習すること(3時間)					
フィードバックの方法	実習記録にコメントをつけて返却する					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人・老年看護学実習Ⅱ	成人看護学分野教員	実習	3 年次 後期 4 年次 前期	必修	2	90	KSP31403

科目の概要

生活習慣病をベースとする慢性疾患患者は、療養を継続しながら生活を維持していくため“自己コントロール”を行う必要がある。生涯にわたり生活調整を必要とする成人期にある患者およびその家族に対して、セルフケア能力を高める援助および QOL の維持・向上を目指した看護を実践できるように指導する。

到達目標

- 慢性的な健康障害の状態に応じた看護が実践できる。
- 患者および家族がライフスタイルを再構成するための援助ができる。
- 患者の療養生活継続への援助を説明できる。
- 看護実践を通して、慢性期看護について述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 成人・老年看護学実習Ⅱ(2 週間) 3 年次後期 4 年次前期 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 尼崎総合医療センター、大阪刀根山医療センター、星ヶ丘医療センター、大阪暁明館病院、神戸マリナーズ厚生会病院、ベリタス病院、医誠会病院 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度後期～2026 年度前期 成人看護学実習Ⅱ 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	成人看護学概論、成人看護学援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの講義および演習内容を復習し、成人看護学実習オリエンテーションで提示する事前学習内容をしっかり学習すること。スタンダードプリコーションを含む感染予防対策について学習しておくこと(3 時間)					
事後学習(内容・時間)	病態生理や疾病論中に理解できなかったことを振り返り学習すること(3 時間)					
フィードバックの方法	記録用紙にコメントを記入し返却する					
備考	主体的に取り組み、看護とは何かを中範囲理論を用いて考えながら課題解決し、チーム医療の一員として実習する					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
成人・老年看護学実習Ⅲ	老年看護学分野教員	実習	3 年次 後期 4 年次 前期	必修	3	135	KSP31404

科目の概要

健康障害をもちながら地域で暮らす高齢者とのコミュニケーションを通して日常生活の過ごし方、家族との関わり、社会とのつながりを知ることにより高齢者の多様性について教示する。また、様々な暮らしの場で生活する高齢者を総合的にアセスメントし健康レベルに応じた個別性のある看護援助が提供できるように教示する。

到達目標

- 健康障害をもちながら地域で暮らす高齢者がどのような生活や活動をしているのか説明することができる。
- 高齢者への看護援助を通して、高齢者の多様性を理解し自立・自律を尊重した個別性のある看護過程の展開を実践することができる。
- 高齢者支援に関わる他職種の役割を理解し、看護職に期待される役割と多職種連携について説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 成人・老年看護学実習Ⅲ(3 週間) 3 年次後期 4 年次前期 【実習施設】 (実習施設の法人名、種類・種別は省略) 大阪市老人福祉施設連盟、フィオーレ美杉、美郷、四条畷荘、錦秀苑、雅秀苑、聖和苑、摂津老健ひかり、阪和病院 そのほかの事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度後期～2026 年度前期 老年看護学実習 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	指示された事前課題、既習科目の復習(10 時間程度)					
事後学習(内容・時間)	実習内容により随時課題に取り組む(1 日 2 時間)					
フィードバックの方法	実習記録にコメントをつけて返却し、実習期間中は随時指導を行う					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用能力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
小児看護学実習	東尾 公子 石本 晶子	実習	3 年次 後期 4 年次 前期	必修	2	90	KSP31404

科目の概要

健康な子どもの成長・発達と生活習慣の獲得過程を理解し、子どもが健康に育つための支援ができるように教授する。また、子どもの成長・発達と生活習慣の獲得過程に、疾病、治療、入院が子どもと家族にどのように影響しているかを理解し、セルフケアの観点から子どもと家族を尊重したケアを実践できるよう教授する。

到達目標

保育園実習

- 健康な子どもの成長発達を理解し、生活能力を促進するかかわりを説明することができる。
- 健康な子どもとコミュニケーションをとることができる。

小児病棟実習

- 子どもの年齢の一般的な身体機能と入院後の身体状態を比較し、疾患による成長への影響を記述することができる。
- 疾患・入院による子どもと家族の生活・発達への影響を記述することができる。
- 子どもと保護者の意思を尊重した援助を行うことができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 小児看護学実習(2 週間) 3 年次後期 4 年次前期 【実習施設】 下記の1と2のいずれかを組み合わせて行う。(実習施設の法人名は省略) 1.保育園実習:摂津ひかりにこにこ保育園、鳥飼さつき園、摂津ひかり保育園、摂津さつき保育園、正雀ひかり園、 2.小児病棟実習:市立東大阪医療センター、大阪旭こども病院、北野病院、兵庫県立尼崎総合医療センター、大阪南医療センター、ベルランド総合病院 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度後期～2026 年度前期 小児看護学実習 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	夏期休暇前に提示する					
事後学習(内容・時間)	受け持ち患児の看護過程の展開(1日3時間)					
フィードバックの方法	実習中、実習内容のフィードバックを個別に行う。 実習のカンファレンスやまとめで、適宜個別指導する。					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母性看護学実習	母性看護学分野教員	実習	3 年次 後期 4 年次 前期	必修	2	90	KSP31405

科目の概要

周産期における看護の実践活動を通し、妊婦、産婦、褥婦、新生児及び家族への適切な支援ができるように教授する。また、女性のライフステージにおける健康問題について、セルフケアを維持、促進できる援助について説明する。
--

到達目標

● 周産期の母子およびそのパートナーや家族に対する看護過程の展開および実施した看護実践を記述できる。 ● 妊娠期から乳幼児を持つ女性の健康問題と援助法を説明できる。 ● 生命の誕生や母子・親子、家族の在り方について、ディスカッション及び記述することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 母性看護学実習(2 週間) 3 年次後期 4 年次前期 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 尼崎総合医療センター、大阪母子医療センター、北野病院、大阪南医療センター、 吹田徳州会病院、ベルランド総合病院、八尾市立病院、川西市立総合医療センター、医誠会国際総合病院、 大阪府助産師会、いわしま助産院、Pista 助産院他 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度後期～2026 年度前期 母性看護学実習 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	事前学習(夏季休暇課題や既習科目の復習)(2 時間)					
事後学習(内容・時間)	受け持ち対象者の看護過程の展開(2 時間)					
フィードバックの方法	夏季休暇事前学習は実習開始前に返却します。実習中、適時個別に実習内容のフィードバックを行います。					
備考	評価方法:「2025 年度後期～2026 年度前期 母性看護学実習 実習要項」内に提示しているルーブリック評価によって行う					
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・ コラボレーション力	4 課題発見力・ 課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・ 技能の活用力 (看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
精神看護学実習	西垣 里志／木村 聡子 東野 和馬／棕本 美帆	実習	3 年次 後期 4 年次 前期	必修	2	90	KSP31406

科目の概要

精神に障害をもつ人とのかかわりを通して、その人の抱えている問題をオレム・アンダーウッド理論や、ストレングスモデルを使って理解し、その人自身がもつ力をケアにいかすことを指導する。また実習を通して自己を振り返り人間対人間のかかわりを教授する。

到達目標

- 心に病を持つ人とのかかわりを通して、心の健康と病気についての知識を融合し説明できる。
- セルフケアレベルを把握し、心の病を持つ人の人間性やもっている力を大切に援助をすることができる。
- リハビリテーション看護や精神保健福祉医療における看護の役割や意味を説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 精神看護学実習(2 週間) 3 年次後期 4 年次前期 【実習施設】 下記の記の 1 と 2 いずれかを組み合わせて行う。(実習施設の法人名は省略) 1. 病院実習: 有馬病院、オレンジホスピタル、大阪精神医療センター 他 2. 地域精神保健医療施設実習: やすらぎの苑、KITA 工房 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度後期～2026 年度前期 精神看護学実習 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	オリエンテーション時に指示された事前課題をおこなう(6 時間程度)					
事後学習(内容・時間)	受け持ち患者の理解のために、随時課題に取り組む(1 日 2 時間程度)					
フィードバックの方法	実習記録にコメントをつけて返却し、実習期間中は随時指導をおこなう					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
看護とアート実習	卯川 久美	実習	3 年次 後期	必修	1	45	KSP31408

科目の概要

日本における医療施設での療養環境や癒しを与える活動が、対象者や家族に与える影響を理解し、環境のなかのアートと看護における創造性に基づくアートについて考察できるよう教授する。 また、国際協力や異文化のなかのアート活動について学び、看護への応用について検討できる能力を養う。

到達目標

● 一般病床を主とする医療施設の機能を理解し、対象者とその家族の安寧を図るために提供されている環境のなかのアートを観察し、対象者の検査、治療、療養生活などへの影響を説明することができる。 ● 海外(開発途上国)におけるアート活動について学び、どのように看護に活かすことができるのかを説明することができる。 ● 医療施設でのアートに関連するボランティア活動について学び、看護との関連について説明することができる。 ● ユニバーサルデザインについて説明することができる。 ● 健康増進・疾病予防に、アートやデザインがどのように取り入れられているかについて説明することができる。 ● それぞれの施設で提供されている環境のなかのアートや看護における創造性に基づくアートと看護について内容を共有し、アートが対象者に与える影響について説明することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 看護とアート実習(1 週間) 3 年次後期 【実習施設】 大阪市立総合医療センター、耳原総合病院 他 その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度 看護とアート実習 実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	その都度提示					
事後学習(内容・時間)	その都度提示					
フィードバックの方法	実習記録にコメントをつけて返却する					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
総合実習	卯川 久美	実習	4 年次 前期	必修	2	90	KSP41401

科目の概要

複数の患者に対して、既習の知識・技術を使い、安全安楽な看護計画を立案し、計画の修正や実施の判断をする基礎的能力を養うことを教授する。看護組織における管理者やリーダー、メンバーの役割を見学を通して理解し、安全で質の高い看護サービスの提供をするために必要な看護管理者の視点を養うように教授する。

到達目標

● 複数の対象者の状態を把握し、適切な看護援助ができる。 ● 看護組織における管理の役割について述べるができる。 ● 看護実践の振り返りを通して、自己の課題を述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 総合実習(2 週間) 2025 年 6 月 16 日(月)～6 月 27 日(金) 2025 年 6 月 30 日(月)～7 月 11 日(金) その他の事項及び実習の詳細については、 別途配布する「2025 年度前期総合実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照					
教科書	実習開始時に提示する					
参考文献	実習開始時に提示する					
事前学習(内容・時間)	「看護の役割と機能」「看護の継続性と情報共有」、「看護マネジメント論」で学んだ内容を復習する。事前課題(6 時間)					
事後学習(内容・時間)	総合実習での体験をふまえ、看護専門職者としての自己の課題を明らかにする(2 時間)					
フィードバックの方法	学習記録のコメントは実習中にフィードバックする					
備考						
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照					
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る能力と授業の対応	1 主体的行動力	2 表現力	3 社会貢献力・コラボレーション力	4 課題発見力・課題解決能力	5 コミュニケーション力	6 専門的知識・技能の活用力(看護実践力)
	○	○	○	○	○	○

2025年度 シラバス(授業計画)

編集・発行 宝塚大学 大学事務局 梅田事務部
〒530-0012
大阪市北区芝田一丁目13番16号
TEL 06-6376-0853
FAX 06-6373-4829
発行日 2025年4月1日

2025

授業計画

Syllabus

宝塚大学 助産学専攻科



2025 年度 授業計画(SYLLABUS)

目 次

助産学専攻科の教育方針	2
シラバスについて	4
2025 年度 学年暦	5
修了要件	6
アクティブ・ラーニングの種別について	7
教育課程	8
2025 年度授業科目・担当者一覧表	9
授業科目	10
I 基礎助産学	11
II 助産診断・技術学	15
III 地域母子保健論	22
IV 助産管理	23
V 助産学実習	24
VI 助産学実践関連	28

助産学専攻科の教育方針

教育目的

人間の生命や生活の質を真に理解できる感性豊かな人間性ととも、生命の尊厳と人権の尊重を基盤にした倫理観を備え、女性の健康問題の解決に向けたリプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から助産を実践できる能力の育成をめざす。さらにアート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める人材を育成する。

【教育目標】

- (1) 感性豊かな人間性と、専門職者としての倫理観を養う。
- (2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に立って、女性のライフステージ各期の健康問題に対応する能力を育成する。
- (3) 人の心の健康と人の心の自由を大切に思い、想像力豊かに様々なライフスタイルの女性の健康支援を担う能力と技術を養う。
- (4) 母子保健のニーズを助産師として捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を養う。
- (5) チーム医療の一員として、自己の役割と責任を自覚し、協働できる力を養う。
- (6) アート＝技を駆使して、助産学の発展に自律的・創造的に取り組める能力と技術を養う。

「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

下記の能力を備えた受験生を、一般入試選抜試験を通して入学させる。

1. 感性豊かな人間性と、生命や人権の尊重を基盤にした倫理観を育める素養のある人。
2. 協調性、責任感があり、自律したパーソナリティを持つ人。
3. 助産師として地域社会に貢献する意思を持った人。
4. 幅広く学問を学ぼうとする向上心・探求心・創造性を持った人。

「教育編成・実施方針」(カリキュラム・ポリシー)

助産学専攻科におけるカリキュラムは、本学の理念であるアートを駆使した特色あるカリキュラム構成である。助産学基礎領域、助産学関連領域、助産学実践領域の講義・演習は実習施設との連携により助産師の専門教育を育んでいる。

〈助産学基礎領域〉

1. ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
2. マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び
3. 専門職としての責務と倫理の学び

〈助産学基礎領域〉

1. ウイメンズヘルスの視点を重視した、女性の健康問題を捉えた学び
2. マタニティーヘルスのケアにおける助産実践に必要な知識と技術の学び
3. 専門職としての責務と倫理の学び

〈助産学実践領域〉

1. 助産ケアや周産期ハイリスクの母子看護など、育児支援に向けて他職種と連携・協働し専門性を発揮できる学び
2. リプロダクティブヘルスに関わる支援者として活躍できる学び
3. 女性の健康を守るケアの専門職者として自立した行動と責務を遂行できる学び

「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

宝塚大学は、豊かな感性と深い理解力、高い実践能力を持つ人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与する。助産学専攻科は看護基礎教育を生かし、大学の理念や教育目的を基盤とした助産の理論や実践能力を修得し、専門職者として以下の能力が認められることとする。

1. グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力。
2. 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力。
3. 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力。

シラバスについて

シラバスは学生に単位取得のための履修科目選択の情報を提供する履修科目一覧としての役割と、履修する個々の授業科目について科目の目標、授業内容などの授業計画を示すとともに、学生の教室外における予習などについての指示を与える役割があります。

大学では、単位制をとっており、1単位は、①教員が教室などで授業を行う時間、②学生が事前・事後に教室外において予習・復習を行う時間の合計で 45 時間の学修を要する教育内容をもって構成されています。（大学設置基準第 21 条）

授業方法	授業時間	教室外学習
講義・演習	15～30 時間	30～15 時間
実験・実習	30～45 時間	15 時間

科目の単位を取得するには、授業科目は、授業回数の3分の2以上出席していなければ受験資格が得られません。実習科目は5分の4以上の出席が無ければ単位取得資格が得られません。

「STUDENT GUIDE BOOK 2025」の履修方法にも目を通して受験資格、単位取得に必要な条件を確認してください。

皆さんは、自分の将来に向け、助産師になるという目標を掲げていることでしょう。目標達成に向けて、履修計画を立てる上で、シラバスを十分に活用してください。

2025 年4月1日

宝塚大学
助産学専攻科

2025(令和7)年度 学年暦

宝塚大学 助産学専攻科
【大阪梅田キャンパス】

	日	月	火	水	木	金	土	備 考		日	月	火	水	木	金	土	備 考
2025年4月			1	2	3	4	(5)	4/1～2 ガイダンス期間 4/1 前期履修届提出締切日 4/2 前期授業開始 4/5 入学式 (大学施設閉館)	10月				1	2	3	4	10/27～11/14 後期集中講義
	(6)	7	8	9	10	11	12			(5)	6	7	8	9	10	11	
	(13)	14	15	16	17	18	19			(12)	(13)	14	15	16	17	18	
	(20)	21	22	23	24	25	26			(19)	20	21	22	23	24	25	
	(27)	28	(29)	(30)				4/29 平常授業実施		(26)	27	28	29	30	31		
5月					(1)	(2)	(3)		11月							1	助産学実習Ⅱ GCU(11/4～11/7)
	(4)	(5)	(6)	7	8	9	10			(2)	(3)	4	5	6	7	8	
	(11)	12	13	14	15	16	17			(9)	10	11	12	13	14	15	地域母子保健実習(11/17～11/28)
	(18)	19	20	21	22	23	24	5/23 創立記念日(平常授業実施)		(16)	17	18	19	20	21	22	
	(25)	26	27	28	29	30	31			(23)	(24)	25	26	27	28	29	
										(30)							
6月	(1)	2	3	4	5	6	7		12月		1	2	3	4	5	6	
	(8)	9	10	11	12	13	14			(7)	8	9	10	11	12	13	
	(15)	16	17	18	19	20	21	6/16～6/19 前期定期試験		(14)	15	16	17	18	19	20	
	(22)	23	24	25	26	27	28	助産学実習Ⅱ NICU(6/23～6/26)		(21)	22	23	24	25	26	27	
	(29)	30						助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(6/30～1/23)		(28)	(29)	(30)	(31)				年末年始休業(12/29～1/4)
7月			1	2	3	4	5		2026年1月					(1)	(2)	(3)	
	(6)	7	8	9	10	11	12			(4)	5	6	7	8	9	(10)	
	(13)	14	15	16	17	18	19			(11)	(12)	13	14	15	16	17	
	(20)	(21)	22	23	24	25	26			(18)	19	20	21	22	23	24	
	(27)	28	29	30	31					(25)	26	27	28	29	30	31	
8月						1	2		2月	(1)	2	3	4	5	6	7	
	(3)	4	5	6	7	8	9			(8)	9	10	(11)	12	13	14	
	(10)	(11)	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	夏季休業(8/10～17)		(15)	16	17	18	19	20	21	
	(17)	18	19	20	21	22	23			(22)	(23)	24	25	26	27	28	
	(24)	25	26	27	28	29	30										
	(31)																
9月		1	2	3	4	5	6		3月	(1)	2	3	4	5	6	7	3/7or14 学位記授与式(大学施設閉館)
	(7)	8	9	10	11	12	(13)	9/13 宝翔祭(準備日) 9/14 宝翔祭		(8)	9	10	11	12	13	14	
	(14)	(15)	16	17	18	19	20			(15)	16	17	18	19	(20)	21	
	(21)	22	(23)	24	25	26	27			(22)	23	24	25	26	27	28	
	(28)	29	30							(29)	30	31					

曜日別の授業回数							
	日	月	火	水	木	金	土
前期	15	15	15	15	15	15	15
後期	15	15	15	15	15	15	15

	... 授業日		... 祝日(平常授業実施日)
	... 定期試験		... 日曜・祝日(休業日)
			... 大学施設閉館日

修了要件

本専攻科を修了するためには、1年以上在学し、下記の単位を取得しなければならない。

助産学専攻科

基礎助産学	6 単位
助産診断技術学	10 単位
地域母子保健論	2 単位
助産管理	2 単位
助産学実習	12 単位
助産学実践関連	4 単位 以上
計	36 単位 以上

助産学専攻科の教育課程

助産学専攻科の教育課程は基礎助産学、助産診断・技術学、地域母子保健論、助産管理学、助産学実習、助産学実践関連の6つの領域から成ります。

基礎助産学の中には、助産学を学ぶ上での基礎的能力を習得することを目的とした「助産学概論」や「周産期の生理と病態Ⅰ・Ⅱ」「母子の心理社会学」の科目があります。

助産診断・技術学は妊娠期から分娩期、産褥期、新生児期までの対象に助産過程を展開する際に必要な基礎的能力と、判断力、実践能力を習得することを目指して展開する科目です。

助産学実践関連の中には都市型の健康問題・社会問題について疫学的視点をもって学ぶ「アーバンヘルステ論」や周産期のグリーフケアと癒しについて考える「アートとグリーフケア」など本専攻科に特有の科目があります。また、助産師として提供できる技術として「ベビーマッサージ」や「アタッチメント・ヨガ」を習得できます。

科目ナンバリングについて

体系的履修の指針となるように、全ての授業科目にアルファベットと5桁の数字からなる科目ナンバーを付番しています。科目ナンバーは以下の規則によって付番されています。

科目領域		レベル		科目形式		科目番号(連番)		
JSP=専門分野	+	1=1 年次レベル	+	1=必修 2=選択必修	+	1=講義 2=講義・演習 3=演習 4=実習	+	01～99

アクティブ・ラーニングの種別について

アクティブ・ラーニングの要素を含む手法を取り入れる授業回については、以下のアクティブ・ラーニングの種別を数字で授業計画 AL 欄に載せています。

- 1 協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型授業
- 2 ディスカッション、ディベート
- 3 グループワーク
- 4 プレゼンテーション
- 5 実習、フィールドワーク
- 6 その他(上記1～5に当てはまらないアクティブ・ラーニング)

教育課程

区分	授業科目	科目ナンバー	配当年次	単位数		時間数	修了要件
				必修	選択		
基礎 助産学	助産学概論	JSP11101	1 前期	1		30	必修6単位
	周産期の生理と病態Ⅰ	JSP11102	1 前期	2		30	
	周産期の生理と病態Ⅱ	JSP11103	1 前期	2		30	
	母子の心理社会学	JSP11104	1 前期	1		15	
助産 診断・ 技術学	助産診断・技術学Ⅰ	JSP11201	1 前期	1		15	必修10単位
	助産診断・技術学Ⅱ	JSP11202	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学Ⅲ	JSP11203	1 前期	2		30	
	助産診断・技術学Ⅳ	JSP11204	1 前期	1		15	
	助産診断・技術学演習Ⅰ	JSP11301	1 前期	2		60	
	助産診断・技術学演習Ⅱ	JSP11205	1 前期	2		60	
地域 母子 保健論	地域母子保健論	JSP11105	1 前期	2		30	必修2単位
助産 管理	助産管理学	JSP11106	1 後期	2		30	必修2単位
助産 学実習	助産学実習Ⅰ	JSP11401	1 通年	3		135	必修12単位
	助産学実習Ⅱ	JSP11402	1 通年	6		270	
	助産学実習Ⅲ	JSP11403	1 通年	2		90	
	地域母子保健実習	JSP11404	1 後期	1		45	
助産 学実 践関 連	助産学研究	JSP11107	1 後期	1		30	必修2単位
	アーバンヘルス特論	JSP11108	1 後期	1		15	
	アートとグリーフケア	JSP12201	1 後期		1	15	選択必修 2単位以上
	アタッチメント・ヨガ	JSP12202	1 後期		1	30	
	アタッチメント・ベビーマッサージ	JSP12203	1 後期		1	30	
修了要件単位数							36単位以上
助産師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数							

2025 年度 授業科目・担当者一覧表

I 基礎助産学

(授業科目)	(担当者名)
助産学概論	南田 智子／中尾 幹子……………12
周産期の生理と病態Ⅰ	堀 謙輔……………13
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔……………14
母子の心理社会学	管生 聖子……………15

II 助産診断・技術学

助産診断・技術学Ⅰ	中尾 幹子……………16
助産診断・技術学Ⅱ	南田 智子……………17
助産診断・技術学Ⅲ	中尾 幹子／南田 智子……………18
助産診断・技術学Ⅳ	中尾 幹子／小西 知子……………19
助産診断・技術学演習Ⅰ	南田 智子／中尾 幹子／小西 知子……………20
助産診断・技術学演習Ⅱ	南田 智子／中尾 幹子／小西 知子……………21

III 地域母子保健論

地域母子保健論	中尾 幹子／小西 知子……………22
---------	--------------------

IV 助産管理学

助産管理学	南田 智子／中尾 幹子……………23
-------	--------------------

V 助産学実習

助産学実習Ⅰ	南田 智子／中尾 幹子／小西 知子……………24
助産学実習Ⅱ	南田 智子／中尾 幹子／小西 知子……………25
助産学実習Ⅲ	南田 智子／中尾 幹子／小西 知子……………26
地域母子保健実習	南田 智子／中尾 幹子／小西 知子……………27

VI 助産学実践関連

助産学研究	南田 智子／中尾 幹子／小西 知子……………28
アーバンヘルス特論	日高 庸晴……………29
アートとグリーフケア	中尾 幹子／坂下 裕子……………30
アタッチメント・ヨガ	南田 智子……………31
アタッチメント・ベビーマッサージ	南田 智子……………32

授 業 科 目

授業要項と授業内容

凡 例

2025 年度のシラバスは次の原則にしたがって編集されています。

1. 授業科目は以下の分野に分かれています。

- I. 基礎助産学
- II. 助産診断・技術学
- III. 地域母子保健論
- IV. 助産管理
- V. 助産学実習
- VI. 助産学実践関連

2. 授業科目はセメスター制による前期科目および後期科目、一年を通して行われる通年科目の2種類に分かれています。

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学概論	南田 智子 中尾 幹子	講義	1 年次 前期	必修	1	30	JSP11101

科目の概要

助産の意義や基本概念を概説し、助産師の役割と責務を遂行するための知識について教授する。助産の変遷や国際比較、女性の社会問題や生命倫理についての学びを通し、自己の助産観、倫理観を養うことを目的とする。

到達目標

- 助産の基本概念、意義を理解し、説明することができる。
- 助産の変遷や助産師教育について学び、今後の助産、助産師教育の課題を説明することができる。
- 女性を取り巻く社会問題、健康問題について広い視野を持ち考え、助産師としての職業倫理、生命倫理について自己の倫理観を述べるすることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	助産の概念 助産の定義・意義・対象 助産の変遷①
第 2 回	助産の変遷② 助産の将来
第 3 回	助産の文化的側面：産育風俗
第 4 回	助産師が行うケアの理念
第 5 回	助産師教育の変遷(日本と諸外国)
第 6 回	女性の健康と人権
第 7 回	女性と家族のエンパワメント
第 8 回	倫理的に考えるとは
第 9 回	生殖補助医療をめぐる倫理① 不妊とはどういう問題なのか
第10回	生殖補助医療をめぐる倫理② 高度生殖補助医療をめぐる
第11回	妊娠中絶をめぐる
第12回	出生前診断が投げかける問い
第13回	さまざまなジェンダー現象
第14回	ワークライフバランスを実現するために
第15回	女性の健康とエンパワメント、私の助産観(発表)

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション…第 3,4,15 回
ディスカッション・ディベート…第 14 回

成績評価方法	成果物 80% 定期試験(レポート) 20%		
教科書	『基礎助産学[1] 助産学概論 第 6 版』我部山 キヨ子(医学書院)		
参考文献	適宜、提示します。		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(1 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習すること(1 時間)		
フィードバックの方法	講義内でのプレゼンテーションにはコメントを返します。質問などには、講義内で対応します。		
備考	助産の概念や生命倫理、女性の社会問題などについて学び助産師としての基本的な姿勢を培います。専門職者としての意識をもち、授業に臨みましょう。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る 能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態 I	堀 謙輔	講義	1 年次 前期	必修	2	30	JSP11102

科目の概要

妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な病態生理を理解し、生理的経過をアセスメントするための基礎知識を教授する。助産師として正常な妊産褥婦、新生児の経過診断ができるよう、臨床での具体的な事例や検査データなどを示しながら講義する。

到達目標

- 妊娠期の母体と胎児の生理的変化を理解し、説明できる。
- 分娩の 3 要素、分娩機転、分娩期の母体と胎児の生理的変化を理解し説明できる。
- 産褥婦と新生児の生理的変化を理解し、説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	妊娠期の生理と病態①
第 2 回	妊娠期の生理と病態②
第 3 回	妊娠期の生理と病態③
第 4 回	妊娠期の生理と病態④
第 5 回	分娩期の生理と病態①
第 6 回	分娩期の生理と病態②
第 7 回	分娩期の生理と病態③
第 8 回	分娩期の生理と病態④
第 9 回	産褥期の生理と病態①
第10回	産褥期の生理と病態②
第11回	産褥期の生理と病態③
第12回	妊娠期の栄養①
第13回	妊娠期の栄養②
第14回	新生児の生理と病態①
第15回	新生児の生理と病態②

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第13回

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『病気がみえる vol.10 産科 第4版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『【第6版】助産学講座 2 基礎助産学 2』(医学書院)、『基礎助産学[3] 母子の健康科学 第6版』我部山 キヨ子(医学書院)		
参考文献	『新生児学入門 第6版』仁志田 博司(医学書院) 『最新産科学 正常編(第23版)』荒木勤(文光堂)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義資料を見直して、復習すること(2時間)		
フィードバックの方法	質問などには講義内に対応します。試験結果は閲覧可能です。間違ったところは見直しをしてください。		
備考	助産実践の基礎となる病態生理です。しっかり取り組みましょう。		
オフィスアワー	講義終了後 30 分(オンライン講義の場合は、あらかじめ申し出ること)		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
周産期の生理と病態Ⅱ	堀 謙輔	講義	1 年次 前期	必修	2	30	JSP11103

科目の概要

助産師として自ら母体や胎児をアセスメントし、ケアを行うために必要な知識、すなわち、妊娠期・分娩期・産褥期における母体と胎児の異常な経過と分娩や産褥の経過に影響を及ぼす基礎疾患や感染症について、その概要、診断法、治療法についての産婦人科診療ガイドラインを中心とした最新の医学的根拠や講師の臨床経験を織り交ぜて講義する。

到達目標

- 妊娠期の異常とハイリスク妊娠について説明できる。
- 分娩期の正常からの逸脱状態を診断でき、異常分娩の際の処置や対応を説明できる。
- 産褥期ならびに新生児期の異常について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	妊娠期の異常①
第 2 回	妊娠期の異常②
第 3 回	妊娠期の異常③
第 4 回	妊娠期の異常④
第 5 回	分娩期の異常①
第 6 回	分娩期の異常②
第 7 回	分娩期の異常③
第 8 回	分娩期の異常④
第 9 回	産褥期の異常①
第10回	産褥期の異常②
第11回	産褥期の異常③ /意見交換
第12回	無痛分娩の基礎
第13回	無痛分娩の管理
第14回	産褥期の栄養
第15回	ハイリスク新生児の生理と病態

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第11回

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『病気がみえる vol.10 産科 第4版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)、『【第6版】助産学講座 2 基礎助産学 2』(医学書院)、『基礎助産学[3] 母子の健康科学 第6版』我部山 キヨ子(医学書院)		
参考文献	『新生児学入門 第6版』仁志田 博司(医学書院)、『最新産科学 正常編(第23版)』荒木勤(文光堂)、『最新産科学 異常編(第23版)』荒木勤(文光堂)、『産婦人科診療ガイドライン産科編 2023』日本産科婦人科学会(日本産科婦人科学会)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当ページを読んでくること(2時間)		
事後学習(内容・時間)	各自講義内容を復習すること(2時間)		
フィードバックの方法	質問事項については、授業内で解説します。講義中に、基礎知識の振り返りや忌憚のない意見を求めて、質問することがあります。		
備考			
オフィスアワー	講義終了後 30 分		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
母子の心理社会学	管生 聖子	講義	1 年次 前期	必修	1	15	JSP11104

科目の概要

母親へのケアを行う上で、その心理的社会的状況への視点は必須である。本講義では、それらの知識・理解を深めるため母子や家族の心理社会的課題とサポートの具体的方法を説明する。心理的支援について基礎的技術を含め事例を通して教授する。

到達目標

- 母子の心理社会的支援の基本と方法を理解、実践できる。
- カウンセリングの基礎的技術について各概要を理解し説明できる。
- 周産期における心理的サポートが必要な対象に対する相談対応を身につける。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	心理支援の基本的知識と姿勢
第 2 回	女性のライフサイクルと心理・社会的課題
第 3 回	妊娠・出産後のメンタルヘルス
第 4 回	親子関係の形成と課題
第 5 回	家族と社会
第 6 回	心理的支援の基本的態度
第 7 回	事例を踏まえたロールプレイ1 育児不安や産後うつ疑いのケース等
第 8 回	事例を踏まえたロールプレイ2 DV/虐待疑いのあるケース等

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 1,4～6 回
ディスカッション・ディベート…第 2,3,7,8 回

成績評価方法	成果物 100%(講義時間内の課題等)		
教科書	『基礎助産学[4] 母子の心理・社会学 第 6 版』我部山 キヨ子(医学書院)		
参考文献	講義内で適宜紹介する		
事前学習(内容・時間)	日ごろから親子の心理社会学に関する情報に注意を向け、自身の考えを巡らせておくこと(2 時間)		
事後学習(内容・時間)	学習内容について、自身の考えや価値観を改めて理解し深めておくこと(2 時間)		
フィードバックの方法	講義内でいくつか取り上げ、必要に応じてフィードバックを行う		
備考			
オフィスアワー	授業前後で教室で質問を受け付ける		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅰ	中尾 幹子	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	15	JSP11201

科目の概要

妊娠期における助産診断能力を修得するために、妊娠の生理および妊娠経過における基礎的知識、観察方法、評価方法、必要な保健指導内容について講義する。講義内容をもとに妊娠各期の事例を展開し、助産診断、助産計画の実践が理解できるよう教授する。

到達目標

- 妊娠各期の助産診断、ハイリスク妊娠経過での助産診断のための情報を統合しアセスメントができる。
- 妊娠各期およびハイリスク妊娠経過での助産計画が立案できる。
- 妊娠各期にある妊婦と家族への支援内容や援助方法について述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	妊娠の生理と助産師が行うケア
第 2 回	妊娠初期の診断・アセスメントとケア
第 3 回	妊娠中期の診断・アセスメントとケア
第 4 回	妊娠末期の診断・アセスメントとケア
第 5 回	妊娠期の異常とそのケア
第 6 回	妊娠期の助産診断・助産計画 ①
第 7 回	妊娠期の助産診断・助産計画 ②
第 8 回	妊娠期の助産診断・助産計画 ③

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 6～8 回

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%		
教科書	『【第6版】助産学講座 5 助産診断・技術学 1』(医学書院)、『【第6版】助産学講座 6 助産診断・技術学 2-1』(医学書院)、『【第5版】実践マタニティ診断』日本助産診断実践学会／編集 齋藤益子／〔ほか〕執筆(医学書院)		
参考文献	『今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第 4 版』北川 真理子 編集(南江堂)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(2 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し提示された課題に取り組むこと(2 時間)		
フィードバックの方法	妊娠各期の助産過程は各自で記述した内容にコメントを返します。質問は講義内で解説します。		
備考	事例を用いて妊娠期の助産過程を展開します。 実習に直結する内容です。気を引き締めて取り組みましょう。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅱ	南田 智子	講義・演習	1 年次 前期	必修	2	30	JSP11202

科目の概要

分娩期における助産診断に必要な基礎知識を修得するために、分娩経過における助産診断に必要な基礎知識、評価表、観察法、ならびに分娩経過に伴う妊婦および胎児の健康水準診断を教授する。

到達目標

- 分娩各期の助産診断、異常分娩時の助産診断のための情報を統合しアセスメントできる。
- 分娩各期および異常分娩時の助産計画が立案できる。
- 産婦と家族への支援内容や援助方法について述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	助産師が行う分娩期のケア
第 2 回	分娩経過の診断に必要な知識
第 3 回	分娩経過の診断・アセスメントの視点
第 4 回	分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア
第 5 回	分娩期の異常とそのケア
第 6 回	分娩進行に伴う正常経過逸脱の予測と予防
第 7 回	分娩期の異常とそのケア 産科手術の介助とケア
第 8 回	胎児心拍数モニタリング
第 9 回	分娩経過に伴う診断・アセスメントとケア
第10回	正常分娩の助産診断・計画 ①
第11回	正常分娩の助産診断・計画 ②
第12回	異常分娩の助産診断・計画 ①
第13回	異常分娩の助産診断・計画 ②
第14回	助産診断・計画発表 ①
第15回	助産診断・計画発表 ②

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第10～15回

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%		
教科書	『【第6版】助産学講座 7 助産診断・技術学 2-2』(医学書院)		
参考文献	『病気がみえる vol.10 産科 第4版』医療情報科学研究所 編集(メディックメディア)今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第4版北川 真理子 編集南江堂北川 真理子 編集『産婦人科診療ガイドライン産科編 2023』(日本産科婦人科学会)、『妊娠出産される女性とご家族のための助産ガイドライン 2021年度』(日本助産学会)、『助産業務ガイドライン 2019』(日本助産師会出版)、『WHO 推奨ポジティブな出産体験のための分娩期ケア』(分娩期ケアガイドライン翻訳チーム)		
事前学習(内容・時間)	母性看護学で学んだ正常分娩経過を復習し、参考書等の事例から看護過程の展開を1例行っておく。教科書の該当箇所を読んでおく(3時間)。		
事後学習(内容・時間)	既習の講義内容については復習し、課題に取り組む(2時間)		
フィードバックの方法	授業はじめに毎回小テストを実施し、学習の確認を行う		
備考	授業には積極的に参加し、活発な発言を期待します		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探求できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅲ	中尾 幹子 南田 智子	講義・演習	1 年次 前期	必修	2	30	JSP11203

科目の概要

産褥期における助産診断能力を習得するために、産褥期とその後の産後期における助産診断ならびに助産計画立案の思考過程について講義する。また、セルフケア能力に応じた支援および逸脱予防のための支援、母乳育児のための支援、親役割獲得や家庭・社会生活復帰のための支援などの具体的な方法を教授する。

到達目標

- 助産診断の視点に沿って情報収集・情報分類を行い、情報を解釈・分析してアセスメントできる。
- 逸脱予防のための支援、親役割獲得のための支援、家庭・社会生活復帰のための支援を立案できる。
- 産褥期・産後期のハイリスク状態についてアセスメントし、予防的支援および異常発生時の対応について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	産褥期のフィジカルアセスメント
第 2 回	産褥期のセルフケア能力に応じた支援
第 3 回	母乳育児のための支援①
第 4 回	母乳育児のための支援②
第 5 回	産褥期の異常とその支援
第 6 回	親役割獲得のための支援
第 7 回	家庭・社会生活復帰のための支援
第 8 回	産褥早期の助産診断・助産計画①
第 9 回	産褥早期の助産診断・助産計画②
第10回	産褥早期の助産診断・助産計画③
第11回	産褥早期の助産診断・助産計画④
第12回	心理社会的ハイリスクと産後ケア
第13回	退院から産後 1 か月までの助産診断・助産計画
第14回	乳児期・産後期の異常とその支援
第15回	乳児期・産後期のアセスメント

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 8～11,14,15 回

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%		
教科書	『【第6版】助産学講座 7 助産診断・技術学 2-2』(医学書院)、『【第5版】実践マタニティ診断』日本助産診断実践学会／編集 齋藤益子／〔ほか〕執筆(医学書院)		
参考文献	『今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第 4 版』北川 真理子 編集(南江堂)【第2版】母乳育児支援スタンダード日本ラクテーション・コンサルタント協会／編集医学書院日本ラクテーション・コンサルタント協会／編集『母乳育児学』水野克己(南山堂)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所をよく読んでおくこと(2 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、提示された課題に取り組むこと(2 時間)		
フィードバックの方法	助産過程は各自で記述したものにコメントをつけて返却します		
備考	助産実践に直結する内容です。積極的に学びましょう。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに 掲 げ る能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学Ⅳ	中尾 幹子 小西 知子	講義・演習	1 年次 前期	必修	1	15	JSP11204

科目の概要

正常新生児の適応過程・生理的变化とフィジカルアセスメントの視点から、正常新生児の基本的な助産診断、助産計画の思考過程を講義する。また、出生後の女性と家族が子どもを育てていく上で必要な新生児と乳幼児の生理、罹患しやすい疾患と病態、健康診査に関する基礎的な知識、家庭生活への適応に関する具体的内容とその方法を教授する。

到達目標

- 新生児期・乳幼児期の身体的・心理的・社会的状態についてアセスメントをし、助産診断および助産計画立案ができる。
- 母児一貫したケアの重要性を認識し、正常からの逸脱予防のための支援方法を述べることができる。
- 新生児・乳幼児にかかわる際の倫理的な態度、留意点を説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	新生児・乳幼児ケアの基本と適応過程
第 2 回	新生児のフィジカルアセスメント
第 3 回	早期新生児のアセスメントとケア
第 4 回	新生児の異常とそのケア
第 5 回	新生児の助産診断・助産計画①
第 6 回	新生児の助産診断・助産計画②
第 7 回	新生児の助産診断・助産計画③
第 8 回	新生児の助産診断・助産計画④

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 5～8 回

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%		
教科書	『【第6版】助産学講座 8 助産診断・技術学 2-3』(医学書院)、『【第5版】実践マタニティ診断』日本助産診断実践学会／編集 齋藤益子／〔ほか〕執筆(医学書院)		
参考文献	『今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第 4 版』北川 眞理子 編集(南江堂)『新生児学入門 第 6 版』仁志田 博司(医学書院)		
事前学習(内容・時間)	該当する教科書の内容をよく読んでおくこと(2 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、提示された課題に取り組むこと(2 時間)		
フィードバックの方法	助産過程は各自が記述したものにコメントをつけて返却します		
備考	実習に直結する内容です。積極的に学びましょう。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	△	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅰ	南田 智子 中尾 幹子/小西 知子	演習	1 年次 前期	必修	2	60	JSP11301

科目の概要

助産師に求められる実践能力として、周産期・産後期の妊娠婦および胎児・新生児・乳児の健康診断・健康生活診断に必要な基礎的診断技術や援助技術を教授する。また、安全な分娩介助技術、母体急変時の対応や新生児蘇生法について実践能力を身につけられるよう教授する。

到達目標

● 妊娠婦、新生児の助産診断に必要な診断技術を習得する。 ● 妊娠婦、新生児への援助技術について学び、実践できる。 ● 安全、安楽な分娩介助技術を習得する。 ● 新生児蘇生法に必要な知識、技術を習得する。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	妊婦の診断技術：子宮底長・腹囲測定、レオポルド触診法、ザイツ法、胎児心音聴取、骨盤外計測
第 2 回	妊婦の援助技術：診察の介助、妊婦体操、着帯指導
第 3 回	産婦の診断技術：内診、CTG 装着
第 4 回	産婦への援助技術：分娩促進法、安楽な体位、回旋異常時の援助
第 5 回	産婦への援助技術：東洋医学の活用
第 6 回	産婦への援助技術：アロマの活用
第 7 回	分娩介助技術デモンストレーション：分娩介助、胎盤計測
第 8 回	分娩介助技術①
第 9 回	分娩介助技術②
第 10 回	分娩介助技術③
第 11 回	分娩介助技術④
第 12 回	分娩介助技術⑤
第 13 回	分娩介助技術⑥
第 14 回	分娩介助技術⑦
第 15 回	分娩介助技術⑧
第 16 回	新生児の診断技術：出生直後の観察、身体計測
第 17 回	褥婦の診断技術：退行性変化の観察、導尿、帰室の援助
第 18 回	母児への援助技術：初回授乳介助、沐浴
第 19 回	超音波診断法①：基本操作
第 20 回	超音波診断法②：基本操作・計測
第 21 回	会陰縫合術の実践
第 22 回	新生児蘇生法①
第 23 回	新生児蘇生法②
第 24 回	新生児蘇生法③
第 25 回	新生児蘇生法④
第 26 回	分娩介助技術試験①
第 27 回	分娩介助技術試験②
第 28 回	分娩介助技術試験③
第 29 回	分娩介助技術試験④
第 30 回	分娩介助技術試験⑤

アクティブ・ラーニング

実習・フィールドワーク…第 1～5,7～18,20～25 回

成績評価方法	定期試験(実技)100%		
教科書	『【第 6 版】助産学講座 6 助産診断・技術学 2-1』(医学書院)、『【第 6 版】助産学講座 7 助産診断・技術学 2-2』(医学書院)、『【第 6 版】助産学講座 8 助産診断・技術学 2-3』(医学書院)、『日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく 新生児蘇生法テキスト 第 4 版』細野 茂春(メジカルビュー社)		
参考文献	『新訂版 写真でわかる助産技術 アドバンス』平澤 美恵子(インターメディカ)、『新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス』平澤 美恵子(医学書院)、『【第 2 版】助産師のためのフィジカルイグザミネーション アセスメント力を磨く』我部山キヨ子/編集 大石時子/編集 我部山キヨ子/〔ほか〕執筆(医学書院)		
事前学習(内容・時間)	既習の基礎看護技術を各自復習しておくこと。事前配布資料を読んでおくこと (1 時間)		
事後学習(内容・時間)	各診断技術、援助技術、分娩介助技術などは繰り返し練習して身につけること (1 時間)		
フィードバックの方法	技術演習の際は、講義内で適宜、評価コメントを返します		
備考	診断技術、援助技術は実習に直結する内容です。繰り返し練習して身につけましょう。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産診断・技術学演習Ⅱ	南田 智子 中尾 幹子/小西 知子	講義・演習	1 年次 前期	必修	2	60	JSP11205

科目の概要

女性のライフサイクル各期における相談・教育活動について理解を深め、継続した母子支援のための基礎力を養う。思春期教育ならびに妊娠期から産後期、乳児期の健康教育立案から実施、評価について教授する。

到達目標

- 女性のライフサイクル各期における相談・教育活動について説明できる。
- 健康教育の計画、立案、実施、評価のプロセスを実践できる。
- 産後、乳児期の診断と母子支援について理解し、説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	助産診断 助産過程とは
第 2 回	相談・教育の理論的基盤、相談技術の基本
第 3 回	個別健康教育：妊娠期・産褥期における相談・教育活動
第 4 回	集団健康教育：両親学級、育児教室
第 5 回	妊娠期健康教育①
第 6 回	妊娠期健康教育②
第 7 回	妊娠期健康教育③
第 8 回	妊娠期健康教育④
第 9 回	産褥期健康教育①
第 10 回	産褥期健康教育②
第 11 回	産褥期健康教育③
第 12 回	思春期女性への相談・教育
第 13 回	思春期教育の企画運営
第 14 回	思春期教育の実践
第 15 回	成人期女性への相談・教育
第 16 回	更年期・老年期への相談・教育
第 17 回	女性の健康問題と援助＜不妊と生殖補助医療＞
第 18 回	受胎調節に必要な知識と技術
第 19 回	家族計画教育の企画
第 20 回	家族計画教育の実践
第 21 回	栄養教育①
第 22 回	栄養教育②
第 23 回	健康教育の実践：ロールプレイ
第 24 回	健康教育の実践：ロールプレイ
第 25 回	思春期教育の企画①
第 26 回	思春期教育の企画②
第 27 回	思春期教育の企画③
第 28 回	思春期教育の企画④
第 29 回	思春期教育の実践①
第 30 回	思春期教育の実践②

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 5～11,19,20,25～28 回
 プレゼンテーション…第 23,24 回
 実習・フィールドワーク…第 21,22,29,30 回

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	『【第 6 版】助産学講座 5 助産診断・技術学 1』（医学書院）		
参考文献	適宜、提示する		
事前学習(内容・時間)	事前配布の資料及び教科書の該当箇所を読んでおくこと(1 時間)		
事後学習(内容・時間)	各自、担当の健康教育案、媒体の作成(2 時間)		
フィードバックの方法	健康教育案は随時担当教員が確認し、コメントを返します		
備考	実習の際に行う健康教育の基になる健康教育案と媒体になります。各自で作成し、実習に備えます。個別健康教育のロールプレイや集団健康教育の実践を行います。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに 掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健論	中尾 幹子 小西 知子	講義	1 年次 前期	必修	2	30	JSP11105

科目の概要

地域社会で生活する母親・子ども・父親や家族が置かれている社会的背景や現状、統計的水準、法制度および国際母子保健の現状および課題について講義する。また、子どもの成長・発達に応じた母子や家族への支援および地域社会で活動する他職種や組織との連携・協働について教授する。学生の地域母子保健活動への参加を通して、助産師の役割を考察する機会とする。

到達目標

- 母子保健に関する統計資料を分析し、母子保健の現状と動向を考察し説明できる。
- 母子保健行政の仕組みや母子保健施策、地域で生活する母子と家族への支援システムについて説明できる。
- 地域で生活する母子と家族を支援する助産師の役割、他職種や関係機関との連携・協働について考察し、述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	母子保健活動の基本
第 2 回	わが国の母子保健の現状と動向
第 3 回	おもな母子保健行政
第 4 回	おもな母子施策施策地と域母子保健活動の基盤
第 5 回	地域診断・地区踏査①
第 6 回	地域診断・地区踏査②
第 7 回	地域母子保健活動の実際①
第 8 回	地域母子保健活動の実際②
第 9 回	地域母子保健活動の実際③
第10回	社会的養育としての母子支援活動
第11回	国際母子保健活動①
第12回	国際母子保健活動②
第13回	悲嘆・メンタルヘルスへのケア
第14回	地域子育て支援活動の実際①
第15回	地域子育て支援活動の実際②

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第1回
実習・フィールドワーク…第6回、第8回、第14回
プレゼンテーション…第15回

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 成果物 20%		
教科書	『地域母子保健・国際母子保健 第6版』我部山 キヨ子(医学書院)		
参考文献	『母子保健の主なる統計 令和7年』(公益社団法人母子衛生研究会)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習すること(2時間)		
フィードバックの方法	質問については講義内で解説します		
備考	多面的な視点から母子保健活動の実際や課題を明らかにできるよう、積極的に学んでいきましょう。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産管理学	南田 智子 中尾 幹子	講義	1 年次 後期	必修	2	30	JSP11106

科目の概要

助産管理の基本的な知識および、産科病棟・院内助産システム・助産院など、場に応じた助産業務管理の特徴や課題、リスクマネジメントの方法などを教授する。医療事故については具体的な事例を挙げ、リスクマネジメントのあり方についてより身近な問題として各自が考えられよう講義する。
--

到達目標

●助産業務の範囲と法的責任を理解し、倫理的観点を踏まえた助産業務管理に必要な知識を述べることができる。 ●助産業務を効果的・効率的に遂行できる基本的能力および危機管理能力について説明できる。 ●開業助産院や院内助産の開設と運営方法について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	助産管理の基本と助産業務管理
第 2 回	助産業務管理と医療経済
第 3 回	関連法規と助産師の義務・責任
第 4 回	日本の周産期医療体制
第 5 回	助産師を取り巻く課題
第 6 回	日本の周産期医療システム
第 7 回	助産サービスの質管理 産科医療補償制度
第 8 回	周産期におけるリスクマネジメント①
第 9 回	周産期におけるリスクマネジメント②
第10回	病院における助産業務管理の実際
第11回	周産期管理システム(母体搬送システム オープンシステム)
第12回	周産期管理システム(新生児集中治療室)
第13回	周産期医療における多職種連携・協働
第14回	開業助産所における助産管理
第15回	災害看護活動

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	定期試験(筆記) 100%		
教科書	『助産管理 第6版』我部山 キヨ子(医学書院)		
参考文献	『新版 助産師業務要覧 第4版 [Ⅰ基礎編] 2024年版』福井トシ子(日本看護協会出版会)、『新版 助産師業務要覧 第4版 [Ⅱ実践編] 2024年版』福井トシ子(日本看護協会出版会)、『新版 助産師業務要覧 第4版 [Ⅲアドバンス編] 2024年版』福井トシ子(日本看護協会出版会)		
事前学習(内容・時間)	教科書の該当箇所を読んでおくこと(2時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習をすること(2時間)		
フィードバックの方法	質問には講義内にお答えします。定期試験結果は閲覧可能ですので間違った箇所は復習してください。		
備考	助産管理は難しく感じるかもしれませんが、助産師として働くための基盤となるものです。しっかり学んでください。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	△

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習 I	南田 智子 中尾 幹子/小西 知子	実習	1 年次 通年	必修	3	135	JSP11401

科目の概要

助産診断・技術学の学びを基に、妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う実習科目である。また、外来における妊婦管理、病棟における産婦管理、母児管理の実際の見学を通し、施設における助産管理の実際や助産業務の範囲について理解できるよう教授する。

到達目標

- 妊娠期の母児とその家族に対して助産過程を展開できる。
- 妊娠各期の対象に必要な保健指導案を作成し、実施できる。
- 病棟、外来における助産業務管理・運用を見学し、助産管理の実際や助産業務管理について説明できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 助産学実習 I (2 週間) 2025 年 6 月 30 日(月)～12 月 26 日(金) 【実習施設】 下記のいずれかで行う。 大阪南医療センター、川西市立総合医療センター 関西ろうさい病院、兵庫県立西宮病院 レディースクリニック サンタクルス ザ ウメダ レディース&マタニティクリニック サンタクルス ザ タカラヅカ その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2025 年度助産学実習実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照 100%		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習する(1 時間)		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う(1 時間)		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	学内演習の成果を発揮して、保健指導を実施しましょう		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅱ	南田 智子 中尾 幹子/小西 知子	実習	1 年次 通年	必修	6	270	JSP11402

科目の概要

分娩期にある女性とその家族に対して助産過程を展開し、必要な援助を行う実習科目である。本実習では 10 例程度の正常分娩の直接介助を行う。分娩直接介助・間接介助を通じて、正常な分娩経過を理解し診断する能力、安全・安楽な分娩に導くための援助方法を習得できるよう教授する。

到達目標

- 分娩期の経過診断、健康生活診断に必要な情報を収集しアセスメント、診断、予測を行うことができる。
- 産婦、新生児への身体的及び心理的援助の具体的方法や内容が理解でき助産計画を立案、実施できる。(分娩介助を含む)
- 分娩経過中の胎児の健康状態を判断し必要な援助を実施することができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅱ実習(6～9 週間) 2025 年 6 月 23 日(月)～2026 年 1 月 23 日(金) 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪母子医療センター、川西市立総合医療センター 関西ろうさい病院、済生会中津病院 兵庫県立尼崎総合医療センター、八尾市立病院 ENAレディースクリニック レディース&マタニティクリニック ザ タカラヅカ クリニック その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2025 年度助産学実習

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照 100%		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	必要な援助技術について練習すること(1 時間)		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う(1 時間)		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	長期間および不規則な実習形態になります。体調管理をして臨んでください。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学実習Ⅲ	南田 智子 中尾 幹子/小西 知子	実習	1 年次 通年	必修	2	90	JSP11403

科目の概要

1 名の対象者を妊娠中から受け持ち、妊婦健康診査、保健指導の実施、分娩介助、産後健診を経て産後 4 か月までの受け持ちを通じて母児について助産過程を展開する実習科目である。対象者の個別性を考慮した継続的な支援が行えるよう導く。

到達目標

- 妊娠期から産褥・乳児期までを継続して受け持ち助産過程を展開し、助産診断能力、助産実践能力を修得する。
- 受け持ち妊産褥婦と家族に必要な健康教育を実施できる。
- 継続して支援することで、生活圏における母子を支援する他職種、関連機関との連携の在り方を説明できる。
- 受け持ち母子の人権を尊重し、擁護できる。
- 継続受け持ちを通して、助産師としての責任や専門性を認識し、自身の助産師観を述べることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 助産学実習Ⅲ(12 週間) 2025 年 6 月 30 日(月)～12 月 26 日(金) 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪南医療センター、川西市立総合医療センター 関西ろうさい病院、兵庫県立西宮病院 レディース&マタニティクリニック ザ タカラヅカ クリニック その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2025 年度助産学実習実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照 100%		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義・演習内容を復習すること(1 時間)		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ自己評価を行う(1 時間)		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます。実習記録はコメントをつけて返却しますので、見直して追加修正してください。		
備考	受け持たせていただく対象者に、より良い妊娠・分娩・産褥期を過ごしてもらえるように十分な事前準備をして取り組みましょう		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
地域母子保健実習	南田 智子 中尾 幹子/小西 知子	実習	1 年次 後期	必修	1	45	JSP11404

科目の概要

母子保健活動としての妊娠期から産後期までの母子支援や地域子育て支援の実際を学ぶ実習科目である。それぞれの地域での課題をアセスメントすることで、多角的な視点から母子保健活動の基礎を理解できるよう教授する。

到達目標

● 大阪市の実習地域における地域特性について情報収集を行い、母子保健上の課題について考察し、説明できる。 ● 産後ケア事業の取り組みや利用者の実態を知り、包括的な母子支援について自身の考えを述べることができる。 ● 地域における助産師活動の実際や他職種・他機関との連携・協働について考察し、自己の考えを述べるができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
	【実習期間】 下記のいずれかで行う。 地域母子保健実習(1 週間) 2024 年 6 月 30 日(月)～12 月 26 日(金) 【実習施設】 下記のいずれかで行う。(実習施設の法人名は省略) 大阪市内保健福祉センター 大阪府助産師会産前産後ケアセンター 助産院:らうらうみっどわいふりい その他の事項及び実習の詳細については、別途配布する「2025 年度助産学実習実習要項」による。

アクティブ・ラーニング

--

成績評価方法	別途配布する該当科目の「実習要項」参照 100%		
教科書	実習開始時に提示する		
参考文献	実習開始時に提示する		
事前学習(内容・時間)	関連する講義内容を復習。担当地域の情報収集をする(1 時間)		
事後学習(内容・時間)	実習記録をまとめ、自己評価する(1 時間)		
フィードバックの方法	実習中は適宜、質問・相談を受けます		
備考	病院実習とは違う視点で、助産師の役割や母子保健について学べる実習です。目的を明確に持って実習に参加しましょう。積極的に意見交換をして、学びを深められるようにしてください。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
助産学研究	南田 智子 中尾 幹子/小西 知子	講義	1 年次 通年	必修	1	30	JSP11107

科目の概要

助産研究を行うための基本的能力を修得することを目的に、研究の意義や基本的研究手法を解説する。実習等で経験した事例のケーススタディや自らの着眼点から、研究計画書作成、調査、分析、考察、公表までの研究プロセスに必要な基礎的知識を教授する。

到達目標

- 研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークを通して理論的推論を発達させる。
- 研究的着眼点から研究デザインを決定し、研究計画書を作成できる。
- 研究論文を作成し、成果を発表できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	助産学研究の基礎
第 2 回	助産学研究における倫理
第 3 回	文献クリティーク ①
第 4 回	文献クリティーク ②
第 5 回	文献検索・文献検討 ①
第 6 回	文献検索・文献検討 ②
第 7 回	研究計画書の立案 ①
第 8 回	研究計画書の立案 ②
第 9 回	事例研究の分析・展開 ①
第10回	事例研究の分析・展開 ②
第11回	事例研究の分析・展開 ③
第12回	研究論文作成 ①
第13回	研究論文作成 ②
第14回	研究発表 ①
第15回	研究発表 ②

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 3,4,9～11 回
 実習・フィールドワーク…第 5,6 回
 プレゼンテーション…第 14,15 回

成績評価方法	成果物 100%		
教科書	適宜資料を配布		
参考文献	『新版 わかりやすいケーススタディの進め方 テーマの決め方からレポートの作成・発表まで』松本 孚(照林社)看護における研究 第 2 版南裕子・野嶋佐由美 編日本看護協会出版会南裕子・野嶋佐由美 編		
事前学習(内容・時間)	研究テーマに関連する文献検索を行い、論文を読んでおく(1 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義で紹介する文献を次回講義までに読み、クリティークする(1 時間)		
フィードバックの方法	研究計画書ならびに研究論文作成は個別対応にて支援を行います		
備考	積極的に研究テーマに関連する文献検索を行い、クリティークしてください		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アーバンヘルステ論	日高 庸晴	講義	1 年次 後期	必修	1	15	JSP11108

科目の概要

思春期青年期の健康課題として、性感染症・HIV/AIDS といった性に関わること、違法ドラッグ・危険ドラッグなどの薬物に関することや児童虐待やメンタルヘルスなど、都市部在住の若年層に集中的に観測される健康課題・社会的課題がある。講義では多領域の知見と理論、実証データや事例を通じて、これらについて解説する。

到達目標

- 差別やスティグマに直面しがちな健康課題・社会的課題について、疫学的視点を持って説明できる。
- 実証研究によって示されるエビデンスやアクションリサーチなどの介入研究の取り組みの知見を通じて、考察を述べることができる。
- 都市部における健康教育の実施にあたって、研究デザイン構築のスキルを身に付けることができる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	イントロダクション
第 2 回	わが国の都市部における HIV/STI 感染リスク行動の現状
第 3 回	HIV/STI 感染予防のための健康教育の実践
第 4 回	性的指向・性自認・性別表現と健康課題 1
第 5 回	性的指向・性自認・性別表現と健康課題 2
第 6 回	都市部の若者における薬物使用の現状
第 7 回	子どもの虐待
第 8 回	性暴力被害の現状と支援

アクティブ・ラーニング

ディスカッション・ディベート…第 3 回(効果的な予防介入手法についてのディスカッション)

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%		
教科書	『LGBTQ+の健康レポート』日高 庸晴(医学書院)		
参考文献	適宜紹介します		
事前学習(内容・時間)	第 1 回イントロダクション・講義前のアナウンスに基づき、情報収集や予習をすること(2時間)		
事後学習(内容・時間)	随時指定する課題について、自分の考えをまとめる取り組みをすること(2時間)		
フィードバックの方法	講義時間中の意見交換等を踏まえ、適宜全体で講評します		
備考	講義中の私語・スマートフォンの使用等は厳禁とします		
オフィスアワー	UNIVERSALPASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アートとグリーフケア	中尾 幹子 坂下 裕子	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	15	JSP12201

科目の概要

女性の健康問題や周産期医療に携わる助産師にとって、グリーフケアは避けては通れないものである。助産師として対象者のグリーフに寄り添えるために、グリーフケアの基本的考え方、母親や家族へのグリーフケアのあり方について解説し、母親自ら行うグリーフワークや医療者自身のグリーフケアについて説明する。また、グリーフケアについて考えを深められるよう、自己の思いを言語化したり、他者の考えを聞くことを大切にしながら講義する。

到達目標

- グリーフケアの基本的な考え方、周産期のグリーフケアについて説明できる。
- 深刻な喪失に伴う様々な反応について説明できる。
- 対象者の心の揺れに寄り添うために必要な技能について説明できる。
- 周産期喪失の現状や支援について知り、家族の悲嘆へのケア、情報提供の在り方について考察できる。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	助産師とグリーフケア
第 2 回	グリーフケア概論
第 3 回	周産期のグリーフとグリーフケア
第 4 回	言語的グリーフケア グリーフカードの作成など
第 5 回	非言語的グリーフケア 産着の作成など
第 6 回	体験者の声と分析
第 7 回	グリーフワークプログラムの実践
第 8 回	「自身が考えるグリーフケア」についてのまとめ発表

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 4～6 回
ディスカッション・ディベート…第 7 回
プレゼンテーション…第 8 回

成績評価方法	定期試験(レポート) 100%		
教科書	『【第6版】助産学講座 5 助産診断・技術学 1』(医学書院)、『家族にとってのグリーフケア 医療の現場から考える』坂下ひろこ/編著(彩流社)		
参考文献	適宜、提示します		
事前学習(内容・時間)	事前配布資料や教科書の該当箇所を読んでおくこと(2 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を振り返り、自身の考えをまとめる(2 時間)		
フィードバックの方法	講義時間内に質問に答えます		
備考			
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	○	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ヨガ	南田 智子	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	15	JSP12202

科目の概要

本科目は妊娠期から乳児期の親子を支援するために、ヨガの呼吸法やポーズを取り入れながら、アタッチメントを育む方法とその背景となる知識を教授する。発達心理学の知識とカウンセリングの基礎について学び、母子支援の際の実践的な技能を教授する。科目終了時にはアタッチメント・ヨガ for マタニティ&ベビーインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得し、日本アタッチメント育児協会認定資格を取得することができる。

到達目標

- アタッチメント・ヨガに必要な発達心理学の基礎を理解し、説明できる。
- アタッチメント・ヨガに必要なカウンセリングの基礎について述べることができる。
- アタッチメント・ヨガのインストラクター資格取得に必要なスキルを修得する。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	アタッチメント理論
第 2 回	マタニティ アタッチメント
第 3 回	ベビー アタッチメント
第 4 回	アタッチメント・ヨガ 理論
第 5 回	アタッチメント・ヨガ 実技 マタニティ
第 6 回	アタッチメント・ヨガ 実技 ベビー
第 7 回	アタッチメント・ヨガ インストラクション企画
第 8 回	アタッチメント・ヨガ インストラクション演習

アクティブ・ラーニング

プレゼンテーション…第 8 回

成績評価方法	定期試験(筆記) 60% 定期試験(実技) 20% 定期試験(レポート) 20%		
教科書	『アタッチメント・ヨガ』『アタッチメント・ヨガ概論』(日本アタッチメント育児協会)		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	ストレッチをして臨みましょう。前回の講義内容を復習しておきましょう(2 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容の復習、実技の自己練習をしてください(2 時間)		
フィードバックの方法	質問については授業内に解説します。インストラクションについては実施後に評価コメントをします。		
備考	試験に合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。 ヨガをして、自分の心と身体に向き合う時間を楽しんでください。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探究できる能力
	○	△	○

授業科目	担当教員	授業形態	履修年次	必修/選択	単位数	時間数	科目ナンバー
アタッチメント・ベビーマッサージ	南田 智子	講義・演習	1 年次 後期	選択	1	15	JSP12203

科目の概要

本科目は、アタッチメント理論について理解し、ベビーマッサージが親と子供の非言語的コミュニケーションツールとして親子関係の形成に相互に有益であるかを学ぶことを目的とする。ベビーマッサージインストラクターの資格取得のために必要な、ベビーマッサージの意義や効用などの知識と基本的な手技について教授する。科目終了時にはアタッチメント・ベビーマッサージインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを習得し、日本アタッチメント育児協会認定資格を取得することができる。

到達目標

- 育児に役立つ発達心理学として発達段階の特性や発達に応じたかかわり方について説明できる。
- 根拠に基づいたベビーマッサージの理論を指摘できる。
- アタッチメント・ベビーマッサージのインストラクター資格取得に必要な知識とスキルを修得する。

授業内容

授業回数	授 業 計 画
第 1 回	アタッチメント理論
第 2 回	発達心理学
第 3 回	コフトワーク
第 4 回	アタッチメント・ベビーマッサージ理論
第 5 回	アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクション環境設定
第 6 回	インストラクションの実際
第 7 回	アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクション企画
第 8 回	アタッチメント・ベビーマッサージ インストラクション演習

アクティブ・ラーニング

グループワーク…第 3 回
プレゼンテーション…第 8 回

成績評価方法	定期試験(筆記) 80% 定期試験(実技) 20%		
教科書	『アタッチメント・ベビーマッサージ』(日本アタッチメント育児協会)		
参考文献	なし		
事前学習(内容・時間)	テキストの該当ページを読んでおくこと(2 時間)		
事後学習(内容・時間)	講義内容を復習し、実技の練習をすること(2 時間)		
フィードバックの方法	質問については授業内に解説します。インストラクションについては実施後に評価コメントをします。		
備考	試験に合格すると日本アタッチメント育児協会のインストラクター認定資格を申請できます。		
オフィスアワー	UNIVERSAL PASSPORT 教員スケジュール 参照		
ディプロマ・ポリシーに掲げる能力と授業の対応	1 グローバルな視点に立ち、時代のニーズに即応できる助産実践能力	2 他職種と連携・協働し、リーダーシップが取れる自立した母子保健活動の実践能力	3 専門知識・技術の発展向上を図る為の研究的姿勢、科学的根拠に基づいた助産ケアを探索できる能力
	○	△	○

2025年度 シラバス(授業計画)

編集・発行 宝塚大学 大学事務局 梅田事務部
〒530-0012
大阪市北区芝田一丁目13番16号
TEL 06-6376-0853
FAX 06-6373-4829
発行日 2025年4月1日